

HI 671-55



# 新小地理學序

外國之部



余曩ニ近世中地理學外國ノ部ヲ公ニシタリ、而シテ今復タ此書ヲ著ハセリ、是レ他ナシ、今回尋常中學校課程ノ改正アリ、隨テ地理科ノ程度モ、亦多少變更ヲ要スルモノ是レアルヲ以テナリ。

本書ノ編述上、著者ノ特ニ注意シタル諸點ハ、概子左ノ如シ、特ニ教師諸君ノ一讀ヲ煩ハス。

一、從來内外國ニテ刊行シタル中等教科用地理書ヲ見ルニ、其論述ノ順序、先ツ地理學總論ニ筆ヲ起シ、地球全躰上ヨリ、天文、地文、及人文ヲ總叙シ、次ニ各大州ノ總論ニ移リ、最後ニ各國ノ地理ヲ講述スルモノ多キカ如シ、余ノ前著、亦此順序ニ準據セリ、然レモ地理科教師ノ實驗談ニ徴スルモ、將タ余自身ノ實驗ニ從フモ、此順序ハ、大ニ中學初等級生徒ノ學力ニ適合セサルモノアリ、蓋シ直ニ世界總論、又ハ各大洲總論ヨリ始ムルハ、勢ヒ生徒ヲシテ一時ニ國土、山川、等ノ名稱ヲ記憶セシメ、併セテ其大躰ヲ概括セシメサルベカラズ、

序文



然ルニ此二事ハ、此程度ノ生徒ニ取リテ、共ニ至難ノ事トス、假令ヒ強テ一時ニ數多ノ地名ヲ記セシムルモ、其記憶全ク抽象的ナルヲ以テ、生徒毫モ趣味ヲ感セス、隨テ忽チ之ヲ遺忘スルヲ常トス。且ツ夫レ斯ノ如ク、假令ヒ地名ヲ記スルモ、未タ其國土ノ形勢、山川ノ状態ヲ知ラズ、何ソ能ク之ヲ概括スルヲ得ンヤ、大人尙且ツ之ヲ難ンズ、況ハンヤ此能力ノ未充分ニ發達セサル生徒ニ於テヤ。從來地理科ノ教授、功ヲ奏セサルモノ多キハ、之レガ教授ノ順序、或ハ宜シキヲ得サルニ職由セサルナキヤ、著名ノ之ヲ疑フコト久シ。以上ノ次第ナルヲ以テ、余ハ本書ニ於テハ、全ク普通ノ順序ヲ轉倒シ、先ツ各國誌ヨリ始メ、以テ各地ノ状態ヲ個々別々ニ論シ、而シテ後ニ各大洲ノ總論ニ及ビ、此ニ於テ列國ノ事ヲ概括シ、最後ニ世界總論ニ入りテ、諸大洲ノ事ヲ概括シ、以テ其局ヲ結ベリ、但シ、生徒ノ須ラク先ツ冒頭ニ知ルベキ諸項ハ、其事或ハ總論ニ屬スルモノアルモ、止ムヲ得ズ、成ル可ク簡單ニ之ヲ發端ニ記述セリ。右ノ順序タル、從來ノ因襲ニ違フヲ以テ、或ハ奇怪ノ感ヲ抱クモノアラン、ナレモ試ニ生徒ノ心意發達ノ順序ニ問ハ、思半ニ過クルモノア

ラン、殊ニ今回ノ中學課程ノ改正ニ據レハ、中學ニ入ル生徒ノ學力、大ニ低落シタルヲ以テ此新順序ノ適切ナルヲ、彌々明白ナリ、又輓近地學家ノ此順序ヲ可トスルモノアルヲ以テ、亦其非理ナラサルヲ知ルベシ。

一、各國誌論述ノ粗密、先後ハ、凡テ日本ヲ中心トシ、其遠近親疎ニ隨ヒテ、斟酌シタリ、例セハ、支那、朝鮮、魯領西比利亞、濠洲、其他南洋諸島ノ如キハ、最モ近クシテ、彼我ノ關係日ニ益繁多トナルベキヲ以テ、紙數ノ許ス限リハ、成ルベク其地貌、人文ヲ詳論セリ、然ルニ又英吉利、佛蘭西、日耳曼、魯西亞ノ如キハ、日本ヲ距ツルコト甚遠シト雖、其國力強大ニシテ、其一舉、一動モ、往々我邦ノ利害ニ關スルヲ少カラズ、且ツ其領土、間々我國ニ接近スルモノアリ、故ニ此等ノ諸國モ亦割合ニ之ヲ詳論セリ。

三、我國ニ於テ、今日殊ニ缺乏セル事ハ、生産、商業、及航海トス、而シテ將來我國ノ隆盛ヲ期セントセハ、先ツ此三事業ヲ振起セサルベカラズ、故ニ歐米兩洲ノ文明諸邦ヲ論スルニ當リテハ、其生産、商業、航海、等ノ隆替、消長セル所以ノ理因ヲ叙シ、以テ我ノ龜鑑トナスコト、今日ニ處シテ、最大切ノ一ヶ條ト信



スルナリ。去レハ、此等ノ事柄ハ、成ルベク此趣旨ヲ以テ之ヲ記述セリ。

四、山野、河湖、港灣、市町、等ハ、徒ラニ其名稱、位置、戸口ヲ記臆スルモ、將タ何ノ用ヲカナサン、其人事ニ及ホス所ノ利害、即チ之レニヨリテ、殖産、貿易、交通、等ニ被ラシムル影響如何ヲ究メ、是ニ於テ始メテ人生ヲ裨益スルモノト謂フベシ。故ニ本書ニ於テハ、地貌、河海、等ノ事ヲ記スルヤ、成ルベク、人生ト相連關シテ、之ヲ論述シタリ、尤モ特ニ奇異ナル地貌ノ如キハ、一ハ生徒ノ見聞ヲ廣メ、一ハ其興味ヲ發スルノ趣旨ヨリ、亦務メテ之ヲ採録セリ。

五、愛國ノ精神ニ富ムハ、我國民ノ特性ナリ、今回征清ノ一舉、之ヲ證スルニ餘アリ。然レモ、開國以來、日尙ホ淺キヲ以テ、往々固陋、狹隘ノ弊ヲ脱セサルモノアルガ如シ、故ニ此陋習ヲ排除シ、廣ク知見ヲ外國ニ求メ、遠ク海外ニ往來シ、親シク萬國ノ民ト交接シ、以テ彼我ノ事情ヲ較知シ、而シテ真正、強固ノ對外心ヲ養成スルハ、是レ我カ一大海國タル先天ノ特性ヲ發揮スルニ於テ、最必要トスル所ナリ。去レハ本書ニ於テハ此邊ニ向テ最注意ヲ加ヘタリ。

六、地理書ニ最モ大切ナルモノハ、地圖ニ若クハナシ、地圖ノ良否ハ、以テ地理書ノ價直ノ大半ヲ決スルモノトス、故ニ本書ノ附屬地圖ハ、左ニ掲クルガ如キ、地圖上最モ重要ノ個條ハ、大抵之ヲ具備セシメンコトヲ期セリ。

(一) 各大洲ノ地圖ハ、成ルベク同一ノ比例尺ニ據リ、彼レ此レ對照ニ便セリ、又東部亞細亞諸邦、南洋諸島、北亞米利加ノ大邦、布哇、等ノ地圖ハ、特ニ之ヲ加ヘタリ。

(二) 土地ノ高低ハ、彩色ノ濃淡ヲ以テ、一目瞭然タラシメタリ。

(三) 著名ナル山岳、又ハ山脈ハ、大抵數字ヲ以テ其高サヲ記入セリ。

(四) 川流ハ、成ルベク之ヲ太ク描キ、一目判然タラシメ、又急流、瀑布ノ所在ニハ、(モ)ノ如キ記號ヲ附シ、船舶ノ航通スベキ極點ニハ、(常船)ノ如キ印ヲ附セリ。

(五) 沙漠、荒地、藪澤、等ハ成ルベク、之ヲ圖上ニ表ハセリ。

(六) 大都、名市、等ノミノ位置ヲ示シ、初等生徒ニ取リテ無用ナル小市邑ノ地名ハ、一切之ヲ省キ、生徒ヲシテ搜索ニ便ナラシメタリ。



(七)地圖上ノ文字ハ、成ルベク字格ヲ大ニシ、生徒ノ視力ヲ害セザル様注意  
シタリ。

七、地貌、生物、都市等ノ畫圖ハ無言ノ中ニ、其實況ヲ想察セシムルノ妙アリ、且  
ツ生徒ノ興味ヲ喚起スルノ効甚大ナリ、故ニ本書ニハ、特ニ數十個ノ密畫ヲ  
挿入セリ。

以上ハ、著者ガ特ニ此書ニ加ヘタル注意ノ一斑ナリ、然レモ著者ノ淺學、不才ナル、  
書中不備、誤脱ノ恐ナカラシヤ、幸ニ四方教師諸氏ノ指教ヲ被ラン、是レ著者ノ  
深ク冀望スル所ナリ。若シソレ幸ニ此書ニ由リテ、我國地理學教育ノ万一ヲ裨補  
スルコトヲ得バ、豈ニ獨リ著者ノ幸ナランヤ。聊カ本書編輯ノ趣旨及用意ヲ述ベ  
テ序言トス。

明治二十八年春三月

松 島 剛

### 世小地理學外國ノ部凡例

- 一書中度量衡等ノ用例ハ左ノ如シ此例ニ據ラサルモノハ各所ニ之ヲ説明ス
- 一里ハ、本邦陸里三十六町ナリ、○哩ハ、海里ニシテ、凡十六町九分七厘五毛ナ  
リ、○尋ハ、六尺ナリ。
- 一哩ハ、英吉利國ノマイルニシテ、凡十四町四十五間ナリ、○碼ハ、英吉利國ノ  
ヤルドニシテ、凡三尺○一分七厘○呎ハ、英吉利國ノフートニシテ、凡一尺○  
五厘八毛ナリ、○メートルハ、凡三尺三寸、ミリメートルハ、凡三厘三毛、○噸  
ハ、凡一千六百八十斤ナリ。
- 一山名ノ左側ニ記スル數字ハ、呎ナリ、○寒暖計ハ攝氏ニ據ル。



# 新地理學

外國之部

## 目錄

### 第一編 亞細亞洲誌

第一章 發端	一頁
第二章 亞細亞洲列國誌	五
(一) 亞細亞洲魯西亞	五
(二) 朝鮮	一五
(三) 支那	二二
(四) 安南	四〇
(五) 暹羅	四二
(六) 緬甸	四四
(七) 馬來半島	四六
(八) 印度	四七
(九) 阿富汗	五二
(十) ペルチスタン	五三
(十一) 波斯	五四
(十二) 亞拉比亞	五六
(十三) 亞細亞洲土耳其	五八



第三章 亞細亞總論.....六一

第二編 歐羅巴洲誌

第一章 發端.....七七

第二章 歐羅巴列國誌.....七九

(一) 歐羅巴土耳其.....七九

(二) ルーマニア、セルヴィア、モンテネグロ.....八二

(三) 希臘.....八三

(四) 奧地利、匈牙利.....八四

(五) 以太利.....八七

(六) 瑞 西.....八九

(七) 西班牙.....九一

(八) 葡萄牙.....九四

(九) 佛蘭西.....九五

(十) 白耳義.....九八

(十一) 和 蘭.....九九

(十二) 日耳曼.....一〇二

(十三) 丁 抹.....一〇五

(十四) 魯西亞.....一〇七  
(十五) 瑞典及那威.....一一二  
(十六) 英吉利.....一一四  
第三章 歐羅巴總論.....一二一

第三編 亞弗利加洲誌

第一章 發端.....一三三

第二章 亞弗利加地方誌.....一三四

(一) ナイル地方.....一三四

(二) 北亞弗利加.....一三七

(三) サハラ沙漠.....一三九

(四) 西亞弗利加.....一四〇

(五) 南亞弗利加.....一四二

(六) 東亞弗利加.....一四四

(七) 中央亞弗利加.....一四五

(八) 所屬諸島.....一四七

第三章 亞弗利加總論.....一四八



第四編 阿西亞尼亞洲誌

發端及各部誌

- (一) 馬來群島……………一五七
- (二) 濠太利亞細亞群島……………一六一
- (三) ポリネシア群島……………一七二

第五編 亞米利加洲誌

第一章 發端

一

第二章 北亞米利加列國誌

三

(一) グリーンランド……………三

三

(二) 加奈陀……………三

三

(三) ニューファウンドランド……………六

六

(四) 北米合衆國……………六

六

(五) 墨西哥……………一四

一四

(六) 中央亞米利加……………一六

一六

(七) 西印度諸島……………一八

一八

第三章 北亞米利加總論……………一九

一九

第六編 南亞米利加洲誌

第一章 發端

二七

第二章 南亞米利加列國誌……………二八

二八

(一) コロムビア……………二八

二八

(二) ヴェネズエラ……………二九

二九

(三) キアーナ……………三〇

三〇

(四) ブラジル……………三一

三一

(五) エリクエドル……………三三

三三

(六) 秘露……………三四

三四

(七) ポリーヴェア……………三六

三六

(八) 智利……………三七

三七

(九) アルゼンタイン……………三八

三八

(十) パラグリー……………三九

三九

(十一) ウルグリー……………四〇

四〇

第三章 南亞米利加總論……………四〇

四〇

第七編 世界總論

第一章 天文地理學……………四七

四七



第二章 地文地理學

五二

(一) 陸地

五二

(二) 海河

五七

(三) 氣象

六一

(四) 生物、礦物

六七

第三章 人文地理學

七三

(一) 人種

七三

(二) 言語

七五

(三) 宗教

七六

(四) 需要品、生業

七六

(五) 社會

七七

(六) 交通

七八

(七) 政略

八三

(八) 國勢

八四

附錄

世界重要產物表

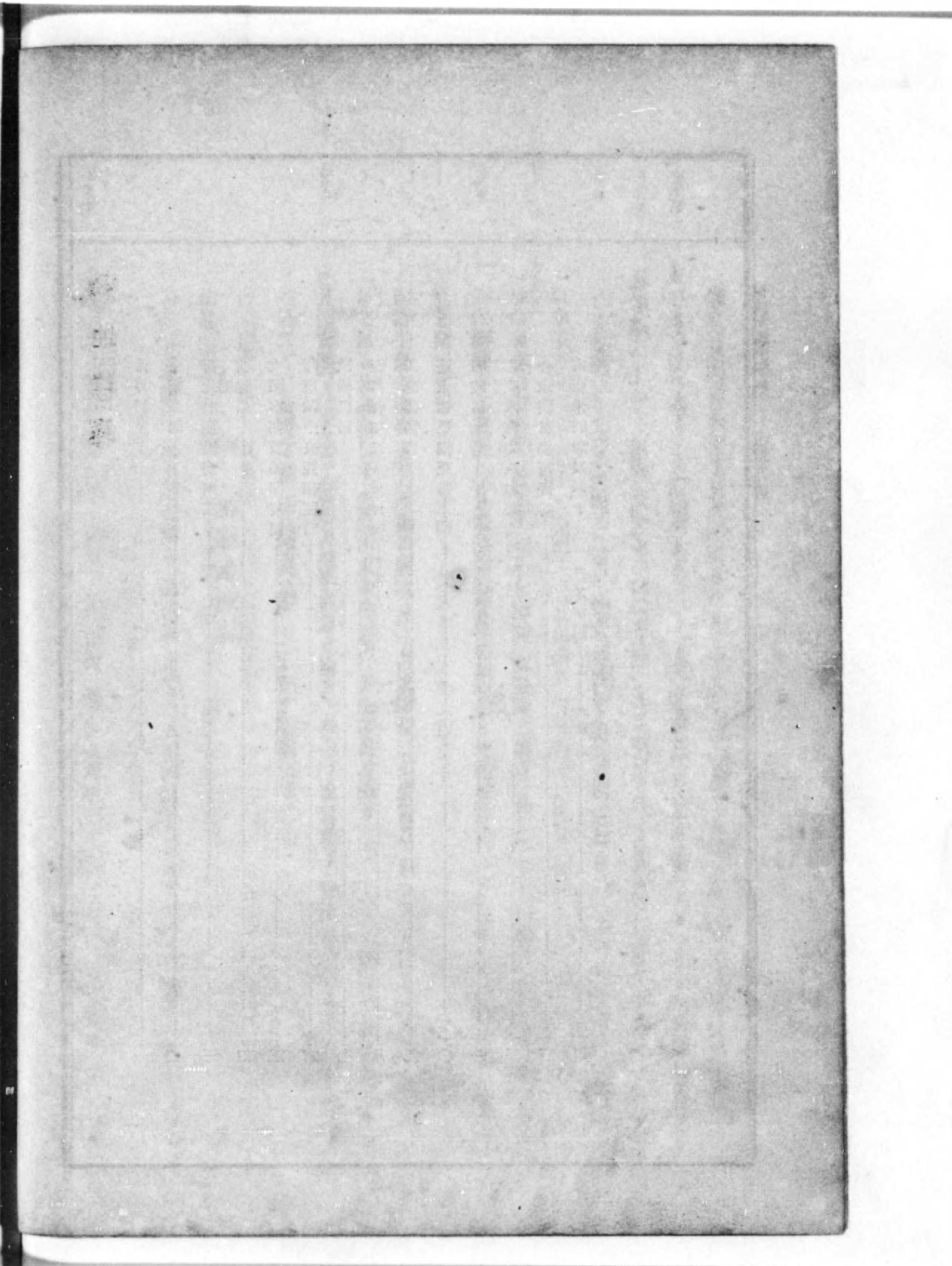
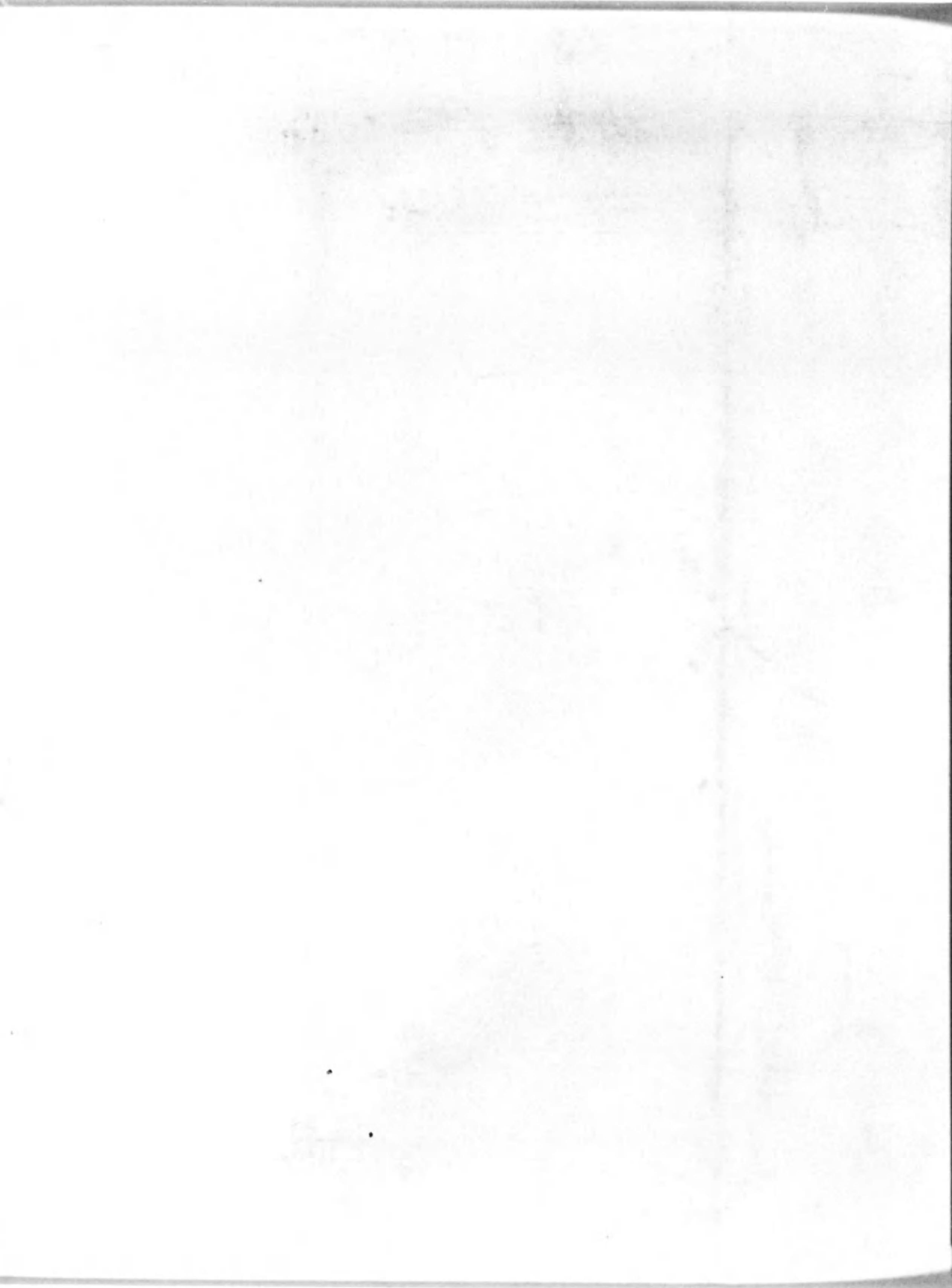
八九



地圖目錄

世界圖	一
亞細亞圖	二
西比利亞沿海州圖	三
朝鮮圖	四
支那本部及後印度圖	五
印度及中央亞細亞圖	六
歐羅巴圖	七
亞弗利加及スエズ圖	八
馬來群島圖	九
濠太利亞細亞圖	一〇
布哇圖	一一
北亞米利加及加奈太西部圖	一二
合衆國及墨西哥圖	一三
南亞米利加及パナマ、ニカラガ圖	一四







# 新地理學

外國之部

松島

剛著

## 第一編 亞細亞洲誌

### 第一章 發端

第一號及第二號地圖参照

(一) 廣袤 亞細亞洲は、其形四角なる巨大の陸にして、其東北端なる東岬より、其西端なる  
 ダルタチルス海峡に至るまで、凡六千哩あり、又其北端チエリユスキン岬より、其南端ローマ  
 ニア岬に至るまで、凡五千四百哩あり、其面積は、近傍諸島を併せて、凡一千七百万方哩にし  
 て、地球上陸地の三分一を占め、其大さ六六大洲に冠たり。

(二) 境界 北は、一帯北氷洋に臨み、西は、ウラル山脉、ウラル河、裏海、高加索山脉、黒海、マ  
 ルセトラ海、群島海、地中海、スエズ地峽、及紅海に界し、南は印度洋に面し、東は太平洋に接せ  
 り。

(三) 沿海 本洲の周圍に在る、海灣、海峡、半島、島嶼、等の重なるものは、大畧左の如し。  
 北氷洋 チービ灣は、此海岸に於ける、唯一の大灣なり、タイムル半島は、北端をチエリユ  
 スキン岬と稱し、本洲の極北なり、其東の群島は、新西比利亞と名け、海岸に岩礁散布し、人  
 煙なし、東端の半島は、チタチニス半島にして、其極東を東岬と稱し、北亞米利加洲と相

沿海  
北氷洋

境界

廣袤



太平洋

對し、其間に、ベ・リ・ン・グ海峽を挾めり、  
**太平洋** ベ・リ・ン・グ海峽の南を、ベ・リ・ン・グ海と稱し、北米洲のアリユ・シ・アン連島南を限  
 り、西の半島は、東・索・加にして、南に突出すると、六百哩、我千島列島に接近す。西の海部は、  
 コ・ツ・ク海にして、其又西の長島を、檀・太・島と稱し、島の西に、  
 粗水道あり、以て大陸と隔絶す。其以南の海は、吾々の熟知  
 する日本海にして、我本土列島を以て、太平洋と隔離せらる。  
 西に朝鮮半島突出し、其南は朝鮮海峽と稱し、九州島と此半  
 島を別てり。

朝鮮半島の南端より、西北の海は、近頃的大海戦にて最著名  
 とされる黄・海にして、西に山東半島、東に金州半島、斗出す。  
 其西を渤・海灣とす。黄・海の南を東・海と稱し、東南は我琉球  
 列島にて之を盡きり、南に臺・灣・島あり。西の臺・灣・海峽以南  
 は、南・海と稱し、其東南二方は、馬來群島中の、フ・リ・ッ・ピ・ン  
 諸島、ボルネオ島、スマ・ト・ラ島に限らる。西に安南半島突  
 出し、其北側は、東・京・灣と稱し、沛・南・島を抱き、其南側は、暹・羅・灣を成す。灣の西に長き陸舌  
 を出す、之を馬・來・半・島とし、其南端は、ロ・マ・ニア岬なり。

**印度洋** 馬來半島とスマ・ト・ラ島の間は、マ・ラ・カ海峽にして、是れ太平洋の領域より、印度



氷山の圖

印度洋



列國の名

國土の區劃

西方海部

洋に入るの門戸たり。其西は、ベンゴール灣にして、深く陸地に入る。西側の陸は、印度大  
 半島にして、其南端をコモリン岬と稱し、之に對する錫蘭島は、釋迦の垂跡地として、其名高  
 し。印度半島の西は、亞拉比亞海にして、其西北方深く陸地に入る海水を、波斯灣とす。灣  
 の西側は、亞拉比亞大半島なり。其南の彎曲部を、アードン灣と稱し、西のペーベルマンデ  
 プ海峽を過ぐれば、紅海に入る、其長さ大抵一千四百哩、幅二百哩あり。此海の西北端は、ス  
 エズ地峽と稱し、今は運河を掘り、大船の通行自由なり。

**西方海部** スエズ運河は、長さ大約八十哩あり、之を経て地中海に入る。其北際なる小亞細  
 亞半島の南に、サイプラス島あり。其西北方に、無數の島嶼點綴するは、群島海なり。東北  
 のダルダネルス海峽を過ぎて、マルモラ海に入り、更にコンスタンティノープル海峽を出  
 つれば、則ち黒海なり。

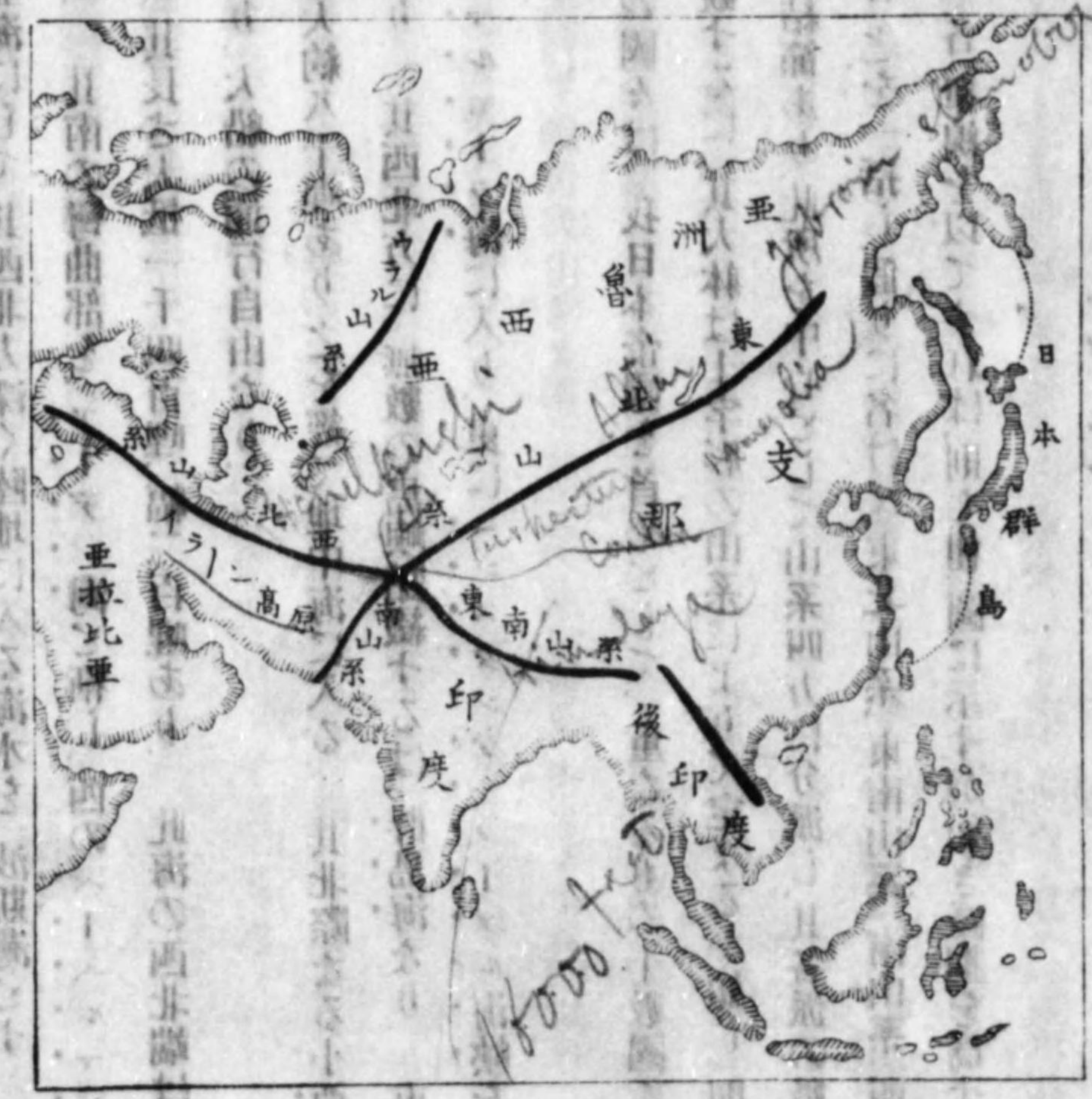
**(四)國土の區劃** 亞細亞洲の國々は、我日本帝國を首めとして、重なるもの十數國あり、  
 就中大陸に在るもの一國境を概観するに、其大體は十字形の山系によりて定まるが如し、即ち  
 印度半島の西北境に、本洲山系の結節あり、此所を中心として山系四方に分派し、其各派の數山  
 脈長く連れり。今便宜により、各之を一括し、假りに名けて、東北山系、東南山系、南山系、西北  
 山系となし、而して之を表はすに、各單線を以てすれば、則ち粗圖に示すが如き區劃を爲すべ  
 し。

亞細亞魯西亞は、東北山系の西北側に位し、支那及朝鮮は、東北山系と、東南山系の間に



在り、印度及後印度、安南、暹羅、緬甸は、東南山系と南山系の間に入り、イラン高原三邦（阿富汗、ベルチスタン、波斯）並に土耳其、亞拉比亞の二國は、西北山系と、南山系の間に位置せり。

本洲列國の境界は、大牀右に示したる、十字山系に由りて定まるものと謂ふべし、而して其各派に屬する山系、或は山脉の名稱、及其方向は、列國誌及總論に於て、漸次之を説明すべしと雖、宜しく先づ地圖（第二號）に就きて、其大牀を暗熟すべし。



十字山系地形圖

第二章 亞細亞列國誌

(位置等) 亞細亞魯西亞は、亞細亞の北部全牀を占め、東は太平洋に面し、海水を隔て、我日本と對す。其東西の長さ、大約三千六百哩、南北二千哩にして、其面積は、凡六百五十四万餘方哩あり、其廣さ亞細亞全洲の三分之一を占め、日本の四十六倍なり。

此國は分ちて西比利亞、中央亞細亞、及高加索の三部となし、西比利亞は、又之を小分して、數政區となす、其中、太平洋岸の政區を、沿海洲と稱す。此政區の一と雖、日本よりも大なるものあり。此國は、總て歐羅巴魯西亞の領地なり。

(海岸、沿海) 北氷洋の重なる灣は、西部にタイヒ灣（長さ殆五百哩）とエニセエ灣あり。其東にタイムル半島突出す。新西比利亞群島、其東北に位す、島中マンモスの化石骨多し、マンモスは、前代の獸にして、現今の象に似たり。北氷洋は、一年十ヶ月間氷結するを以て、交通の便利少なし。東北端のベering海峽と、ベering海へは、數、臘虎獵船の到るとあり。東案加半島は、南に突出すると六百餘哩、其地牀我千島列島と連絡せり。半島の西チヨクク海は、霧深く、浮氷多くして、世界中、最危險の海なり。其北岸は、曲折多く、中央にチヨクク市あり。西南のサガレン、即樺太島は、我國の樺太山系の連脉と知るべし。大陸との間は、韃靼水道といふ。

位置 區劃 北氷洋 太平洋 韃靼水道



此より以南の海岸は、朝鮮の國境に接する浦鹽斯德港に至るまで、巖濱にして彎曲少なし。浦鹽斯德は、彼得大帝灣内にあり、水深く、大船を容るべき、東洋の一要港にして、我北陸道と相對せり。

地勢  
山地

(地貌) 全地の地貌は、區別して、山地、平原、窪地の三部とす、乃ちリーナ河口より、西南ハルカーシ湖まで、一線を引けば、其東南二方は、大抵高地なり、即東海岸には、東塞加山系、スタノツァイ山系、シコタ山系あり、其西に、ヤプロノイ山系、アルタイ山系あり、而して黒龍リナ、エニセエ、チービの四大河、此等の山岳に起り、或は東に向ひ、或は西北に流る。此域内に、バイカル湖とて、長殆四百哩、深四千呎の大山湖あり、エニセエ河は此湖より發す、其外、ハルカーシ湖、イシクル湖等あり。又高加索も高地にして、高加索山系東西に連り、歐洲魯西亞に接せり。

平原  
窪地

次に、該線より西北方は、地勢漸く卑く、平原茫茫として、數大河の下流、其間を流れて、北洋に入れり。而して海濱より、凡北緯六十五度線までは、東部海岸と共に、卑濕の沼澤にして、其以南は、地勢漸く高くして、森林(凡幅三百哩)あり、又其以南は、耕地(全上)をなせり。然れども、北緯五十度以南に至れば、地勢復た漸く低去。右の平原より、愈西南内地に入れば、中央亞細亞の一部にして、地勢益々下り、アーラル海低地(沙漠)となり、裏海に向て、益傾き、殊に裏海の北岸、幅殆二百哩の間は、黒海面よりも卑し、而してシールダリア、アームダリア等の河流は、アーラル海に、ウラル河等は、裏海に注ぎ、何

沿海州

れも此地方の交通線路なり。

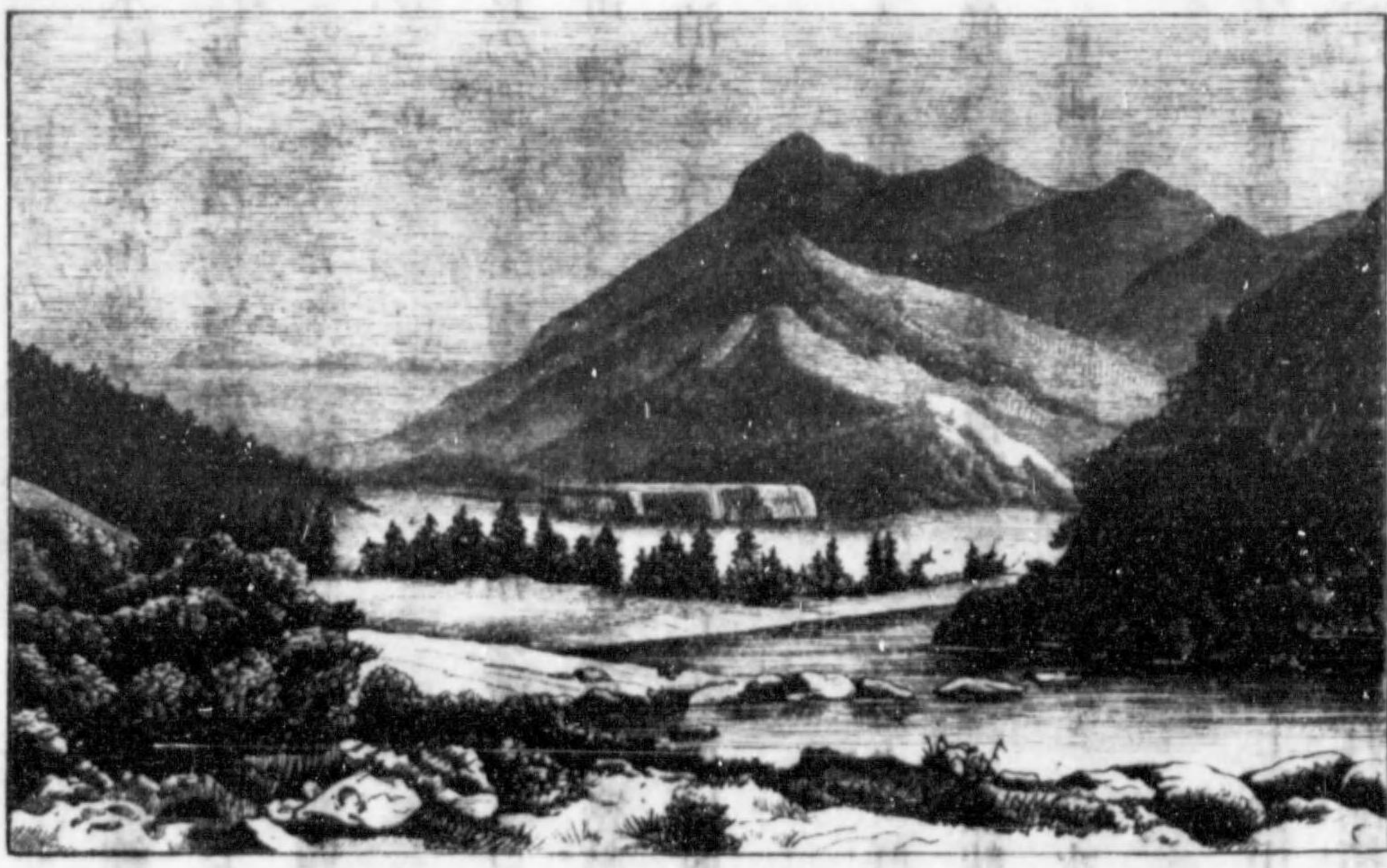
(沿海州) 沿海州(二號地圖)とは、南方朝鮮の境より、東海岸一帯沿海地方の總稱にして、東塞加半島、樺太島も此内にあり、故に特に其地理の主要を説くべし。此州は、長二千三百哩にして、七十三万方哩の面積を占め、其以西の地方とは、地貌等大に異なれり。

沿海州北部

北部は、チクタース半島と稱し、荒れたる高原にして、地表には、只矮樹、蘚苔の類を生ずるのみ。然れども、水陸共に禽獸多し。住民は、凡一万二三千人あり、身軀小にして、容貌、亞米利加之土人に類する所あり。内地の民は、馴鹿を飼養し、一万疋の鹿群を有する者少からず、又は狩獵を事とし、海濱の人は、漁業を營み、甚貧困なり。

東塞加半島

東塞加半島(第三地圖)の南端は、我千島列島の占守島と僅に七哩の千島海峡を隔つ。山脉は、脊骨の如く南北に走り、活火山數十座、中部以南にあり、高きは一萬五千呎に達す、是れ我千島帶火山脈の連脈なり、(日本の部火山脈參觀)、又溫



アタルイ山中の山岳



泉數多あり。銅、磁鐵、褐炭、琥珀、硫黃、花崗石、等の礦物に富む。最大河は、カムチアツカ河と稱し、河畔は肥沃にして人口多し。

此地の南端ローバトカ岬は、粗英吉利の國都ロンドンと同緯度なれども、氣候は大に異れり。半島の南部は、冬は殊に雪深く、夏は陰晴常なし、草木は特に火山地方に繁茂す。人口は總計凡五六千人あり。住民は身體強健にして、冬は地窖に住ひ、階梯にて出入し、夏は木舎に居る。旅行には橈に乗り、數犬をして之を拽かしむ、其養狗の法、甚巧なり。橈は一時間に能く四哩、乃至八哩を馳すべし。政廳は、東南岸灣のペートルバプロウスクにあり。

沿海州の中部は、(三號地圖) チユツク海に沿ふ狹長の地にして、南にウード川の流域を含む。全地山岳にして、高さ四千呎、乃至七千呎あり。山岳(殆半腹まで)及深谷は、落葉松の密林にて蔽ひ、其間に森林沼澤多し。此る荒野及海灣を漂泊する者は、唯土人のみにして、或は獸を逐ひ、或は魚を漁して生を營めり。

沿海州南部 (三號地圖) 則ち將來最我國に關係すべき部分ならん。北はシアンタル群島より、西南黒龍江と烏蘇里河の合流點まで、地勢漸く低く、高さ大抵五百呎に足らず。黒龍江は、此低地にて東北に轉向し、海岸山脉の麓を流る。其西岸は大小無數の沼湖に續き、洪水の時は、氾濫甚し。

黒龍、烏蘇里、兩河の東岸山脉は、シユタ山脉と云ひ、其最高點は、五千呎以上に達し、山中は、密林茂りて、通過すべからず。黒龍江畔の低地、並に江中無數の島嶼も、草萊に蔽はれ、開拓困難なり。

河水には魚族群をなし、殊に毎年八月は、鮭の昇り來ると夥し。沿海州の最良部は、其南端と、南海岸の灣濱なり。然れども、此地方とても、氣候甚酷烈なり、其故は此海岸はリマン寒流に接する等のため、冬は寒むく、夏は雨多ければなり。故に浦鹽斯德港も、毎年氷結すると、殆三ヶ月に至る。

さて黒龍江口より二十三哩にして、其左岸には、ライウスク市あり、近頃まで沿海州の首府なりしが、交通不便のため、今は其政廳をカバロウカ府に移せり、此府は黒龍、烏蘇里、兩河の會合地にあり。兩府の間なる黒龍江上に、數多の殖民住居す。カバロウカ府には、軍人及官吏の外、凡七百人の定住者あり、毛皮の賣買、頗る盛なり。日本人の在留者七十二名あり。

カバロウカ府より、浦鹽斯德港に至る間にも、所々に殖民所あり、浦港は、港内甚廣く、太平洋に臨む魯西亞國の軍港なり。此港より、西比利亞を全通して、歐洲迄鐵道布設の計畫あり、目下東西二



黒龍江の地

沿海州の南端

カバロウカ府

浦鹽斯德港



樺太島

方より工事に着手し、東方は既に二百哩餘の線路成就せり、此鐵道全通するときは東洋の情況大に變化すべし。本港は人民凡四万二千、其中支那人及朝鮮人多し。支那人商權を専らにし、鹿角、海草、菌類を輸出す。我邦人の在留者凡九百五十人なり。我國の貿易事務官此に駐在す。本港は、横濱より九百十八哩を距つ。

樺太島は、一にサガレンとも稱す、其面積二万四千五百方哩なり。山脉は、北より南に走り、高さ三四千呎あり。北邊は地勢低く、乾燥にして、南方は林丘少からず、長河は二あり、其一はテムと云ひ、河畔は荒野にして、唯漁人及獵夫の住居に適するのみ。氣候甚寒くして、大抵は密雲日光を遮り、又チョック海の寒流と東北風を受け、夏は氷塊の東岸に漂着するもの其數を知らず。全島密林を以て蔽ひ、有用の木材、鳥獸、少からず。川には、魚極めて多く、海は鱗貝に富めり。近年日本船の渡航して、漁業をなすもの、毎年七、八十隻、其漁利二十万圓の上に出つると云ふ。

現今の住民は、官吏軍人を除き凡一万八千にして、其中、日本人一百アイヌ人二千五百あり。アイヌ人は、島の南部に住居し、其狀態日本人の奴隸のごとし。日本人は、所々に殖民地を開き、アイヌを驅使して、魚貝を採り、又は海草を集めて之を輸出す。

抑も魯西亞人の始めて此島に定住せしは、今より凡三十六年前にして、其當時は島の南部は、尙我日本國に屬し居り、魯領と日本領との間には、低き堤を築き、此に各々其國旗を樹立せしが、其後明治八年(一千八百七十五年)に至り、我國は之を魯西亞に與へて、千島の幾島と交換せり。

西比利亞の氣候

爾後は、魯西亞の罪人殖民地となり、年々此に送遣せらるる囚人少なからず。コルサコフ港には日本の領事駐在せり。

(氣候) 西比利亞の氣候は、南部にても、極めて酷なり、(二號地圖) 夏は空氣乾き、雲日光を遮らず、太陽長く地上を温むるを以て、晝間は温暖なり、然れども、冬は十月より二月に至るまで、寒氣酷しく、諸川底まで氷結し、南部にても、地中の氷結すると數呎に至る。此嚴寒を防禦せんとせば、二重毛皮の衣服を着するの外なし。浦鹽斯德の平均溫度は、一月攝氏零點下十六度、八月は十九度八分なり。降雪は、高地、殊にバイカル湖邊に甚多しと雖、アルタイ山及バイカル湖以東の草原は、降雪甚薄く、旅人は輪車を用ひ、家畜は牧草を喫するを得べし。

中央亞細亞の氣候は、亦嚴酷にして、降雨甚寡く、荒野は夏日一滴の雨もなきとあり。然れども、概して西比利亞よりも溫和にして、灌溉よき地は、煙草、綿花、桑樹、菓實の類を産す。

(人民) 亞細亞魯西亞の人口は、一千七百七十萬餘あり、每方哩三人に足らず。全土總て人口稀薄なれども、中央亞細亞は、稍多し。土人は黃人種にして、各地多少の異同あり。西比利亞の住民は、多くは漁獵を事とし、或は水草を逐て轉居する遊牧族にして、其他は歐洲魯西亞の官人、殖民、及罪人とす。中央亞細亞の住民は、大抵土人にして、歐洲魯西亞人は、商業軍事のために駐在するのみ。

歐洲魯西亞人は、皆基督教を奉ずれども、支那の國境には、佛法行はれ、澤地の土人は、衆神教を信せり。中央亞細亞には、回教廣く行はる、西比利亞の大市街には、男女學校の設あれども、

人口 人種 民情 宗教

中央亞細亞氣候



東部の都邑

西部の都邑

中央亞細亞の都邑

農産

其程度甚低く、又教育普及せず、然れども、亦大學を立んとするの計畫あり。  
 (都府) 西比利亞東部には、(二號地圖) 東岸の浦鹽斯德港、チョコック港、バイカル湖邊のイルクツク府(人口四万七千にして南東北三方の要路なり)、等あり。西部には、チャービ河上のトムスク府(三万六千)、イールタイシ、河畔のトボルスク府(人口二万一千)あり。トボルスク府は、古來有名の貿易場にして、西比利亞の隊商と、歐洲の商人と賣買取引する所なり。

中央亞細亞には、イールタイシ、河畔のナムスク府(人口三万八千)西土耳其斯坦地方の首府ターシケンド(人口十二万一千餘、其緯度粗日本の青森地方と同じ)、サマルカンド(三万二千)、其他ホッカ(十萬)等あり。就中ターシケンドは、貿易の中心にして、四方の貨物、多く此に集り、歐洲の商品と交易す。

(産物) (農産) 西比利亞の西部は、(二號地圖) 東部よりも、地味肥へ、人口も多く、其住民の十分九は農人なり。然れども、農業の進みたるは、



浦鹽斯德港

畜産

僅に南部地方のみ、南部の産物は、穀物、馬鈴薯、洋葱、甘瓜の類なり。菓實、葡萄は、東部ウーソリー河の肥地に産す。中央亞細亞は、河谷に、煙草、綿花、桑、及菓物の産出少なからず。  
 (畜産) 牧畜は、西比利亞の西部と、南部に最盛にして、西部には、羊多し。東部にも、牧畜あれども、寒氣のため、人工にて、畜舎を煖むるを要す。又北部には、馴鹿、狗(カムチャツカ)を多く飼養す。中央亞細亞は、東南に山多けれども、其他は沙漠、荒野にして、駱駝、牛、馬、羊等の牧養盛なり。

林産

(林産) 大森林は、西比利亞の東部及中部にあり、杉、樅、落葉松、白楊、等多し。(水産) 漁業は、東海岸及諸河流に盛なり。獸獵も重要な生業なれども、其法宜を得ざるを以て、獸種漸く減せんとす。(鑛産) 西比利亞は、ウラル山の東坂に鑛物あり。又アルタイ山、バイカル湖東の諸鑛山あり、其採掘には、多く犯罪人を用ゆ。重なる鑛物は、金、銀、白銀、石炭、鐵、鉛、銅等なり。人口稀薄にして、運輸不便なるがため、此事業未發達せず。又北部の氷結地には、化石象牙の埋没せる者多し、蓋世界象牙の三分一は、此地より出つるといふ。

工産

(工産) 西比利亞の製造業は、鞣柔、製脂、蒸溜、煉瓦、及冶金を重なるものとす。各種の織物業は、南部に少からず。中央亞細亞には、亦舗物、鞣柔の産あり。

水路

(交通) 西比利亞の諸川は、(二號地圖) 其本支の諸源、相近きを以て、交通便なり、例せば、エニセエ河とアンガラ川に於る、松花江の黒龍江に於るが如し。故に此諸河は、東西の交通を助くると少からず。西比利亞諸川を航通する汽船の數百三十餘あり、唯不便と云ふべきは、毎



年數ヶ月間、河水の氷結するとこれなり。  
又中央亞細亞に於ては、裏海よりアーラル海、シールダリア河、アムダリア河の下流には、流船の上下するあり。又太平洋沿岸諸港は、毎年氷結すると數月間なれども、浦鹽斯德の如きは、既に定期の便船あり。

東西の交通を便する大道路二あり、一はウラル河畔より、支那の西境に達する者、一はウラル山の東側より、イルクツク及太平洋海岸に通ずる者、是なり。

郵便、電信の二線路は、總て西比利亞の大都府を連絡し、支那及中央亞細亞にも通信自由なり。又鐵道はバーム(歐洲魯西亞の東部)よりテューメンに、裏海よりメルヴを経て、サマールカンドに達せり。此他、ウースリー線既に二百哩餘成り、遂に西比利亞全地を貫通せんとするの計畫なり。

(貿易) 右の如く、交通甚不便ならざるに似たれども、抑西比利亞の地たる、境域廣大に過ぎ、内地の各都邑、互に隔つると甚しきと、人口稀なると、氣候の嚴酷なるとのため、其商賣、貿易、振はず、殊に外國貿易は尤甚し。此地の大貿易は、主として、歐洲魯西亞の商賣、及商社之をなせり。

キアクタは、古來魯支兩國間の、重要貿易地にして、毎年此に集る商賈は、二万人、貨物は七万の家畜を以て、之を運輸すといふ、其貨物の中、茶(全價額の百分の七十)、大黃、麝香、絹布、磁器は、支那より來り、衣服、金屬具、化石、象牙、等は魯西亞人之を携來る。中央亞細亞の貿易は、隊

道路  
郵電  
鐵道  
西比利亞の貿易  
中央亞細亞の貿易

商主として之を行ひ、ターシケンドは、重なる貿易場なり、(六號圖參照)

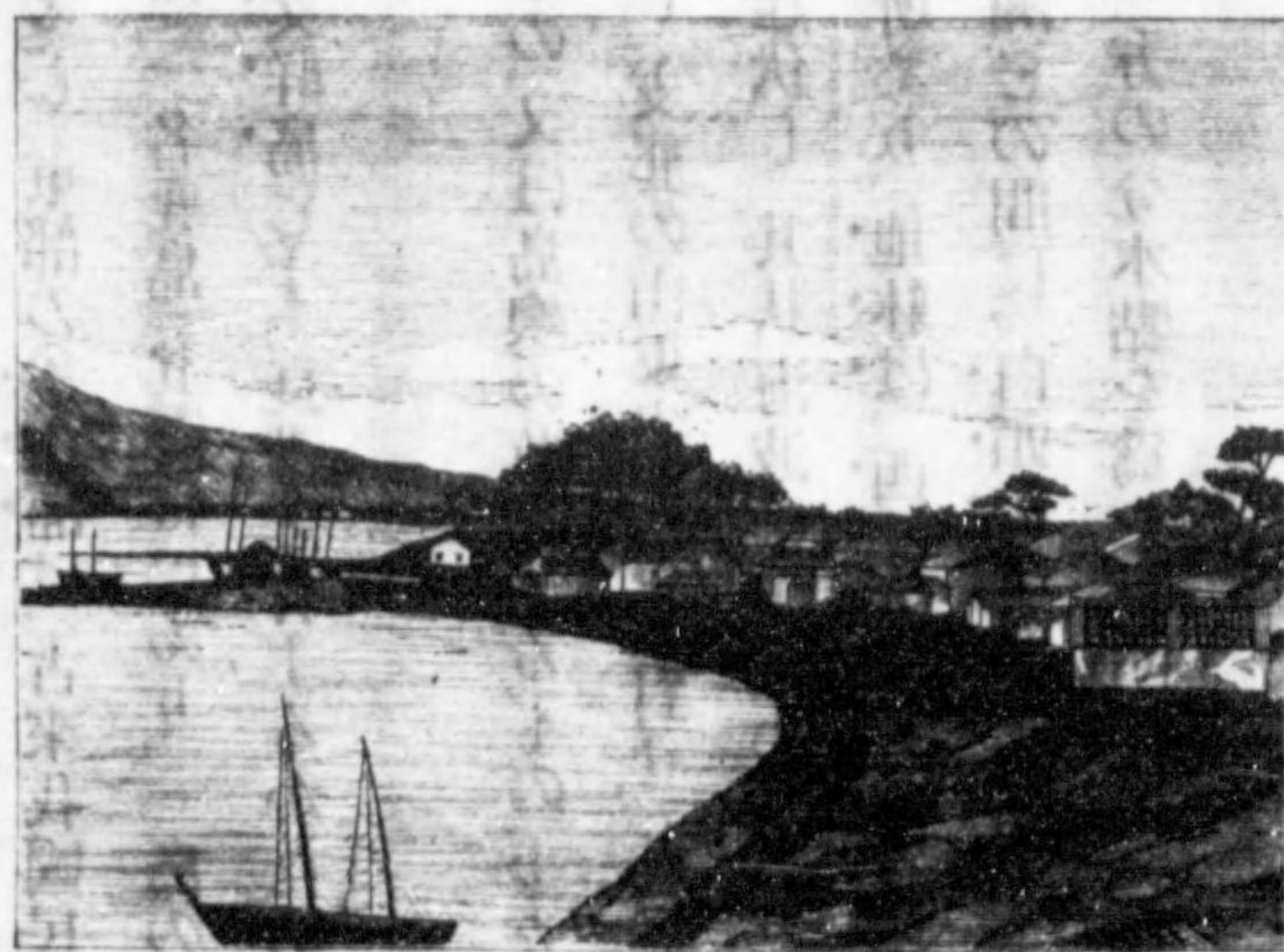
輸出品の、歐羅巴に送らるる者は、獸皮、獸毛、鯨油、鳥毛、化石、象牙、金屬、等にして、支那人に賣らんがため、歐洲より輸入するものは、葡萄酒、珈琲、砂糖、香料、其他種々の製作品なり。

(政治) 西比利亞の政區は、大守之を管治す、而して沿海州の大守は、カハロウカに駐在せり。又中央亞細亞の管治首府はターシケンドなり。

亞細亞魯西亞の陸軍は戰時凡十三万人なり、其中東部西比利亞の兵員は凡四万五千とす。

(二)朝鮮 第二及第四號地圖參照

(位置、面積、等) 朝鮮半島は、長さ四百六十哩、幅の廣き所百三十五哩なり。北は長白山、及鴨綠、圖們の二江を以て、支那の滿洲、及魯領沿海州と境し、他の三方は日本海と黃海を介して、日本及支那と相對せり、故に、朝鮮國は古來我國と密接の關係あるのみならず、東洋に於て、頗る大切の位置を占めたり。全國の面積、八萬二千方哩にして、其大さ、大抵我國の半強なり。人口、凡一千五十三萬にして、一方哩に百二十八人の割合なり。



釜山港

亞の貿易  
輸出入品  
政治  
軍備  
位置  
面積



區劃

國內を分割して八道となす。其中、咸鏡道、江原道、慶尙道、の三道は、日本海に面し、他の五道、平安道、黃海道、京畿道、忠清道、全羅道は、半島の西側に位し、黃海に臨めり。

東海岸

(沿海) 東海岸の中央に永興灣あり、其内の港を元山港とす。概して、東海岸は岩礁多し、

南海岸

雖、所々に沙濱あり、南海岸は、曲折出入稍繁く、島嶼亦多し、東部の釜山浦は、古來我國民と

通商の地にして、港廣く水深く、大船を容るべし。絶影島(一名鹿島)其灣口にあり、島の大

なるは、巨濟、濟州の二なれども、航海上最大切なるは、巨文群島とす、良港を有するかためな

り、

西海岸

西海岸は、岬角、半島の斗出するもの、港灣の深入するもの、又は島嶼の散點するもの、少なか

らず、港の最著名なるを仁川とす、京畿道の西海岸に位し、支那の山東半島と相對せり。

山岳

(地勢) 朝鮮は、甚しき山國にして、殆ど到處に、山丘起伏し、其狀、海波の、強風の爲めに動

くに似たり、山は樹木を以て蔽ひ、谷は往々地味肥沃の所あり、地味は、西より東の方へ次第

に高く、東海岸の山は、七千呎、乃至八千呎あり、北境滿洲との間に、白頭山屹立す、滿洲より

連直する長白山脈に屬し、高凡八千呎以上にして、東西北三方の分水點を爲し、圖們江及鴨綠江

此より東西に分流せり、

山脈

北境長白山脈より、山脈南に分派して半島を貫く之を小長白山脈とす、此山脈は、北境よ

り北緯三十七度線に達するまでは、東海岸に接して走れども、それより漸く西に向ひ、半島の

南端を斜に横きり、遂に黃海の濱に達して盡く、此山脈より、支脈左右に派出す、故に全國

中、平原と稱すべきものなし、但西方に一二の平地とも稱すべきものなきに非されども、實は低丘なり

北境の河

(河川) 此國は、河流の配置宜を得たり、先づ北境には、鴨綠、圖們の二大江あり、鴨綠江

は、源を白頭山に發し、始めは西北に向ひ、後に西南に轉し、河口三派に分れて、黃海の高麗灣に

入る、圖們江は、鴨綠江に比すれば甚短しと雖、其の支流多きを以て、其河口は幅凡七町餘あ

り、二江共に運漕の便あり、圖們江の外、日本海に入る川流多しと雖、記するに足るものなし、

唯り慶尙道の洛東江は、稍大なり、此川は、中央山脈の東に發し、南流して朝鮮海峽に注ぎ、其

河口我對馬島と相對せり、

西岸の河

西海に入る河流の中、錦江(忠清道)、漢江(京畿道)、大同江(平安道)の三個は、大流なり、就

中漢江は半島の中央を横流し、其支流は、隣道に縱横せり、其下流の北岸に京城あり、河口は

江華島を以て、二派に分たる、南口は船舶を通ずるも、北口は泥沙にて塞き、運漕便ならず、

(氣候) 氣候は、溫和ならず、冬は酷た寒く、夏は甚暑し、北部に於ては、河流の氷結六ヶ

月に及ぶとあり、南方と雖、雪久しく解けず、東西兩海岸の北部諸港は、氷結するもの少からず、

仁川より京城に到る、途中の漢江は、冬期氷結して、氷上を牛馬の往復すると珍からず、夏は、

日中は酷熱なれども、朝夕は清涼なり、仁川は、一二兩月の平均温度七度九、七八兩月の平均

三十五度七、釜山は、同五度六、同三十二度七、元山は、同九度、同三十四度三なり、夏季は、西



人種

國語

學事

族制

宗教

京城

(人種) 朝鮮人は、其容貌、膚色支那人よりも我國人に似たり。言語は一種の格を有せり、決して支那語より分派せしものにあらず。文字は十四の子韻で、十一の母韻より成り、之を綴りて辭を成すと、恰も我國の假名に似たり、而して文字の形は、我國の片假名に類せり、之を諺文と云ふ。教育ある者は、文學上及社會上、支那語を用ふるを常とす、其法律、通商條約、論文、誌銘は勿論、招牌の類に至るまで、皆支那字を以て書せり。

(學事) 學問は、朝野共に之を重んじ、政府の試験即ち科擧を経るにあらずれば、文武の官に任ぜらるゝと能はず。全國の書生は、其何れの地に學びたるを問はず、皆試験を受くるを得べし。其試験の證書に、二級の別あり、初試、進士、及第とす、然れども其實は貴族にあらざれば、高官に就くと能はず、又金錢を以て學位を購ふを得べし。

(族制) 人民は、兩班、中人、常人の別あり。從來は兩班のみ政權を恣にし、下民を壓制するを善しかりしが、今や我邦の保護、勸誘によりて、漸く此等の弊害を除かんことを計れり。婦女は、全く男子に隷屬し、恰も下婢の如し。且男女の別甚嚴にして、女は他人の目に觸るゝを大耻辱となし、多くは終生を隘室に送るといふ。人民多くは無智懶惰にして、業を勉むるもの少し。昔時は佛教を以て國教となせしが、今は孔子の教を國教となせり、但其細目は、支那の儒教と同じからず。然れども、下等人民は、多く佛教を信奉す。

(市府) 京城一名漢陽(又セウルと稱す)は、漢江の右岸に位し、四方強壁を繞らし、門を設くると、八個、守備嚴なり。市内の西北部に王宮あり。市街は人口稠密にして、民屋汚穢なり。

仁川

釜山

元山

我公使館及領事館、此に在り。人口凡三千万餘、日本人の在留者、八百二十三人、其他支那人、獨逸人、等凡七百人あり。此地の緯度は、粗我國の新潟と同じ。

(仁川) 港は、京城を距つると、僅に七里にして、西海岸に在り、明治十六年開港す、其以前は、一小漁村なりしが、今は繁昌の開港場となり、日本人の在留者、二千七百餘人にして、此に我領事館もあり。當港の、京城に於るは、恰も我國の横濱の、東京に於けるが如し。本港は、長崎より四百五十五哩の航路を距つ。

(釜山) 浦は、東南海岸に位し、最我國に接近する要港にして、港内廣く、能く大船を容るべし。元來當港は、往時對馬の國主宗氏と、通商の地にして、今は我邦人の、此に在留するもの、四千七百五十人にして、其過半は、對州人なりといふ。我國の領事此にも在留せり。本港は、長崎より百六十四哩を距つ。其緯度は、粗我國の名古屋に等し。

(元山) 津は、東北岸に在り、明治十二年、日韓貿易の爲めに開きたる互市場にして、人口一万あり、尙貧邑なれども、將來の繁榮を望むべし。蓋此地の四近は、地味肥沃にして、耕作よく行はれ、豆類、其他產物少からず。日本人の在留するもの、凡七百九十四人にして、此にも領事館あり。本港は、長崎より四百六十哩を距つ。



朝鮮風俗



平壤

平壤は京城を距つると五十里、大同江の北岸に位す、戸數凡一万餘、京城に次くの大都にして、其城郭は、江岸の斷崖、絶壁に據り、石壁高さ三丈餘、規模宏大、要害堅固なり、而して三方山を繞らし東南は一望十餘里、平野の耕地なり、明治廿七年九月十五日、皇軍清兵を此に圍み、忽ち之を陥れ、遂に之を朝鮮の境外に驅逐したる、近代著名の戰場なり。

右の外、著名の都會少からず、又豐太閔征韓のために、史上に有名なる古戰場多し。

(産物) (農産) 氣候寒冷にして、農産饒ならざれども、米、粟、大豆、小麥、裸麥、煙草、綿花、麻、人參の産出少なからず、此外、菓實少からざれども、其味宜しからず、(畜産) 土人多く豚、犬、牛、を飼ふ、犬肉は食料に供し、最も之を賞美す、綿羊、山羊は、特に政府のみ之を飼養す、これ

農産 畜産

祖先を祭るの犠牲に供するものなり、野獸中、虎多く、又熊、野猪、少からず。

林産

(林産) 國中森林多く、殊に北方は良材に富むの稱あり、(鑛産) 此國は、鑛物饒多なりとの評あり、金、銀、銅、鐵、石炭の鑛脈各地にありといふ、然れども鑛業未開けず、北地に於ては、深

鑛産

く地を掘らずして、金を得べく、又砂金を産する河流多し、然れども、金を採掘するとは嚴禁にして、今日市場に出づるは、河流より出づる砂金のみなり、銅坑も、大に之を鑿たず、銅は多

く日本より輸入す、石炭の用甚狭し、鐵鑛を産するの夥しき、大雨の後には、恰も均ひ取るを得るといふ。

(工業) 工業の進歩甚幼稚にして、見るに足るものなし、製造品中高位置を占むるものは、唯紙類のみ、其原料は、日本と同じく種々のものを使用せり。

工業

交通

(交通) 道路悪くして、交通不便なり、運輸は多く牛馬に由る、然れども、物品を運ぶには、

必らず牛を用ひ、馬を用ひずといふ、京城の外には、完全なる橋梁なく、又輪車を見ず、官員の爲めに驛馬の設あり、又把

撥(急使)歩撥(急飛脚)の法あり、八道の木船、大小殆六百隻ありといふ。

電信線は、京城より釜山を経て、我長崎に通ずるものと、京城より、仁川、平壤を通り、義州に至り、支那國線と連絡するものあり、又郵便法も、少く行はる、我郵船會社の定期航海船、各

港に出入す、次に此國特殊の通信法あり、是即烽燧にして、國內は毎夜諸峯に烽燧を擧げ、無異、又は事變を報告す、其數八道を通じて、三百六十五ヶ所、此他別間烽なるもの、二百六十九ヶ所あり

(貿易) 物品の賣買貿易は、主として市場を開きて之を行へり、然れども、通貨は彼の韓錢のみにして、他に金銀貨幣あらざるを以て、取引上甚不便なり、北部諸州に於ては、此韓錢すら、之を用ゐずして、物品交易のみ行はると云ふ、但近頃に至り、我邦人を聘して、貨幣の改良を計畫せしとあり、外國貿易は、日本、支那、魯西亞と爲すもの重

所あり

電信

貿易

交通

農産

畜産

林産

鑛産

工業

平壤



大同江を隔て、平壤を望む



要にして、其中、日本との貿易、全價格の百分の八十三餘を占めたり。其輸出品は、黃豆、米、人參、雜穀、生牛、牛皮、牛骨、等にして、輸入品は、金巾、寒冷紗、ケット、石油、米、砂糖、石炭、燐寸、陶磁器なり。

(政治) 朝鮮は、立君政治にして、國王政柄を掌握す。近頃の改革にて、總理大臣其他數大臣を置き、政事を爲さしむるとなれり、然れども今尙改革中にして百事未一定せざるか如し、又各道の長官を監司と稱し、行政及司法を掌る、水陸の軍備なきにあらざれども、多くは名のみにして、其實なしと云ふべし。

(三)支那

第二、第五、及第六號地圖参照

(位置・面積等) 支那帝國は、亞細亞洲の東南部に位し、五國と境を接し、東南方一帯は大平洋に臨み、我國を距つると遠からず、又遙に南洋諸島と相對す。其面積、凡四百二十九萬餘方哩にして、大約亞細亞洲の三分一を領し、歐羅巴洲の一倍半に當れり。人口は、四億二百六十八萬にして、世界人口の四分一強なり。

其全國境域の廣さは、南北凡そ千二百哩餘、東西凡三千二百哩餘あり。版圖の大きさは、英吉利、魯西亞二國に及ばざれども、人口に於ては、世界萬國中第一に位せり。支那帝國は、分ちて支那本部、滿洲、蒙古、伊犁、西藏の五部となす。此五部は、其地境各廣大にして、或は十數省に、或は數州に分割せり。就中支那本部は、左の十九省に區劃せり。

山東 直隸 河南 山西 陝西 甘肅 湖北 四川 貴州 湖南 江西 浙江 福建 廣東 廣西 雲南

北部支那 山東、直隸、河南、山西、陝西、甘肅、湖北、四川、貴州、湖南、江西、浙江、福建、廣東、廣西、雲南、支那の海岸は、其延長凡二千五百哩あり、(第五號地圖參照) 鴨綠江口以西、金州半島の沿海に、數島嶼散點す。西部に、大連灣及旅順口あり、旅順口は軍港にして、東西に砲臺を築き、守備嚴なりしが、明治廿七年十一月我皇軍之を略取せり。其以西は、渤海にして、東北部を遼東灣とし、西南部を直隸灣とす。遼東灣の遼河口を少しく上れば、營子口の條約港あり、歐洲人之を牛莊と稱す、人口凡六萬にして、外國人も居留す。北岸に、山海關あり。其西に白河の吐口あり、天津に通する要口なり。更に南して、黃河其水を放つ、海水爲めに暗黒なり。渤海の諸港は、冬期氷結すると、數月に及ぶとあり。其東口に數島嶼點綴せり。  
山東半島 一名登州半島、東に斗出すると凡二百四十哩、内地山岳起伏す。其北岸に芝罘あり、著名の要港なり。半島の東盡を山東角と稱す、山東角の西に威海衛あり、又半島の南岸に膠州灣あり、楊子江口に崇明島(地形平坦にして人口五十餘萬)あり。支那の最盛貿易場上海は、江南に位す。以上の沿海を稱して、黃海となす。



東海

南に錢塘江あり、舟山列島江口に散布す。更に南西岸に、福州港あり。(其東南の大島を臺灣とす、高山島中に亘り、高さ五千尺乃至一万尺、面積凡三千五百方哩、人口凡二百五十万あり、島中産物多く、就中砂糖と石炭多し、淡水、臺灣の二條約港あり。以上の沿海を東海と稱す。)

南海

臺灣海峡の西側に厦門港あり。一層西方には、最有名なる香港島あり。其北の廣東河口の貿易場を、廣東港とす、南岸に於て最盛なる開港なり。香港は英吉利の領地にして、商況最盛なり。其西の澳門は、今は大に衰へたり。西南の大島は瓊州島、一名沛南島と云ひ、島内地味肥沃にして、穀産、菓物、少からず、此近海は、夏季は暴風の憂あり。臺灣島以西、此に至るまでの海を、南海或は支那海とす。瓊州海峡の西は、即安南の東京灣なり。

地勢

(地貌) 支那全國の地勢を明にせんとせば、先づ國境を繞ぐる山脉、及國內に蟠る山脉を説かざるべからず、(第二號地圖参照) 西南境の大山脉は、ヒマラヤと稱し、西及西北を天山及アルタイとし、中央を崑崙とす。



図の河流水

ヒマラヤ山系

ヒマラヤ山系は、西藏の南境を劃し、殆二千哩の間に連なる、地球上最高の山脉にして、二万

アルタイ山系

四千呎を過ぐる高峰數十個あり。ヒマラヤ山系の西北端カラコラムの西をバミール高原とし、其れより、東東北に連なるは、即ち天山及アルタイの兩山系にして、國の西北境を限れり。アルタイ山系の一派は、東北に進み、ヤプロノイ山系と接続せり。是れ、支那の北境の山脉にして、二万呎以上の高峯あり。

崑崙山系

次に崑崙山系は、バミール高原より分派し、西藏高原の北境を沿ひ、青海の地方より、支那本部と、蒙古の間を、東北に走せ、興安嶺に接続し、終に滿洲と朝鮮の國界なる長白山脈に達せり。此山脉は、到る處其名稱同じからず、其高さ亦異なれり。

北嶺山脉

又崑崙山系の一派、東南に分派し、一は北嶺山脉、南嶺山脉となりて、支那本部を東西に貫き、一は南に折れて、安南、緬甸の國內に入れり。崑崙山系は、實に扇骨状を爲して、支那の東南部全面に充滿せり。

雲嶺山脉

北嶺山脉は、(第五號地圖参照)阿爾金山脈より分派し、黄河の水源と、揚子江の水源とを分界し、東に連亘して、支那本部に入り、各地其名稱を異にすれども、概して黄河と揚子江の間を、東西に走れり。崑崙山の一支部、エンカラ山脉より分派して、主に南南東に走する、數個の平行山脉あり、(第五號地圖参照)之を概稱して雲嶺と云ひ、中には、一万呎、乃至二万呎の高峯少からず、常に其氷河を、四周の豁谷に墜下す。平行の數河流(龍川江(イラウ)、ティール河の上流)、怒江(サルウィン



南嶺山脉

北嶺山脉

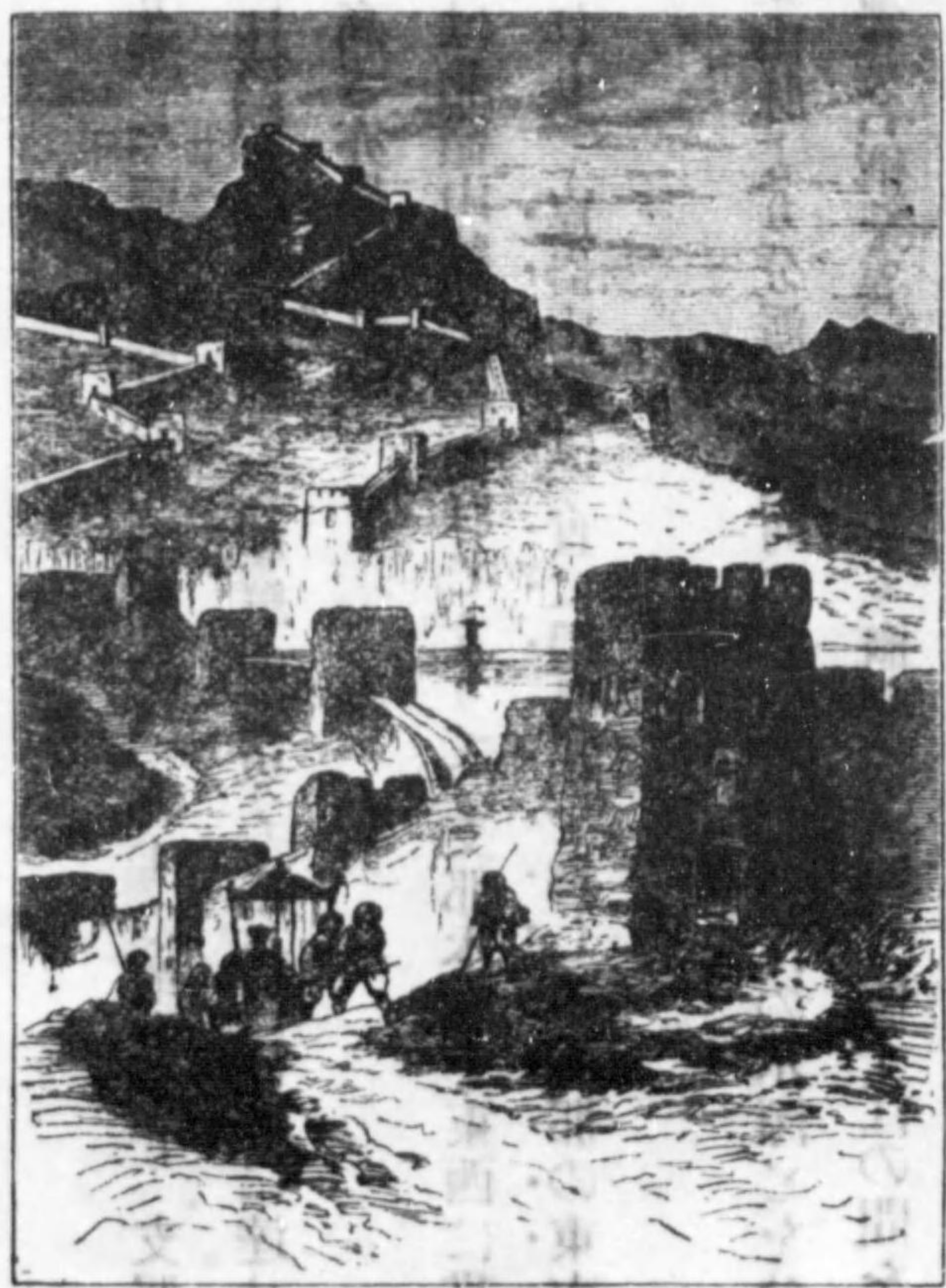
地勢の區別

長城

山城

河の上流、溟滄江（カムボリア河の上流）、金沙江（楊子江の上流）、鴨綠江、岷江、其縱谷を南走し、其河床は、八千呎より、一万呎の高地に位するものあり。

さて此平行山脉の一派は東に折れて、楊子江と西江の水域を分畫し、遂に東海に没し、復現はれて、舟山列島となるものは是れ南嶺山脉なり、（第五號地圖）南嶺山脉は、其東部に於ても、楊子江及西江の諸支流を介みて、山脊大抵相平行し、到る處に起伏し、各地其名稱を異にす。



萬里の長城

全國の山脉、此の如くなるを以て、全土を分ちて、山地、丘地、平地、の三部となすべし、（第二號地圖）山地とは、滿洲の北邊、蒙古、伊犁、西藏、並に支那本部の西北部、西半部、西南部を言ひ、丘地とは、楊子江以南なる支那本部の東南部を言ひ、平地とは所謂北京低原にして、楊子江及黄河下流の水域を含み、渤海の北岸より、長城を踰へて、滿洲沙漠に至る迄とす。此長城は、初め秦始皇の築造せし所にして、北京低原の運河と共に、支那の奇觀なり、直隸灣の北岸より起り、山谷を涉りて、甘肅の西部に達し、其長千四百哩あり、（第五號地圖参照）。

河湖

滿洲

人口

都府

（河湖）支那は、大國なれども、大河の全く其域内を灌溉するもの甚少し、（第二號地圖）、唯黄河と楊子江は、大陸相當の水域有り。其他東北の白河、南部の西江（下流を珠江といふ）の外は、皆邊境の河流なり。滿洲には、松花江、遼河あり。蒙古には、西比利亞大河の上流あり。伊犁には、イリ、タリムの兩河あり。又西藏には、サムボ河あり。諸河の狀況は、尙各部誌に記載すべし。

（滿洲）支那は、版圖廣大にして、各部の地理大に差あるを以て、左に各部の概況を記すべし、（第二號地圖）滿洲は國の東北に位し、其形鈎の如し、面積凡三十六万三千方哩、之を盛京、吉林、黒龍江の三省に分つ。北部と東部は、山岳多く、長白山脈、興安嶺起伏す。山の最高きは、吉林の東南部に於て、一万二千呎に達す。河流は、松花江、遼河を重なるものとす。松花江は、上流まで漁船を通ずべし、又遼河の下流に平原あり、彼の奉天府は此平原に位す。氣候は、寒暑共に烈しく、冬季四ヶ月は、河水氷結す。樹木多く、動物に富み、河流には、魚類、殊に鮭充満し、人民の常食となる。山地には、石炭、金、鐵、及寶石多く、平野は藍、阿片、及穀類を産す。

盛京省（第五號地圖）の盛京府（即奉天府）は、滿洲の首府にして、市街美麗、商店には内外の貨物多く、人口凡二十万あり。遼河口の牛莊、即營子口は、繁昌の開港なり。此他、吉林省の吉林府、等二三万以上の人口有る市街數個あり。又此地方は、地味肥沃にして、且礦物饒なるを以て、北部支那の溢民にして、此に移住する者多し。松花江畔の如き、農夫の殖民漸く増加し、滿洲人は大に減少せり。此地の人口は、總計七百五十万ありといふ。滿洲の南部は即ち日



蒙古

本軍の占領地なり

(蒙古) 蒙古は、(第二號地圖) 東南二方に、興安嶺と陰山の支脈蜿蜒し、北と西は、アルタイ山と天山に接せり。其地形大なる盆の如く、凹窪部は、即ちゴビの大沙漠にして、低卑の岩丘縱横し、間々平地を雜へ、只雜草と灌木を生ずるのみ。河流中、北山を穿ちて、黒龍江、又はエニセエ河に注ぐものあれども、他の灌木は、大抵此盆地を脱せずして、中央の無口湖に入る。要するに、ゴビ沙漠は、其高さ平均二千二百呎、乃至五千呎にして、其東部は、高山少なし。全部都て沙原にあらず、丘側には牧草乏しからず、西北には林地あり。夏季短くして甚暑く、冬長くして寒氣強し。山の麓は、雨雪多く、小邑部落あり。

蒙古人は帳幕に住ひ、北に於ては馬羊を牧し、南に於ては駝、山羊を飼ひ、水草を逐ふて遷移す。帳幕部落には、薪材少く、飲水乏し、故に冬日は乾燥せる畜糞を焚き、雪塊を融して飲料となす。人民は無智蒙昧なり。宗旨は西藏風の佛教にして、僧侶過多なり。ウルガ(庫倫)は、最大の都府にして、鎮營あり、四万の人口中僧侶其一万を占む。北境の賣買城は、魯領のキアクタと接近し、隊商貿易の中心なり(駱駝に由る)。全地の面積百九万二千方哩にして、人口百二十八万なり



人 洲 湖

人民

面積

伊犁

天山北路

天山南路

氣候

面積

(伊犁) 伊犁は、(第二號及第六號地圖) 蒙古の西南に位す、北にアルタイ山系、南に崑崙山系あり、中央に天山山系あり、全地を天山北路、天山南路の二區に分つ。面積五十五万餘方哩、人口百十八万あり。天山北路は、メンガリア、又は新疆とも名く、アルタイ山と天山の間の全地を占め、地勢東より西に傾く。此に數條の窪地帯あり、東西交通の要路を開けり、誠に天幸と云ふべし。伊犁河谷は即此窪地帯の一にして、其上流の河谷をクルジアと稱し、最豊饒なる地とす、此沃原には、嘗て大都、盛邑數多ありしが、今は荒廢せり。産物には米、小麥、菓物、綿あり。イラー河上のクルジア市は、人口數万あり。住民の半は、牧畜を業とす。人民は、佛教、或は回教に歸依す。

天山南路は、(第六號地圖) 回疆、又は東土耳其斯坦とも稱す、概して沙原にして、北西南の三方は、大山脈を繞らし、其高峯は二万八千呎に達する者あり、雪塊及氷河四方に融墜し、深流を成して、タリム河に入り、終にロフ泊に注ぐ、地勢恰も一の盆地の如し。其東方は、往時土地開け、邑驛ありて、支那本部及蒙古より、西方に到るの便道なりしが、東部ゴビ沙漠より、吹來る砂風のために、次第に耕地を埋め、盛都を没し、今は空しく遺址を存するのみ。

然れども、當地の西部は、タリム本支流の灌溉により、地味肥沃にして、樹木あり、又小麥、米、菓物、綿、絹糸を多く産す。崑崙山には、金、銀、銅、石炭、寶石、等の礦物餘あり。冬は河水、數ヶ月氷結すれども、夏は長くして暑し、山地の外降雨稀なり。住民は、土耳其斯坦語を用ひ、回教盛に行はる。若干の遊牧族あれども、亦首府カシガル、南市ヤールカンドの如き、四万人、



西藏

地勢

氣候

民情

支那本部

乃至八万人の大都あり、此に支那本部人民と、印度人の貿易盛なり、  
 (西藏) 西藏は、(第六號地圖) 崑崙山系と、ヒマラヤ山系の間に介する、地域を含む、其面積  
 七十三萬八千餘方哩、人口六百万あり、此地は、地球上最高の臺地にして、全土、海面上七方呎  
 若くは一万八千呎以上なり、地表は、次第に東方に傾けり、崑崙山の嶮峻は、北方より黄河水  
 域の低地に急斜し、西南二方は、一帯ヒマラヤ山系を以て塞き、東境は一二の山道を通すと雖、  
 雲嶺山脉高く聳へて、支那本部と界せり、楊子江、インダス河、及ブラマプートラ河(西藏のサ  
 ムガ河)の頭水、域内に在れども、他の灌水は、多く内地の無口群湖に注けり、  
 年中空氣極めて乾燥にして、酷寒甚長く、辛鹹湖と雖、毎年數ヶ月氷結す、森林皆無にして、  
 耕地乏しく、牛、馬、羊、山羊、等の家畜を以て主産とし、乳汁、牛酪は餘りあり、首都ラササ(東  
 南部)の地方は稍豊饒にして、住民多し、人民は、一種の言語を用ふ、宗教は、佛法の一派に  
 して、羅馬教と稱し、其大教長は、グランドラマと名け、ラササに住す、人民之れを生神として尊  
 信す、僧侶は、數多くして富裕なり、西藏人は、大抵商民にして、官吏並に和尙も、商業を營む  
 といふ、首都ラササには、外國商人多く住居し、百貨隣國より此に輻輳す、金、銀、羊毛、麝香  
 鹽を輸出し、磚茶、綿花、藍、毛布、等の輸入多し、  
 (支那本部) 支那本部は、(第五號地圖) 南北凡そ一千四百七十四哩、東西一千三百五十哩  
 あり、其面積は百五十四万六千方哩にして、全帝國の三分一に過ぎずと雖、其人口を算すれば、  
 三億八千六百万あり、隨て物産、貿易、工業、其他諸般の人事は勿論、有形上の事柄に於て、此

地勢

北京低原

二大河

部分は、國中、最貴重の地方とす、  
 本部の地勢は、西藏高原より、漸次東方に傾き、崑崙山の一派、分れて南嶺、北嶺と爲り、本部  
 を東西に貫き、楊子江、黄河を首め、白河、西江、等の河流、概ね亦此方向に流れて太平洋に朝  
 せり、大河畔、殊に楊子江の水域は、米、麥、茶の産出多く、  
 又兩大河の下流は、北京低原にして、一部三稜洲を成し、南  
 北七百哩、北京の北方より楊子江の南畔に達し、其幅百五十  
 哩、乃至五百哩あり、支那古來人事の興敗は實に此域内に起  
 れり、所謂中原とは即ち是れなり、  
 此三稜洲は地味肥沃にして、民口最繁く、支那の米廩と稱  
 せらる、其面積の増加すること速にして、沿海其深さを減  
 すること亦速なり、即ち年々凡一百呎づつ、海面を蠶食する  
 の割合なりといふ、其東なる山東半島の山嶽は、黄海を踰  
 へて、長白山に連なるものにして、山嶽中に彼の著名なる泰  
 山あり、  
 楊子江と黄河の本源は、俱に西部の高原に在り、只二者の間に崑崙山系の一派を介むのみに  
 て、相距ると遠からず、又其方向も要するに東にして、其河口亦相近し、但其中流は互に相距つ  
 ると甚遠し、



支那本部の貴婦人



黃河

黃河は、パエンカラ山の東に起り、東北に流れ、一旦長城を横きり、彎曲して大行山脉の西を南流し、伏牛山の北に於て俄然東折し、此に渭、洛の兩河を合せ、開封府を経て、直隸灣に注けり。開封府以下の河床は、中原の大平地にして、此に其河床を變したると、二千五百年間に、凡九回に及び、或は河水の山東半島の南方に注きしとあり。又此河は、年々氾濫の患あるを以て、兩岸に大堤を築きて、之を防禦す。然れども、河口には沙灘あり、且河邊は概して淺きを以て、航行の利少し、故に此河は支那の大患なり。

楊子江

楊子江は、西藏の山中に發源し、曲流すると、凡二千九百哩にして、黃海に注く、而して他の河流と同じく、到る處に其名を異にし、金沙江、大江、長江等種々の稱呼あり。本江は、數多の湖沼、及支流の水を受くるを以て、水量甚多く、航漕の利頗る大なり、殊に湖北省の宜昌府以下は、水勢亦緩徐にして、大流船を通ずると自由なり、其より上流も、急湍あるに拘はらず、能く船を行るべし。且支流にして、運輸の便利ある者少からず、殊に下流には、漢江の大支流、及洞庭鄱陽の兩大湖あり、又沿岸には、大都、名邑少からず。實に本河の水域は、支那本部の大部を占め、其地味の美なる、地球上に比類なく、其農産饒く、且つ煤田大なり。故に其民生を利する、黃河の遠く及ばざる所なり。加ふるに、下流は、大運河と通して、黃河及白河に連なり、終に國都北京に達すべし。要するに、楊子江並に黃河の水域は、南北兩嶺と共に、支那本部の大局を形成する者と謂ふべし。(以上は各部誌にして、以下は支那帝國全軀の事を述べ)

氣候

(氣候) 支那は、其版圖廣大にして、地勢一様ならざるを以て、其東西南北氣候の相異なる

其水域

其水域

雨量

と勿論なり、而して本部の外は、既に其大様を記したり。北京の温度は、一月零點下四度六、八月二四度六、にして、我札幌よりも寒暑少しく強し。上海は、一月三度五、八月二度七、にして、我大阪と粗同様なり。南部越の地方は、其氣候殆熱帯に類し、炎暑甚し。雨量は、北部は我北海道と等しく、中部は我廣島に類し、夏季には雨多くして、田園青々たり。南部は、暖候に於て雨量多く、又海岸地方は颶風の患あり、蓋年々我國を侵す颶風は、大抵支那海より起るものなり。内地は、往々旱魃の害を受くるとあり。

人種

(人民) 國の西部には、少數の白人種あり、然れども、人民の大半は、黃人種なり。支那本部の人は、儒教、佛教、道教を奉するもの多く、貴顯及官人は、一般に儒教を尊むの風あり。然れども、邊境の民は、回教、喇嘛教に歸するもの少からず。又基督教も漸く各地に傳播するの勢あり。

學事

此國は、古來學問を重するの風あり、官吏を登用するには、必らず先づ其學力を試験し、及第者を探るの法なり。然れども、徒に舊式を守り、詩文、經典、を試むるに過ぎず、但近年は、理學の一科を加ふるに至れり。本部の省、府、州、縣には、各學校の設あり、北京には、北京大學、等の高等學校あり。

民情

支那人は、勤勉、從順、節制、儉約の諸徳に富み、苟くも利のある所は、波濤も之を恐れず、艱難も之を避けざる風あり、年々外國に出稼する者甚多し。然れども、舊風、古俗を重んじ、新奇の事物を嫌ひ、愛國の精神甚乏し、又鴉片烟に耽る等の惡習あり。支那人は、群居を好むの性



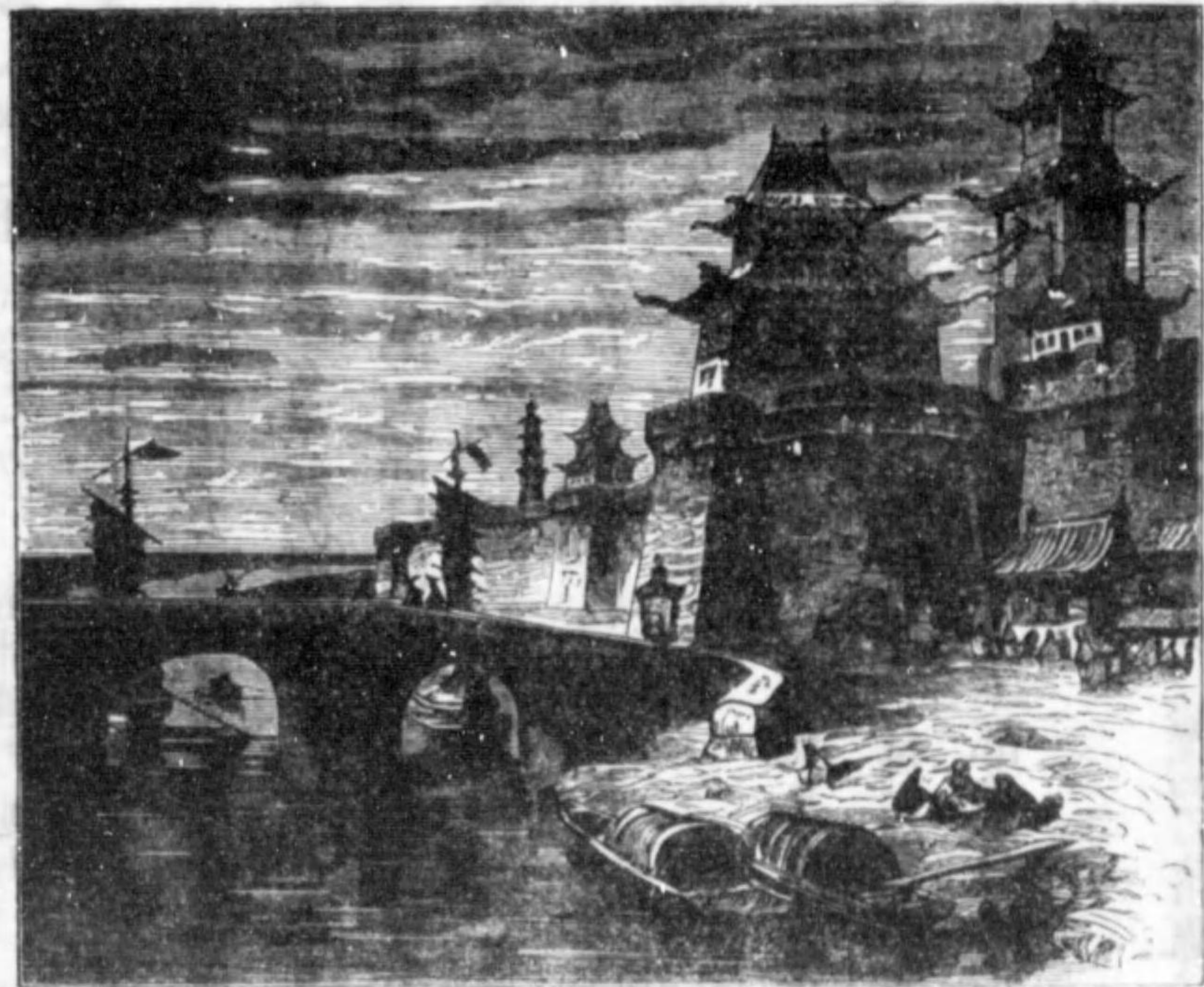
文化

あり、多くは都邑に住す、故に之を大都府の國と稱すべし

抑も、此國は、現今世界の最大國中、最古國にして、夙に文學開け、技藝進み、磁器、彫刻、火藥、紙

羅針盤、等の發明あり、又文人、學者の輩出せしもの、實に少からず、我國の如き、其文物、典章を採用したるは、著明の事なり、殊に我々の日用する漢字は、即支那の産物なり、

北 (都府) 國都北京は、周圍に城壁を繞らす、其周圍二十五哩あり、内城には、官衙、邸宅、等あり、市街は、多く外城に在り、當府は、四方の貨物、人馬輻輳の地にして、商況盛なれども、道路破れ、且汚穢甚しく、雨天には、泥濘歩すべからず、晴天には、塵雲人馬を没するに至る、(支那の都邑多くは之に類すると云ふ)、人口凡一百万なり、日本の在留者十二人、府内に、日本公使館あり、此府の緯



度は、粗、日本の盛岡と同じ。

天津

天津は、白河の岸に在り、白河口より陸路三十哩、水路六十八哩、京城を距つると、八十哩なり、

上海

此地は、四通八達の衢にして、陸は馬車に由りて、長城、蒙古、山西、等に通すべく、水は大運河の便利あり、南方に到るべし、人口凡九十五万あり、日本の在留者五十二人あり、日本の領事亦此に駐在す、此地は、長崎より八百二十哩の航路を距つ、

上海は、楊子江口の南方に位す、水運の便利甚よくして、當國の外國貿易は、過半此港に於て行はる、實に東洋の大貿易場なり、人口三十八万、外國人の居留するもの、三四千人、其中日本人八百六十餘人あり、民情勤儉にして、商業を重んじ、好く外國人と交はる、日本の領事館亦此に在り、我長崎を距つると、四百六十九哩、我國との交通盛なり、此地は、日本の大隅の南端と、粗其緯度を同じくす、

漢口

漢口は、楊子江と漢江との會流點に位し、上海を距つること、五百八十二哩、河水深くして、大船を泊すべし、下は漚船にて上海と交通し、上は楊子江を溯れば、上流の諸省に通すべく、又漢江を溯れば、西北の諸省に達すべく、其他諸省の貨物、此に来るもの甚多し、之を楊子江畔諸港の中、第一樞要の地となす、且其位置當國最富地方の中心に在るのみならず、内地の運輸半ば此に由るを以て、將來日本の貨物を販賣するに、最適當の要衝なり、人口八十万にして、四方の巨賈此に聚る、此より楊子江を溯ると三百六十哩にして、宜昌港あり、漚船を通すべし、

廣東

南海岸に於て、最も盛なる開港場は、廣東とす、珠江(西江の下流)の岸に位し、風色美なり、西北二方は、河流に由りて、南嶺以南の地方に通じ、南は、香港、澳門の兩港を距つる遠からず、内外の船舶常に埠頭に輻輳せり、我國亦此に領事廳を置く、抑此港は、支那沿海に於て、最舊



の外國貿易場なり。故に市民能く外情に通じ、商機に長せり。人口百六十萬あり。日本の在留者二十人。

香港は、珠江の口側にある、一小島の港にして、英國に屬す。廣東を距つると凡九十哩、東西の船舶此に寄泊するもの甚多く、東洋第一の碇泊場と稱せらる。人口凡二十二萬、日本人の在留者二百餘人、我國の横濱を距つると、一千五百九十哩なり。

自餘の諸港

右の外、當國の大都會、及開港の重なるは、福州(人口六十三萬)、寧波(人口二十五萬)、南京(當國の舊都なり、人口十五萬)、芝罘(人口三萬)等とす。開港は總て二十二ヶ所あり。

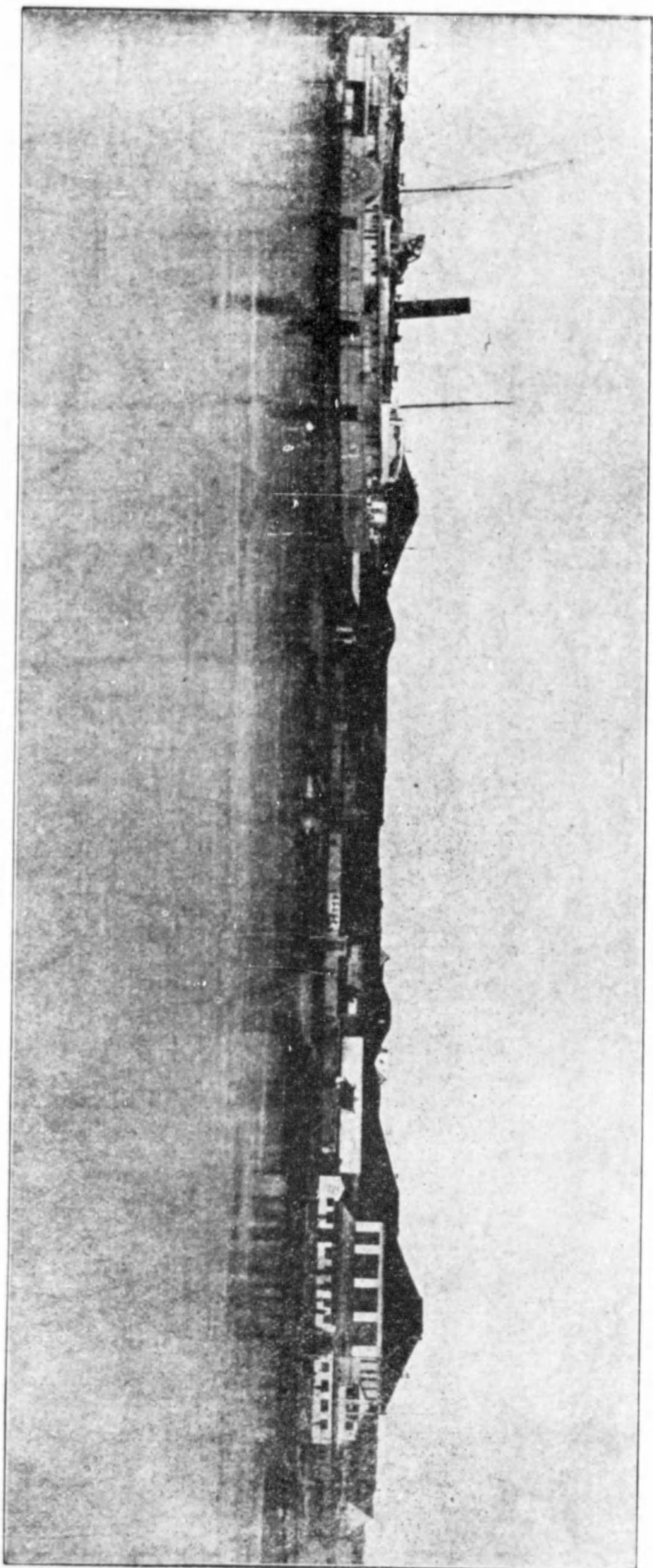
農産

(産物) (農産) 國民は、大半農業を營み、楊子江、黄河、下流の大沃原、其他河岸、湖畔の灌漑に便なる地方は勿論、苟も耕耘すべき所は丘陵山腹たりとも、寸地も之を餘さず、然れども、耕作法は、舊法を守り、改良を憚ばず。米、麥、豆、菓實、茶、綿花、煙草、砂糖、蠶絲等を重なる農産とす。製茶は、福建省に盛にして、磚茶は、北部支那に於て、貨幣に代用す。又養蠶は、殆每户之を事とし、生絲の産額年々甚多し、茶と生絲は、我國と同じく、當國第一の輸出品なり。又穀菜は、國民四億二百万人の食料なれば、其産額甚夥多なれども、運輸業開けざるが故、凶年には北部の民飢餓の爲めに斃るゝ者少からず。

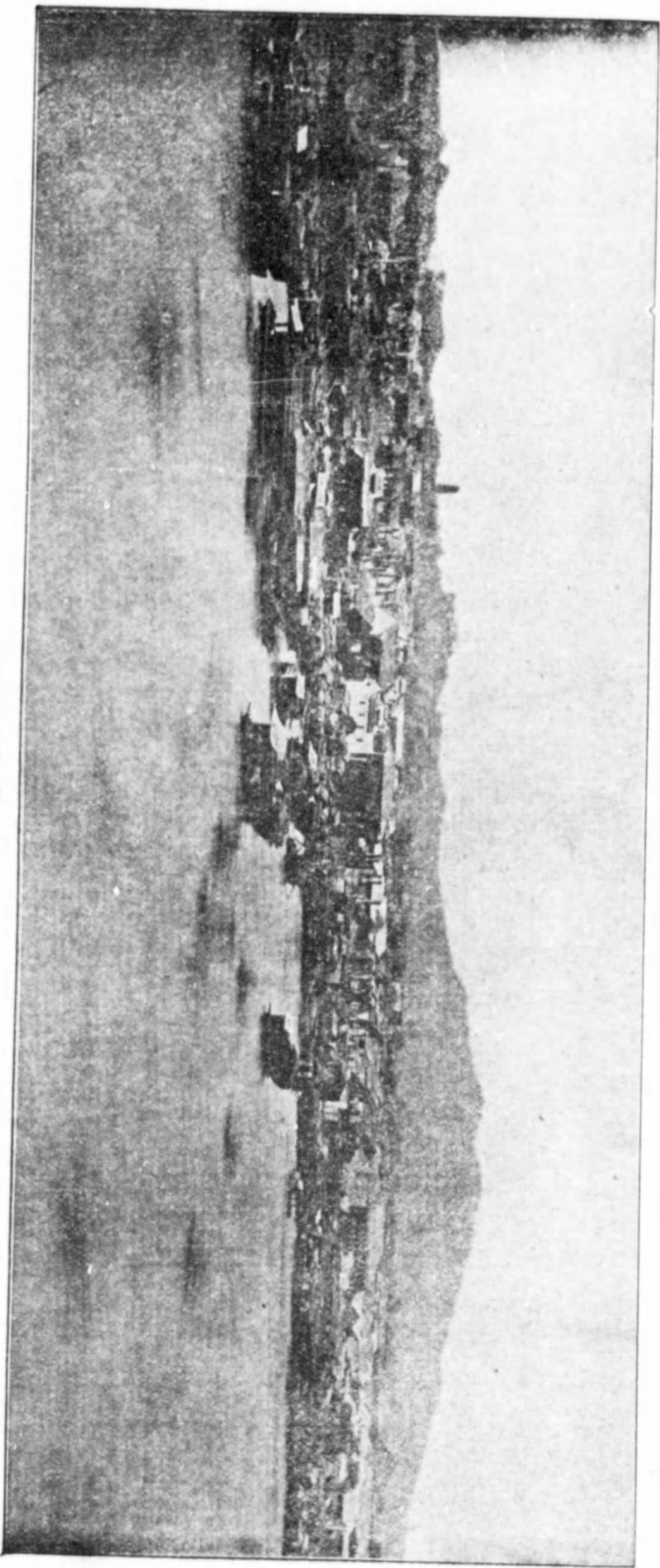
畜産

(畜産) 蒙古、西藏の地方は、牧畜を以て主要の生業となせども、支那本部に於ては、尋常の家畜多からず、是れ牧場少く、且つ肉食盛ならざるに因る、然れども、豚、水牛は、甚多く、又家禽の飼養も、盛なり。(漁業) 沿海及河湖は、漁業盛にして、魚貝は重要な食品なり。製鹽亦盛なり。

漁業



北京北口碼頭



遼東灣



林産

礦産

工業

道路

水路

り。

〔林産〕滿洲には、森林ありと雖、支那本部には山林甚だ乏しく、木材の價頗る貴し、故に田舎には、木造の家屋少しと云ふ。斯く森林の少きは、濫伐に因るものにして、灌木、矮樹も、尙伐りて、田圃を増さんとするの傾あり。日本より年々輸入する材木少からず。

〔礦産〕當國は、礦物に富み、其種類亦た多し、主要の礦物は、石炭、金、銀、水銀、鉛、鐵、亞鉛、寶石、琥珀、陶土とす。就中、石炭夥多にして、支那本部は、到る處殆炭脈なきはなく、且其位置概して採掘に便なり、然れども、其採掘法、未改良せざるを以て、開坑尙微々たり。今日石炭を採掘するは、直隸の開平、山西、四川、湖南、及臺灣の雞籠、等なり。

〔工業〕支那の工業は、概ね小職人の手にあり、大なる製造會社の如きは、殆これなし。然れども、國民性來勤勉、巧技なるを以て、容易に外國の技藝に熟し、今日は往時に比すれば、工業大に見るべきものあり。且つ其製品は概して佳良にして、堅固なり。製造品の優等なるものは、絹布、陶器、紙、彫刻物にして、歐洲の諸品に勝るものあり。

〔交通〕道路は、概して修繕を加へず、雨期には恰も河床の如く、又泥濘甚しき處あり、然れども、旅商の往來絡繹たり。北支那に於ては、馬車、轎子、騾轎又は馬に乗りて旅行し、南支那に於ては、水路に由らざれば、轎子を用ふるを常とす、又駱駝は、當國運輸の一大器具とす。水路は、道路に反し、河川及び運河の便利廣大にして、運輸、交通の利少からず、殊に、楊子江は、其長さ三千哩、且つ支流の大なるもの、傍湖の廣きもの、枚舉に遑あらず。而して沿岸の居民は、



凡一億に下らずといふ。

鐵道は、官民共に之を嫌ひ、其敷設極めて少し、既設のものは、直隸省の開平炭坑より天津に達する、八十六哩の炭坑鐵道及臺灣の炭坑鐵道に過ぎず。電信に關する反對説は近時稍、勢を減し、現今に於ては、東は、滿洲より朝鮮、魯領に、南は、雲南を経て緬甸に、西は、四川に達し、國中の大市府は大抵電信の便あらざるなし。郵便は、其制甚古風にして、傳送極めて緩漫なり、郵便局の數凡一萬あり。

又沿海運輸のためには、招商局を首め、數個の運漕會社あり。其中、招商局は、汽船二十六艘を所有し、支那沿海の各港、及東京、安南の諸港に往來せり。

内國貿易

(貿易) 支那は、地境廣く、人口多きを以て、内國の貿易甚頻繁にして、或は河流の便により、或は沿海の利に乗じ、或は車馬の用を假り、商賈貨物の來往頗る盛なり、殊に漢口は、其要區なり。然れども、内地處々に、釐稅局の設あり、一々貨物に課稅するを以て甚煩はし。但、商賈間に、信約と節儉善く行はれ、冗費を省き、互に相疑はざるは、實に當國の美風と云ふべし。

外國貿易

支那の國たる、北西二方は、山岳延亘し、或は沙漠茫茫として、交通不便なるを以て、其外國貿易は、江海に由るもの多し。今より三四十年前迄は、開港場としては、廣東の一港なりしが、現時は二十二の開港あり、通商大に發達し、年々の輸出、凡一億万兩以上、輸入一億三千四百万兩以上に至れり。又陸路貿易中重なるものは、北方賣買城を経て、西比利亞のキヤクタに通ずるもの、西方雲南を経て、後印度に通ずるもの、西藏を経て、英領印度に通ずるもの、又蒙古、伊犁

輸出入品

を経て、中央亞細亞、波斯に通ずるもの其貿易價格亦少からず。

外國輸出入の貨物、之を二種に區別すべし、甲は、印度以東、及東南洋とし、乙は、西洋各國とす。印度以東に輸出するものは、磁器、絹、綿、藥材、砂糖、及金屬具、石油、紙、雨傘、裝飾具等にして、輸入品は、木材、米穀、胡椒、乾魚、茸類、海參、人參、銅、漆器、等とす。又歐米各國に輸出するものは、茶、生絲、砂糖、綿を首めとし、其他麻、陶器、藥材、香料の類にして、輸入の最多額なるは、第一阿片にして、次は棉布、毛布、軍器、等なり。さて阿片、棉布の輸入、甚多しと雖、生絲、製茶の輸出は、能く之を償ふに餘あり。

當國より日本への輸出は、米、豆類、砂糖、綿花、油糟を重要とし、日本より當國への輸入は、昆布、寒天、鰹、鮑、米、海參、蝦、人參、樟腦、木蠟、紋巴、其他棉布、洋傘、銅、木材、木燧、石炭、等なり。上海、天津、芝罘、漢江、福州、廣東、香港等には、日本の領事館あり。

政治

(政治) 政林は、君主專制にして、我國の如く憲法なし。政府の一大部門は、内閣とす。次に、吏部、戸部、禮部、兵部、工部、刑部と稱する六部あり、恰も我國の省の如し、此外、總理衙門と稱する官衙あり、我國の外務省に似たり。又海部あり、海軍の事を掌る。諸省は總督、巡撫等あり、之を管治す。

軍備

(軍備) 支那の兵制は、近時少しく改良したれども、是れ其一部分にして、全軀は概して陳腐の古法に過ぎず、近頃我國との交戦によりて、其實力の如何を観るべし。陸軍は、凡百万人ありと云ふと雖、未確實の統計にあらず。海軍は、北洋水師、南洋水師、廣東水師、福建水師の



別あれども、其主要の艦船は、我海軍のために、或は撃沈せられ、或は捕獲せられ、餘す所は僅に小艦船のみ。

(四)安南 第五號地圖參照

(位置、面積、等)

安南は、亞細亞の南東に在りて、西隣暹羅及緬甸と共に、印度支那半島(又後印度)を形成し、北は支那の雲南に境し、東は東京灣、及南海に面す。其面積大約十九万五千方哩にして、其四分三を以て我國に比すべし。人口凡二千方あり。此國を分て三部となす、下交趾支那、東蒲寨、安南これなり、安南は、更に之を分て、交趾支那本部、及東京となす。

(地貌)

後印度半島即ち印度支那半島の地たる、崑崙の扇骨状山脉の一部、西藏及支那本部より亂入して、南北に馳走するもの數條あり、而してカムボジア(一名メーコン、即暹滄江)、サルウィン(怒江)イラウ、デ、(龍川江)等の諸流、其縱谷を南走し、邦土を灌漑せり。故に其一部たる、安南の地勢、亦これと同じ、即ち國の北部、東京地方は、支那の雲嶺の分支起伏し、西境には、安南山脉連亘し、山間處々に沃野あり。南部は、地勢平坦にして、濕氣多し。北に東京河(河底江)あり、南に東蒲寨河あり、其下流俱に三稜洲を成して、海に入る。東蒲寨と暹羅の境に、一大湖あり、タリセブと稱す、漁業を以て其名高し。

(氣候)

氣候は、寒暑の差甚しく、南部は、夏期長くして、炎熱烈しく、且つ常に濕氣多く人身に適せず。北方の高地は、熱帶的の氣候にして、夏季は、西南の濕風、皆安南山に遮ぎられて、

人民

乾燥の期となり、冬季は、東南風、支那海の水濕を帯ひ來るを以て、降雨多し。

(人民)

安南人は、黃人種にして、支那人に類し、頭髮褐色にして、軀幹矮小なり。國語は、支那語と異なれども、國民大抵漢字を用ゆ。されば稍教育ある者は、孔子の教を奉ず、然れども最流行するものは佛教なり。東蒲寨人は、容貌特に歐洲人に類す。國民の氣風、概して輕快なれども、寧ろ懶惰にして、娛樂に耽るの癖あり。

(都府)

順化府は、安南の首都にして、東海岸に臨み、王宮の如き、頗る壯麗を極め、周圍には、堅固なる堡砦を繞らし、數百の砲門を備ふ、人口十方あり。東京河上の河内府は、東京の首府にして、人口十四方あり。西貢府は、東蒲寨河の支流に瀕する要港にして、人口五方あり。當府は頗る繁盛にして、東西往來の郵船常に寄泊する處なり、(横濱を距る二千二百四十九哩)。

(産物、交通)

此地方は、炎熱と水濕に由り、(林産)草木の繁茂著しく、森林には、肉桂樹、檀香木、胡桃、チーク、等を産し、山間には、數多の野獸あり。(農産)北部豊饒の地、並にメーコン河畔には、夥しく米を産し、外國に輸出す。其他、砂糖、煙草、綿、護謨、菓實、燕巢、眞珠、象牙等



安南王及大臣

産物

都府



を産出す。農業は、甚だ不進の有様なれども、地味豊饒なれば、稻禾の如き、別に耕作を要せず。  
 (鑛産) 鑛物、甚饒にして、殊に東京には、廣大の炭田、並に金、銀、銅、鐵の鑛脈あり。(製造) 安南人は造船の術に長ずれども、製造品は皆支那に依頼し、(貿易) 従て内地の貿易は概ね支那人の營む所にして、又た西貢等の外國貿易も、主として佛國人の掌握する所なり。  
 (交通) 内地の交通は、河川に由るもの多しと雖、近時少しく鐵道を布設せり。沿海は、運輸往來の方便乏しからず。

政治 安南は、元來世襲の君主專制國なりしが、今より凡百年前、交趾支那の一部を、佛國に讓與せし爾來、佛國、次第に領地を擴め、遂に安南王佛國の保護を承諾し、尋で交趾支那、東藩寨、安南、東京の四部を合せて、佛領印度支那と稱し、各駐劄官を置き、之を分轄せしむ。

(五)暹羅

(位置、地貌、等) 暹羅は、後印度半島の中央を占め、東は安南に隣り、西北は緬甸に境し、南は暹羅灣を擁して、馬來半島の北部に連る。其面積二十五万方哩、全國を四十一州に分つ、人口凡六百万あり。  
 支那東部には、支那雲嶺の支脈南走して、安南山脈と爲り、西部の山脈は、南走して、馬來半島に至る。要するに、國內山脈、並行し、之に伴ふ數條の長谷あり。メーコン、メーナムの二河、其間を貫流す。此二河共に、土地を灌漑し、且運漕に便なり。

氣候

此國熱帯に位するを以て、炎熱甚しく、又年内乾濕の二期あり、六月より、十一月迄は、濕期にして、自餘は乾期とす、是れ氣候風の然らしむる所なり。南部は、概して炎熱甚しと雖、北方

の山地と、南方の海濱は、氣候爽快なり。

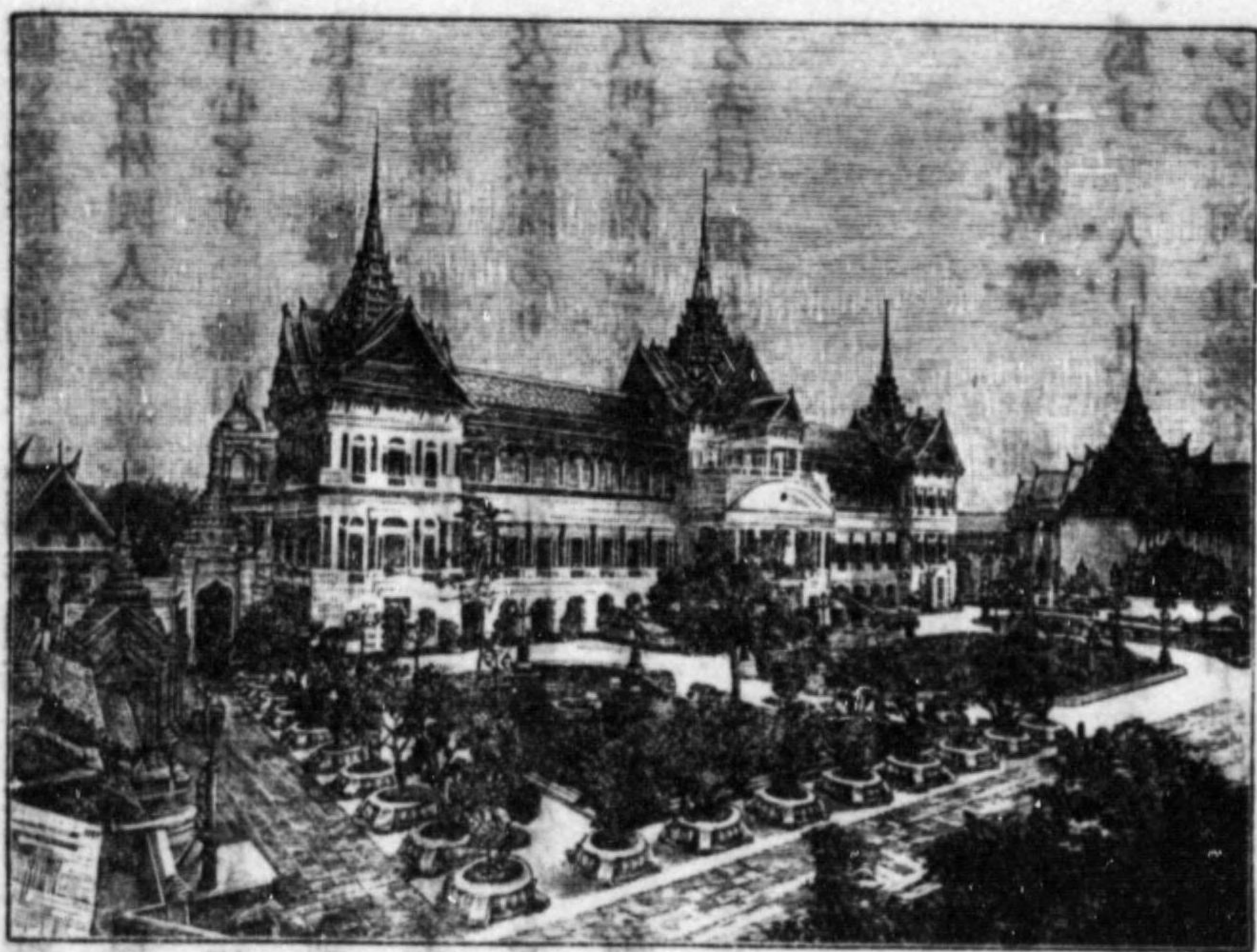
(人民、市邑)

人民は、皮膚淡褐色なり、支那人多く雜居せり。風俗は、概ね安南に類し、人民遊惰安逸を喜ぶ、又好んで象に乗り、平時は之を運搬の用に供し、戰時は之を軍用に充つと云ふ。近年國王銳意歐米の學術技藝を採用し、商工を奨勵せしを以て、國運頓に開明に赴けり。

首府バンコックは、メーナム河に跨立し、河口を距る三十哩に在り。宮殿、官衙、壯麗にして、市街亦狹隘ならず。全國の百貨、茲に輻湊し、外國居留人甚多し、人口六十万、其一半は支那人なり。

(産物、交通) 内地の平原は、肥沃にして、多量の米を産し、森林には良材あり。東部は鐵を産し、

中央は石炭を出し、西岸地方より黄金を採掘す。其他到る處、鑛物に富むも、交通不便にして、採鑛未だ盛ならず。されど、寶石の輸出は、年々巨額に達す。



暹羅王宮の圖

産物

市邑

人民



交通

内地の河川は、丘陵凹凸からざるがため、運漕の便に乏し。近年電線を要衝の地に架し、海底線を新嘉坡に通じ、郵制を設け、交通大に開け、既に起工の本支鐵道三條あり。又海外諸國と交際を通じ、我國亦通商の條約を結び、商業は、殆皆外國人之を掌る。又外國貿易は、首府バンコックを中心とす。輸出の重なるは、米、材木、胡椒、護謨、錫等にして、輸入品は、綿、阿片、絹布、支那製品等とす。

暹羅は、世襲王國にして、政權は國王之を掌握す、内閣及參議院あり。陸軍は歐風の練習を受たる軍隊凡一万三千餘あり。海軍は大砲廿三門と十八門を備ふる砲艦合せて八艘あり。蓋後印度半島中、他國の制馭を受けずして、兎に角獨立する者は、獨り此國あるのみ。



暹羅人外出

(六) 緬甸

位置 地貌 氣候

**(地貌等)** 緬甸は、其面積凡十七万一千餘方哩、我國より稍大なり、之を分て、上下緬甸と爲す。人口凡七百六十万あり。扇骨狀の山脉、北より南に連亘し、イラウ・ディ・イ・サルウ・ン・の二河、其縱谷を流れ、中央低地には、處々に沼池あり。地味肥沃にして、稻田相望み、沿海に島嶼多し。

氣候は、炎熱にして、五月初旬最も甚しく、殊に低地は健康に適せず。毎年西南季候風期の

人民

間は、霖雨多く、五月より十月に彌る。又東北季候風の吹く間は、乾燥なり。

**(人民、都邑)** 土人は、性質快活なれども、遊惰なり。社會、七級の別あれども、他國の如く貴賤の懸隔甚しからず。佛教は頗る勢力を有し、何人も一旦寺院に入りて、僧侶となるを常とす。

都邑

國都は、マンダレーと種す、イラウ・ディ・イ河畔に在り、人口十八万八千あり。然れども、當時はラングーンを以て、重要な貿易港となす。ラングーンは、イラウ・ディ・イ河の東支に臨み、海を距る二十六哩、人口十八万餘あり。

産物

**(産物、交通等)** 此地方は、氣候炎熱にして、定期の降雨あるが故に、動植物の蕃殖著しく、山野には象、虎、犀、等あり、森林には、チーク樹多し。地味最も米作に適し、産額夥しく、人民の常食たり。其他諸種の穀類を産し、礦物亦多し。

交通

内地の交通を助くる水路は、イラウ・ディ・イ河にして、又支那の雲南に通ずる陸路あり。近年鐵道を、ラングーン港に布設し、益之を延長して、内地の豊富なる産物を、直に印度洋岸に輸送するの計畫を爲せり。

管治

此國の起源は頗る古く、以前は儼然たる一王國なりしが、國運次第に衰へ、二百年前より、英吉利人國內に侵入し、先づ下緬甸を併呑し、爾來久を経て、遂に、千八百八十六年、國王の失政を鳴して兵を起し、上緬甸に侵入し、國王を擒にせり。此に於て、緬甸全く亡び、全土英領印度の一州となれり。



(七) 馬來半島諸國

(位置、地貌、等)

馬來半島は、亞細亞の極南に在り、北はクロー地峽を以て、緬甸と暹羅に連り、それより、長く南洋に突出して、印度洋と支那海の境を限り、南はスマートラ島に對して、共にマラッカ海峽を挟み、其南端をローマニア岬と稱す。半島の長、大約七百五十哩、幅平均百二十哩、人口凡四十二万あり。山脉、南北に連亘し、之より數多の河流を發す。沿海には、數多の島嶼羅列し、就中西岸に接する重なる島を、ピナンと稱し、南端に接する者を、シンガポールとする者多し、歐洲人は僅に海岸に住するのみ。半島中、マラッカ地方と、ウレスレイ州は、近海のピナン、及新嘉坡の二島と共に、所謂海峽植民地を成し、英吉利國の領分なり。



此半島は、赤道直下に位するを以て、氣候極めて炎熱にして、森林繁茂し、猛獸毒虫多し。又鑛物多く、殊に錫に富み、處に依り黄金を産す。近年高地に珈琲及シンチナを栽培し、低地に稻米を耕種し、頗る良効を奏せり。其他香料、砂糖、米、木材、藍を産す。

(人民、等)

土民は大抵、回教を奉ず、支那人、印度人の住居

新嘉坡島は、半島の南端に接し、長二十七哩、幅十四哩あり、マラッカ海峽の咽喉を扼し、東西兩洋通商の要路を占め、南洋諸島の物産、亦此に蝟集す、實に亞細亞中、最要なる交易場の一なり。地勢平坦にして、樹木繁茂し、赤道を距ると一度に過ぎずと雖、氣候の變化平穩にして、夏季は毎日驟雨あり、以て暑を防ぐに足ると云ふ。海峽植民地の諸港は、皆自由交易港なるが故に、支那人を始め、諸國人の來て業を營む者尠からず。近年は輸出入貨物の量非常に増加せり、其貿易は、重に經過貿易にして、新嘉坡を中心とす。新嘉坡港には日本人凡三百三十人在留し、日本の領事館此にあり。馬來半島中には、海峽植民地に屬する地方の外、尙數多の小邦ありて、其中或は暹羅に進貢する者あり、或は英人の保護を受る者あり、或は尙ほ獨立して、互に相争ひ、掠奪を事とする者あり、又國中我邦人の植民に適する所ありといふ。

(八) 印度

第六號地圖参照

(位置、等)

印度半島は、陸境の外印度洋に面せり。其面積は、附屬諸島を併せて、凡百四十一万方哩あり、我國の十倍に幾し。人口凡二億八千万あり。全土中、英吉利領のもの、否らざるものとの別あり。英領印度は、之を十二州に分つ、ボムベ、マドラス、ベンゴール、パンジブ、アッサム、等これなり。非英領には、大諸侯地五あり、主要の小諸侯地六あり、其他獨立州二あり。以上の外少許の佛蘭西領及葡萄牙領海岸に散在せり。

新嘉坡島

貿易

小邦

境界  
區分



沿海

(沿海) 印度の東海岸は、一帯ベンゴール灣に瀕し、灣底にガンジーズ、及ブラマプートラ二大河口の三稜洲あり。セイロン島を分つ海峽は、ポークと稱し、南端の海角をコモリンといふ。西海岸の中部にゴムベール島あり、北部の灣をカムベールと稱す。又沿海島嶼には、ベンゴール灣の東南に、アンダマン諸島あり、其南にニコバル諸島あり、共に、樹木繁茂せり。セイロン島は、面積二万五千餘方哩、人口三百万餘、島内山多く、アダム峯最高し。流水に富み、地味肥沃にして、林材多く、農産饒なり。又西海にラッカダイヴ、マラダイヴの二叢島あり、共に珊瑚質なり。

(地貌) 印度の内地は、大高原と大平原より成る。

ヒマラヤ山地  
ガンジーズ平原

而して北境は、ヒマラヤの峻嶺連立し、長二千哩に及ぶ。就中エウパレスト峯は、世界第一の高峯にして、實に二万九千呎あり、其他二万呎以上の高峰尠からず。此山脉南方に急斜し、其下に一大低原を成す、此低原は、半島の北部を横斷し、ガンジーズ、ブラマプートラ、インダスの三大河、之を灌漑す。ガンジーズ河は、ヒマラヤの南側に發し、衆水を集めて東流し、河口に三稜洲を作り、ベンゴール灣に注ぐ。ブラマプートラは、西藏より來り、アッサムを経て海に入る。此二大河の水



ヒマラヤ山

インダス平原

アッカカン高原

氣候

人民

域は、國中、最豊饒の平原なり。又インダス河は、源を西藏高原に發し、諸流を併せて亞拉比亞海に注ぐ、沿岸地方は河水の浸潤する處、地味肥沃なれども、其他は概ね沙磧不毛の地なり。半島の東西海岸に、併行山脉あり、之を東ゴーツ山脉、西ゴーツ山脉と云ひ半島の最南部にて連續せり。其内部の三角地は、デッカン高原にして、高さ千六百呎、乃至二千呎あり。此高原の灌水は、ゴータヴエーリ、及キストナの兩河を成し、東海に注げり。ゴーツ山脉以外に在る、狭長の海邊は、低地なり。

(氣候) 印度は土地廣大にして、高低あるを以て、氣候處に依り大に異なれり。北方の山地は、溫度平均十七、八度にして、山頂四時白雪を冠し、南方の低地は、酷熱にして、屢三十八、九度に昇るとあり。又印度には、乾燥、雨濕の二期あり、毎年五六月より九月十月までは、印度洋より西南季候風を送り、降雨之に伴ふを以て、西南沿岸の地は、全く雨濕期となり、之に反する地方は、乾燥期となる。又十一月、二月より、三、四月までは、東南の季候風吹來るを以て、之に面する地方は、雨濕期となる。季候風の吹かざる地は、終歲乾燥にして、降雨稀なり。

(人民、都府) 住民は、大抵白人種にして、古昔本洲の西部より移住せしものなり。其皮膚赭黒にして、体格偉大なり。族制に四階ありて、貴賤の別甚嚴なり。婆羅門教、盛に行はれ、凡一千万の婆羅門族あり、之に次て回教徒あり、又佛教徒あり、其他、鬼神、妖魔を信する蠻民あり。要するに、人種も言語も、數多相混合せり。教育は近年大に進歩し、到る處小學校を設く、又中學校及高等學校あり。カルカッタ、マドラス、ゴムベール、等に大學あり。人民概し



都邑

て、文學禮儀を尙ぶの風あり。

英領印度の首府を、カルカッタとす、フーグリ河の西岸三稜洲中に在り、貿易繁盛にして、政廳、鎮臺營、等あり、人口八十六万餘。ボムベーは、印度西部の都府にして、商工の業盛なり、人口八十二万餘。東海岸のマドラスは貿易港にして、此より西海岸に達する鐵道あり、人口四十

産物

五万餘。其他、人口十万以上の市邑二十餘あり。

(産物) 印度は、天産物富饒にして、諸種の植物夥し



榕 樹

く、珍奇の動物多く、鑛産物亦少しとせず。今其著しき者を舉れば、(林産) ヒマラヤ山地の森林は、樅、櫟、楡、栲、等多く、谿谷には榕樹の如き、大樹あり、到る處、椰樹、檀香木、檳榔子、竹類、等あり、又バナヤン、インゲアラツバーの如き、甚著名なり。(農産) 人口の七分は農夫にして耕法稍發達せり、米は灌溉の利ある地方に産し、西北部の小麥、裸麥、中部の綿、ベンゴールの藍、茶、其他珈琲、

阿片、等名あり。綿花の産出甚多く、年々我國に輸入せり。又養蠶、製糸も盛にして、年々輸出少からず。

工業

(牧畜) 動物には象、斑馬、駱駝、羊あり、然れども牧場乏しきを以て、牧畜盛ならず。(鑛産) 鑛物は富饒にして、重なる物は、石炭、及鐵なり、又金剛石、紅綠寶石を出す。(工業) 主要の工業は、綿

交通

花紡績、及織物にして、印度印綿布、及絹布は古來有名なり。カシミア産の毛織物は、殊に其名高し。

(交通、商業) 内地の道路は、大抵悪し。最有名の通路は、カルカッタより起り、平原を西

北に横きり、阿富汗に達する大幹線とす。國內の大河は、雨候には、其水量を増し、運河と共に、運漕の便を助く。鐵道は、逐年延長して、重要な港市を連絡せり。電線、郵制亦備はる。

陸路の交易は、隊商に依り、海路に比すれば、甚僅少なり。西境の大定期市には、毎年波斯及

土耳其斯坦より、商賈雲集すと云ふ。重要輸出品は、穀物、綿花、阿片、茶、藍、香料、等にして、輸入品は、木綿、製造品、鐵器類、衣服料、食用品、等とす。

(政治、軍備) 現今英領印度の政權は、在英吉利國の印度大臣之を掌握し、在印度の總督其

指揮を受けて施政す。諸藩は、其藩王の管轄に屬すれども、總督の代理官の掣肘を受く。抑、

印度は古國にして、數千年前より國を爲せしが、中世頃より葡萄牙人、先づ印度の海岸に數多

の植民地を開き、尋で和蘭人、英吉利人、佛蘭西人も、亦印度に來り、諸處に貿易場を開けり、就

中、英吉利人は、東印度商會を設け、又兵備を修め、漸次内地の諸侯を征服して、殆國內を併呑

せり。後商會遂に英政府に管理權を譲り、千八百七十七年、英國王は、印度帝の稱號を取るに至れり。

軍備

現今印度には、歐洲兵七万餘、土人兵十三万餘、其他諸侯、或は獨立州の兵三十五万あり。



(九)阿富汗 第六號地圖參照

地貌

氣候

人民

市邑

產物

(位置、地貌、等) 阿富汗は、印度の西にあり、日本の二倍よりも稍、小なり。人口凡四百萬あり。此國は、西隣波斯及南隣ベルチスタンと共に、イラン高原に位す。東方には、スーリマン山脈連なり、ヒンドクシユ山系は、國の北部に聳ふ。ヘルムンド河、其南麓に發し、ハムーン沼に注ぐ、此河はイラン高原中最大なり。氣候は、土地の高低に依り、同じからざれども、概して乾燥にして、寒暑の懸隔甚しく、南方カンダハール府(海面上三千五百呎)に於ては、夏季樹蔭に於ても、寒暖計屢四十三度以上に昇るとあり、冬は寒氣亦甚し。

(人民、都邑) 人民は白人種にして、性質勇悍、商工の業を好まず、重に農作、遊牧に従事し、或は隊商を以て、貿易を營む者あり。印度人も、亦國內に混居し、土蕃數種あり、各處に割據せり。宗教は大抵回教にして、其他異種の教法あり。學校の數甚少なし、要するに、尙ほ未開の人類なり。

首府カブールは、東北部の山麓に在りて、海面を抜くと六千四百呎、恰も東南西三方の分水界に位す、人口六萬あり。冬期は積雪數尺に達すれども、國內交通の要衝にして、貿易盛なり。此地の緯度は、日本九州の福岡邊と粗、同じ。

(產物、交通、等) 國內耕作開けず、全國過半不毛の地たり。農產物は、僅に米、大小麥、綿砂糖、等に過ぎざれども、諸種の果實十分に成熟し、其他良種の、馬匹駱駝及少量の木材あり。

又製造品には、花氈、肩巾及絹織物あり。

今の國王は、一の封建君主として印度政府の保護を受く、蓋此國の位置たる、英領印度と、魯領亞細亞の間に介在し、魯國南侵の衝路に當れり、故に兩國との關係少からず。

(十)ベルチスタン 第六號地圖參照

位置

地貌

市邑

產物

政治

(位置、地貌、等) 此國は、阿富汗の南にあり、印度洋に面す。面積凡そ日本の三分の一にして、人口凡三百五十萬あり。阿富汗と等しく土地礫礫なり。東境は山脈あり、西北部及南部は沙漠にして内地河流稀に且小なり。東北隅には、僅に沃野あり。南方海に瀕する處稍、低平なり。氣候は、高地は甚だ寒く、低地は極めて熱し。

(人民、產物、等) 住民は、野蠻にして、大抵回教を奉ず。ケーラトは、首都にして、海面を抜くと七千呎、城堡甚堅固にして、人口一万二千あり。地味概ね豊饒ならず、處に依り牧畜にも適せざる部分あり。溪谷には、米、藍、綿、煙草を産し、高地には、大小麥、等を産す。南部の沙漠には、棗樹あり。魚類は海岸に夥しく、人民の主要なる食料たり。

此國、昔阿富汗と共に、波斯の所屬なりしが、現時はケーラトの汗、全國の王にして、其他の酋長は、之に貢賦を納れ、且戰時に兵員を供する者とす。印度政府、此國に保護を與へ、代理官をケーラトに駐在せしむと云ふ。



(十一)波斯

第二編地圖卷四

(位置、地貌、等) 波斯は亞細亞の西南部に位し、南は波斯灣に臨む。其大さ幾んど我國の四倍あり。人口凡七百六十五万あり。



波斯風俗

此國はイラン高原の西部を占め、東方の外、山脉を以て圍まる。國の中央及東部は、鹽質の沙漠にして、處々に沃域在り、殆無人の郷たり。北邊には、エルブールズ山系東西に連亘し、其最高峯をデーマウマンドと稱す、熄火山なり。西境にアトラットの支峯及ザイグロス山あり。南方は高峻の岩壁天に聳へ、連綿九百哩に亘れり。波斯灣の海岸は、少しく平地あれども、空氣乾燥にして、只椰棗の如き熱帶植物を生ずるのみ、而して一林岩礁多く、昔時海賊之に據れりと云ふ。北部裏海に瀕する處は、土地低平にして港市あり。

氣候は、寒暄の差甚しく、冬季は、空氣乾燥し、降雨なく、沍寒殆堪ふべからず、殊に高原地方に於て甚し。夏季は、炎熱亦忍び難しと雖、降雨稍多し。

(人民) 國內沙漠多く、從て住民稀薄にして、平均每方哩十二人を超へず。固有の波斯人

位置 地貌 氣候 人民

宗教

市邑

産物

は、主として白人種にして、概禮儀を尙び、溫雅の風あり。然れど、民俗大に驕奢を好み、殊に女子の裝飾は、屢目を驚かすものあり。人民は、過半回教を奉じ、僧侶の權力甚だ強大なり、又拜火教を信する者あり。教育は、割合に進歩せり、宗教、波斯文學、亞拉比亞文學、等を教授す、學校多し、又歐洲の語學、理學、及兵學を教ふる學校あり。人民古來文學を好み、詩文に長じ、著作多し。されば、波斯語は、遠近に傳播して、頗る勢力あり。要するに、波斯人の過半は、日本、支那を除けば、亞細亞中、最教育ある人民と云ふべし。

(市府) 首府テヘラーンは、エルブールズ山の南に在り、市街不整不潔なり。人口二十一万あり。當府は日本の東京と粗、其緯度を同す。イスパハーン(人口六万)は舊都にして、國の中央に在り。波斯灣に繁盛の港あり。

(産物) (農産) 土地、概礫确にして、鹽質なれども、高原の邊隅、山間の平谷には、村落相連なり、肥沃の田圃少からず。人民大に農事に盡力し、灌漑法甚巧なり。産物は穀物、綿、砂糖、藍、葡萄、煙草、等にして、養蠶盛に行はれ、南部山間より、有名の葡萄酒を出す。(林産) 波斯灣邊に棗子を産し、西北部に森林あり。

(牧畜) 良種の馬四あり、牛、羊、駱駝、山羊、其他野獸も亦多し。(鑛産) 鐵、銅、鉛、安質母尼、石油、大理石、等少からず、藍寶石は、名産なり。(工業) 製造品は、曾て其名を博せしが、近年漸々歐洲品に壓せられて、次第に衰微し、僅に存する者は、織物、染料、等のみ。其他寶玉、金銀の鑲飾、刀劍等の製作に長ぜり。



交通

貿易

(交通、商業、等) 此國は南北海に瀕し、貴重の物産多きを以て、嘗て重要な貿易國たりしが、内地水運の便なく、道路悪くして、貨物の運搬は、僅に隊商、駝脊に依り、加ふるに、國民航海を忌み、海上貿易の權を、外人に委するに由り、商業未だ發達の運に到らず。鐵道は、首府テヘラーンより、僅々六哩の線路あるのみ、又郵制を設け、處々に電信を通ぜり。重要輸入品は、綿織物、硝子、毛布類、茶、珈琲、等にして、輸出品は、乾葡萄、阿片、綿花、羊毛、絹、敷物、眞珠、等なり。

政体は、君主專制にして、國法は悉く回々教の經典に基く。國王は、教祖の代理者にして、權力無限なり。陸軍の兵員は、總數十萬餘ありと云ふ。海軍は、二艘の汽船を備るのみ。此國には國債なし。

(十二)亞拉比亞

第二號及第八號地圖参照

位置

區分

(位置、沿海、等) 亞拉比亞は、一大半島に位す、國の廣さは、我國の八倍強にして、全歐洲の三分一に近し。人口僅に三百七十萬なり。此半島中、外國の屬領部と、獨立部あり、即ち波斯灣に瀕する、エルハーサ地方と江海沿岸のイーメン、ヘジャース、及サイチー半島は、亞細亞土耳其の所轄にして、イーメン海岸のアーデン港、等は、英國に屬せり。右の外獨立亞拉比亞中に三箇の邦國あり、ナーマン、等是れなり。

(地貌、氣候)

内地は、高原にして、周邊に山を繞らし、只北方の一部、低平なり。中央高原

地勢

は高さ、五千呎の所あり、數多の沃域に、椰樹を生じ、溪谷の沃地は、住民多く、國內至要の地とす。南部の大高原は、殆ど沙漠にして住民なく、北部の沙漠は、極熱不毛の地なり。周邊の山脉は、概突兀たる岩石にして、ナーマンの連山のみ、綠山の稱あり。西北隅の半島に聳ゆるは、サイチー山にして、古來有名なり。沿海の狹地は、低平なり。内地は河川極めて乏しく、且乾涸す、只降雨の際、急流を成すとあれども、皆直に砂中に吸収せらる。

土地の大半は、無雨地方にして、炎熱燬くが如く、沿海の低地は、殊に然り、紅海は世界の海水中、最熱しと云ふ。最高の地は、冬期降霜あれども、夏熱も亦甚しく、山間の地は、甚だ冷涼なり。

(人民、都府) 國語はヘブリー語に類し。宗教は、回教なり。風俗は皆回教の風習なり。南北沙漠の間に漂泊する幾多の蠻民は、古來遊牧を事とし、或は劫奪を業とし、曾て進歩するとなし。

メッカは、マホメットの生地にして、メディーナは其没せし處なり。此兩都は回教人之を靈地として尊崇し、年々世界各地より、來集する巡拜者の數、甚多し、是れ此兩都の、尙ほ繁盛なる所以なり。アーデンは、重要な港にして、スエズ運河を往復する船舶、皆此に寄港し、且東部亞



俗風の亞比拉亞

氣候

人民

市邑



産物

交通

國情

区分

弗利加の交易場にして、經過貨物諸方より雲集す。(横濱より航程六千六百四十四哩)  
 (産物、交通、等) 産物の重なる者は、珈琲にして、南海岸に生じ、少しく輸出す(蓋珈琲の  
 原産地は此國なり)。棗子も、亦盛に産出し、人民の食料たり。其他、甘蔗、粟、綿、果實、藥品、  
 護謨(所謂亞拉比亞護謨を首とす)を産す。又古來、名馬を出し、牛、驢、駱駝、亦産す。殊に駱  
 駝は、沙漠船と稱し、大に之を利用す。沿海には、珊瑚、眞珠、及海綿の收穫あり。  
 内地は、川流なきを以て、全く交通の便を缺き、海岸山脉の如き、亦交通を妨ぐ。往時、此國  
 人は、船舶及駱駝を以て、近隣各地と、廣く交易せしが、國運の進まざると、東洋より歐洲に達  
 する海路の發見以來は、全く交易の權を失したり。

此國に於て、最も有名なるは、回々教の發生にして、其他一も記すべき者なし。國內は、數多  
 の酋長、各割據し、曾て統一せず。其中、稍、一國の軀裁を具ふる者は、東南隅のナーマンと、自  
 餘の二獨立邦のみ、其他各部落の人民は、族長政治の下に在り、土耳其領の地方も、豪族、等各  
 獨立せり。

(十三)亞細亞土耳其 第二號地圖全圖

(位置、等) 亞細亞土耳其は、亞細亞の最西の國にして、西は一葦帶水を隔て、歐羅巴土耳  
 其と相對す。其面積我國の五倍なり。人口二千六百六十万あり。

亞細亞土耳其は、歐羅巴土耳其の領地にして、亞弗利加の領地をも合すれば、其版圖甚大

なり。

地勢  
 西北部の  
 高地

シリア地  
 カ

東南部の  
 平原

氣候

人民

都邑

(地貌、等) 概して西北部は高地にして、東南部は平原なり。小亞細亞は、凡四千呎の高原  
 にして、中央に沙漠あり。南岸のトラス山系は、斜に東北に走り、アトララット山を経て、エ

ルブールズ山系に連絡し、東西の分水界をなす。  
 地中海の東際、シリア(第八號地圖)も、亦高原にして、是れよりスエズの地峽に至るまで、地

勢漸く低下す。内にジルダン河谷あり、地勢甚陥入す。殊にガリリイ湖は、海面より低きと  
 六百三十呎、死海は、千三百呎にして、世界中の最低地たり、ジルダン河之に注ぐ。死海の水  
 は、鹽分を含むと、海水の八倍にして、最下等動物の外、其中に生存する者なし。

然れども國の東南部は、概平野にして、此にユーフレイトス及ティグリスの二河、洋  
 々として双龍の如く馳せ、遂に合流して波斯灣に注ぐ。此二河は大に内地水運の便を助け、又  
 灌溉の利益少からず。東南平原は夏季炎熱にして、シリアは更に甚し。黒海の沿岸は、氣候  
 溫暖にして、東北高原は、冬寒極めて烈し。

(人民、都府) 住民は、過半回教徒にして、土耳其人の數最多し。農民は溫和にして、業を  
 務め、山間の民は、尙ほ蠻風を脱せず。

山スマルチ港は、同名の灣に臨み、古來有名の都府にして、貿易繁盛なり、人口二十万あり。  
 ダダニトは、ティグリス河上に位し、古昔有名の大都會なりしが、今尙ほ隊商の輻湊する中  
 心なり、人口十八万。ジルサレム(人口二万八千)は、史上の舊跡甚だ多し。



產物

(產物、貿易) (植物產) 黒海の沿岸は、地味豊饒にして、木材を出し、木棉、阿片、煙草、橄欖油、及穀類を産す、又無花果、桑樹並に葡萄樹を耕植す。シリアは炎熱燦くが如しと雖、豊饒の山谷は、小麥、果實、等を産す。兩大河の水域は、穀類を産すれども、昔日の如く豊饒ならず。(動物產) 家畜には、牛、馬、駱駝、驢あり、殊に山羊の毛は、織物に産し、モヘルと稱する織物を製す。又養蠶業行はる。(鑛產) 鑛物亦多く、鐵、石炭は處々に産し、其他銅、鉛、大理石、石腦油、等を出す。(工業) 製造品は、熟皮、毛布、生絲、織物、鐵器、等あり。

交通

抑此國の地位は、歐亞兩大洲の交易場たるに適し、現今は昔日の如く繁盛ならずと雖、隊商諸市に往來して、通商交易せり。近年要路に、鐵道を布設し、其長さ數百哩に達せり。郵便、電信亦行はる。シリア海岸の外國貿易は、歐羅巴人の掌握する所にして、重要輸出品は、乾葡萄、モヘル、生絲、羊毛、家畜、熱皮、綿煙草、等とす。輸入品は、歐洲諸國の織物、陶器、利器、紙、硝子、石炭、砂糖、熱帶地產物、染料、等なり。西洋上古史の起源、多く此國に存せり。且つ基督の誕生地なれば舊跡少からず。土耳其帝の撰任に係る副王、諸州を管治す。

政治

實業

### 第三章 亞細亞總論

本洲列國の地文及人文は、前章に述べたるか如し、今より此等諸列國の情況を總括して、尙ほ更に本洲大體の地文及人文を説くべし。

#### (一) 海岸、島嶼、海灣、等

海岸

(海岸) 本洲の北岸は、出入少しと雖、其他の海岸は、半島の海中に突出するもの、海灣の陸地に穿入するもの少からず、且つ海灣には、往々廣大なる航河の吐口あり、之に由りて深く内地に入るとを得るを以て、交通、貿易の利便少からず。然れども本洲の海岸線は、其長さ五万一千哩にして、之を本洲の全面積に比すれば、三百三十七方哩につき、一哩の割合なれば、海岸の屈曲大なるに拘はらず、本洲の海岸線は、亞弗利加洲を除き、他の大洲よりも割合に短し、而して其五分一(北氷洋海岸)は、通商の用をなさず。但し我日本國のみに就て觀れば、其海岸線面積の割合に甚長し、決して此全洲の例を以て推すべからず。

半島

(半島) 半島の大なるものは、南岸にあり、亞拉比亞、印度の如きは、實に世界中の最大半島と稱すべし。東岸の半島は、其形小なれども、我邦に取りては頗る大切の關係あり、殊に朝鮮の如き最然りとす。本洲の半島は、大抵北より南に突出せり、支那の山東半島、及小亞細亞半島は、之に反せり。又本洲半島の面積は、全洲面積の五分の一に當れり。



島嶼

(島嶼) 亞細亞の島嶼は、多く其東南に集まり、且つ其大さ亦雄偉なり(馬來群島を含みて論ず)。世界中、此の如く、島嶼の一所に群集する所他にあるなし、殊に東岸に於る其排列の模様を看よ、北はアリューシアン列島より、我日本の三列島を経て、南はフィリピン群島に至るまで、恰も大洲岸より、數連の花彩を懸けたるが如く、其狀頗る美麗ならずや。本洲の沿海に散布する島嶼(馬來群島と共に)は、總て一百万方哩以上の面積あり、即ち大洲全面の凡そ百分の六なり。

海灣

(海灣) 北海の外は、東、西、南、三方俱に海水の灣曲するもの少からず。南方の海灣は、其規模廣大なれども、變化少し、之に反し、東方の海灣は、或は半島に抱かれ、或は無数の群島に挟まれ、又は長蛇の如き列島に包まれ、千狀、万態、極まりなし、而して日本群島は、實に其要部に位し、兩手を擴けて、大洲東邊の海權を掌握せんとするの趣きあり、是れ豈に我國が天然に大海國たるの資格を有するものに非らずして何そや。

海峽

(海峽) 亞細亞の海峽は、大抵世界の航路を結合する、大切の水路なり、即ち本洲と北亞米利加、亞弗利加、及歐羅巴の三大洲を結合する數海峽(スエズ運河も海峽と見做す)、其他マラッカ海峽、サンダ海峽、臺灣海峽、朝鮮海峽、津輕海峽、等一として重要な海路、又は海灣を扼せざるはなし。

(二) 山脉、高原、低原

第二號、乃至第六號地圖參照

地勢

(地勢) 本洲の地勢を察するに、其大半は高原なり、之を高原の大洲と云ふも可なり、而して發端に粗、陳べたる如く、支那、亞洲魯西亞、印度、及阿富汗、四國の境界相接する所に、山脉の結節あり、此所を中心として、高原、及低原四方に分派せり、之に因りて以て、本洲の地勢は、大別して三部となすべし、即ち東南部高地、西南部高地、及西北部低原是れなり。然り而して此三大部の間に、二條の山系あり、以て彼此れを區畫し、又其各部より三大洋に注く河流を分水し、併せて人種の異同、交通の便否に影響すると極めて大なり。

第一山系

(山脉) 西藏の西に高原

あり、之をバミールと云ふ、地學者此所を世界の屋脊と稱す。此より山脉四方に分派す、即ち西に連なる者は、ヒンドクレーシユ山系、エルプールの山系、トラス山系にして、小亞細亞を經



圖の原平及脉山洲大亞細亞

(寸法を度高均等ては尺英は字數)



て海に没せり。發端に於て、西北山系と假稱したるもの即ち是れなり。  
次にバミール高原より、東に連なる者は、ヒマラヤ山系にして、殆二千哩の間に延長す。其間  
二万四千呎以上の高峯を起すと、凡四十なり、四時白雪を戴き、廣大の氷河あり。此山系、印度  
の東方に於て、卒然ブラマプートラ河谷にて斷絶し、其以東の山脉は、崑崙山系より岐れて、數  
派となり、其狀恰も扇骨の如く、東南に折れて、後印度半島を成せり。(此扇骨山脉の事は支那地  
誌に述べたり)。右の山脉は、發端に於て、假りに東南山系と名けたるものなり。  
さて以上バミール高原より、東西に連なる大山系は、其延長、合せて凡そ五千哩にして、西南  
部高地の東北境をなせり

第二山系  
又バミール高原より、東北に亘る山  
系は、天山山系、アルタイ山系、ヤプロ  
・ノイ山系、及スタノヴ・イ山系にして、  
長さ四千哩あり、即ち東南部高地と西  
北低地の境にして、發端に於て、東北山  
系と假名したる者、即ち是れなり。又  
此山系の東南には、尙數多の山脉あり、  
或は内地に起伏し、或は海岸に連亘せ  
り、此等は、各國誌に於て、個々に記し



亞細亞

東南部地  
貌

西藏高原

ゴビ沙漠

東南の低  
地

たれども、尙各地の地貌と共に漸次陳  
述すべし。

(東南部高地) 東南部高地は、世  
界中最高大の地軀にして、第一山系の  
東部と第二山系を以て、其の西南及西  
北を限れり。各地の地貌大抵左の如  
し。ヒマラヤ山系の北なる西藏高原  
は海面を抜くこと平均凡一萬八千呎、  
彼の楊子江、等の三大河源、此に發す。  
其北境の崑崙山系はゴビ沙漠に向て、  
急に傾斜す。故に崑崙は、ゴビ沙漠より仰げば、一萬呎以上の高山脈を爲せり。  
ゴビ沙漠は、西北に天山、アルタイ山、等の山脉あり、東南は陰山山脉及興安嶺山脉にて界し、  
海面上凡二千二百呎乃至五千呎に在り(蒙古及伊犁を含む)。此地の西部にタリム河の水域あ  
り之を瀚海と稱す、全體の地勢は周圍高くして、内部低く恰も盆の如し。屢、颶風沙を卷くの  
恐あり。



の 沙 漠

興安嶺山脉及陰山山脉の東南は、地軀大に陥落し、(第五號地圖)東方海岸に傾斜し、黄河、楊  
子江の大流、土地を灌漑す。楊子江の兩側に北嶺南嶺の二山脉あり、而して右兩河の下流水域



の低原は、北・京・低・原をなせり。崑崙山系の一派東南に走りて、後印度半島をなすもの、其大半は、亦此高地に屬せり。

黒龍江地  
方  
オコック  
海の沿岸

興安嶺の東北、黒龍江の兩岸は、(第二號地圖) 一帶の低原にして、日本海の沿岸に蜿蜒する連嶺をシユタ山系とし、南方長白山脈に接続す、朝鮮半島の山地其南に連る、又西にヤプロノイ山系あり、北にスタノウツァイ山系あり。此地より東北チョク海岸に沿ひ、東寨加半島を含む一區域は、山岳多く、海岸に少しく低地あり。

西南部地  
貌  
印度低原

(西南部高地)

西南部の地貌も、亦多くは高原なれども、大河の流域には低原あり。ヒマ

イラーン  
高原

ラヤ山系の南麓は、東西に河谷あり、急に傾斜して、印度低原を成す、其最高點も海面を抜くと一千呎に足らず、其南は、デッカ高原にして、三角形の三方に山を周らす、インダス河の西にスーリマン山系あり、是れ發端に於て、南山系と假稱したる山系にして、其西を、イラーン高原とす、東方の外は山嶺に圍まれ、ヒンドクシユ及エルフルズ山系、北を界す。高地は概して沙漠にして、鹽湖多し。此高原は最低き所二千五百呎なり。

小亞細亞  
高地

裏海と黒海の間を走る山脈は、高加索山系にして、歐亞兩洲の界をなす。其南はアルメニヤ高原、其西南は小亞細亞高地にして、トラス連山延亘し、中央に沙漠あり。東南方にユーフレイティス及ティグリス兩河の沃原あり。

亞拉比亞  
高原  
シリアの  
窪地

又東南の亞拉比亞高原は東北隅の外は、四方平山を繞らす。此高原の北方、地中海濱に近く、著名の窪地帯あり、其死海は海水よりも、凡千三百呎低し。

西北低原  
の地貌

(西北部低原)

東南及西南の二部は、主として高地なれども、西北は總て低地なり、之をアーラル海低地と西比利亞低原に分つ。バミール高原(海面を抜くと一萬五六千呎)より地勢急に、アーラル海低地に向て低落し、其れより次第に西に下り、裏海に至る。此間の諸流は、大抵此兩海に入り、外海に朝せず。

西比利亞  
低原

アーラル海低地の北より、東北に至る一帶の地、即西比利亞低原は、リーナ、エニセエ、チービ三大河の下流に屬し、全地概して不毛の平原なれども、東南の山脈に接する方は、稍耕地帯を爲し、次に森林帯をなし、緯線六十五度以北は、一面の沿海平原にして、沼澤之を蔽へり。

(三) 河流、沼湖

第二號地圖参照

河流の注  
入

(河流) 本洲には、舊世界中最大の河流あり。中央の大高地より發する諸大河は、何れも三方の大洋に注くと雖、又大洋に朝せずして、内地の湖沼に終り、或は沙地に吸収せらるるものあり。

北氷洋に  
入る河

チービ、エニセエ、及リーナの三河は、北洋に朝する三大河にして、其長さ二千六百哩及三千二百哩あり、アルタイ、ヤプロノイ、等の諸山脈に發源す。此三河は、少しく西比利亞地方の運輸を助くるとなきに非されども、殆全く商業の用をなさずと謂ふべし。蓋終歲僅に數月間結氷融解すれども、自餘は閉塞して舟を通せず、然れども其支流の東西に向流するものは、稍用をなせり。



太平洋に注ぐ河流

印度洋に注ぐ河流

大洋に入らざる河流

河系の特状

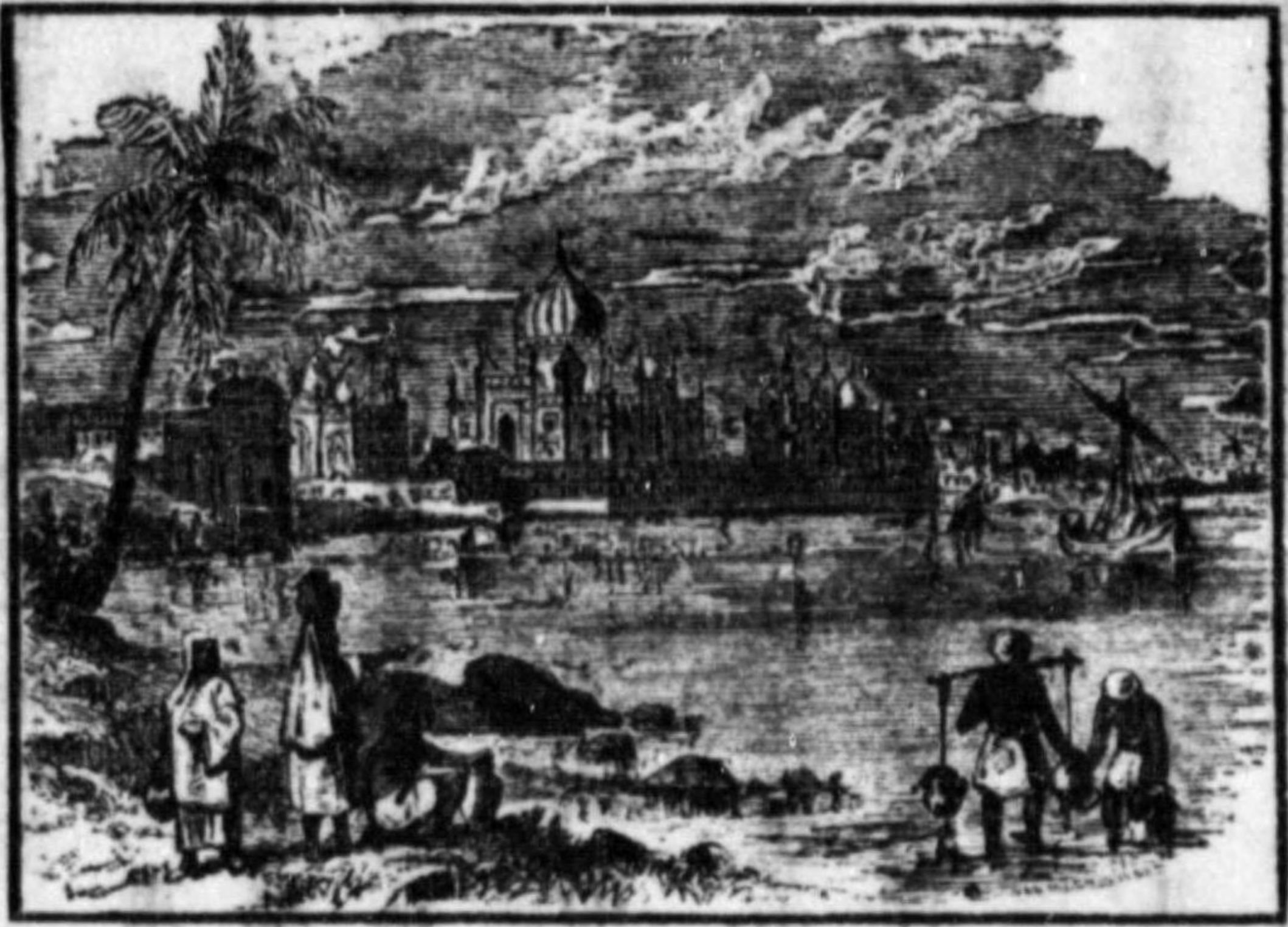
太平洋に入る大河は、黒龍江、黄河、楊子江、東蒲塞河とす、其中黒龍江は滿洲地方の運輸、灌溉の主水にして、同地方の開明進歩せんとするの望は、實に此河あるに由るなり。又楊子江は、支那商業の一大通路にして、本洲中最大切の河流なり。

印度洋に入るものは、イラウディ河、ブラマプートラ河、ガンジース河、インダス河、及ユーフレイトス、ティグリス、兩河を大河とす、就中ガンジース河は、印度のために至大の關係あり。

右の外、大洋に入らざるものは、イリ河、シールダリア河、アムダリア河、ウラル河、等とす。又無數の小川は、徒に乾燥の沙漠に消滅するものあり。

本洲の河系に、二個の特状あり。(甲)諸河、大抵大洲の中央より四方に分流して、大洋に入る事。(乙)河流、多くは双子系を成し、双河其河源近くして、後互に隔離し、終に相近つき、又は相合して大洋に入る事是れなり、黄河と

楊子江、ブラマプートラ河とガンジース河は、此例とすべし。



印度ガングース河

(湖沼) 本洲には、裏海を除きては大湖沼なし、而して稍、大なるものは、本洲の中央高原の西北に位し、且つ、東より西に進むに從て、漸次其位置の高度を減するなり、即ち左の如し、地圖

(第二號)に照らして之を観察すべし。

バイカル湖 一千五百呎(海面上)

バルカーシユ湖 七百五十呎(同)

アーラル海 百五十六呎(同)

裏海 八十四呎(海面下)

此外著名の湖沼は、興凱湖、洞庭湖、鄱陽湖、青海(蒙古)、タンダリー泊(西藏)、ハムーン沼、ウルミア湖、死海、ガリリイ湖とす、就中ガリリイ湖は、海面より低きと六百二十呎、死海は千三百呎にして、世界中の最低地なり。死海の水は、鹹味強くして、水族棲息すると能はず。

(四)氣候

氣候

四種の氣候

本洲の如く、寒帯より熱帯に延亘し、殊に中央に世界最高の山岳蟠まり、又三面各種の大洋に面する巨大の陸地に於ては、位置の南北に從ひ、又其沿海と内地とに依り、氣候の差異あるや固より大なり。各地の氣候は、其地貌と共に少しく之を叙述したれども、今大體に就て之を區別すれば、左の四種に分つべし。

第一は、南方にして、南支那、後印度、前印度に於る如く、極めて炎熱なり、然れども、其南海に濱するを以て、濕氣極めて多し。第二は、西南方にして、氣候極めて乾燥、炎熱なり、阿富汗、波斯、小亞細亞、亞拉比亞に於ける如し、是れ此等の地方の沙漠多きが故なり。第三は、北方にし



雨量

て、近寒極めて甚だし、即西比利亞全部、此内に在り、殊に其北岸リナ河口の如きは、仲夏と雖、地下數尺の下は、結氷融解することなし。第四は中央亞細亞、及北支那の氣候にして、寒暑共に酷しく、概して乾燥なり。而して我日本の如き島國は、大陸氣候と異なり、冷熱共に甚しからず、稍、中和を得たり。

植物

本洲各部の雨量、大に差等あると、猶寒暖の如し。アール海の北方沙漠に於ては、年中一滴の雨を見ざるとあり、然るに印度の東部アッサムに於ては、雨量非常に多く、世界中其比を見ず、要するに、印度及後印度に降る雨量は、全洲の雨量の過半なり。

動物

亞細亞洲は、甚天産物に富めり。特種の植物を擧ぐれば、竹、蘆薈、烏木、檀香木、等にして、其他は松、柏、樅、柳、秦、樺、等吾人の熟知するものなり。菓物には、鳳梨、椰子、無花果、橄欖、タマリンド、コ、ア、等あり。香物には、肉桂、丁子、内豆蔻あり。其他、麻、亞麻、穀物、珈琲、綿花、茶、桑、等の産物、擧て算ふべからず。

動物

動物中、珍奇なるものは、虎、象、水牛、犀、狸々、案山甲(俗に蟻くひ)、斑馬、駱駝、等にして、其他、蝮蛇、鱷魚、等、南部亞細亞に蕃殖するもの少からず。

本洲温帯内の動植物は、既に粗、日本地理に記述したれば、宜しく參觀すべし。

(五)生物

(六)人民、宗教、文化

(人民)

亞細亞の人口は、凡そ八億二千六百萬にして、世界人口の三分二を有し、實に夥多なり。然れども、其粗密は、地方に依り、大に差同あり、蓋其四分三は、支那及印度の平地に群居す、是れ其地味、氣候の然らしむる處なり、要するに、亞細亞は、ヒマラヤの東西大山系によりて、黄白兩人種を區畫し、西南には、主として白人種住居し、東北には、黄人種居を占む。

(宗教)

宗教に就て言へば、佛敎は、日本、支那、印度、西藏等に、波羅門敎は、印度に行はれ、回教は、印度、阿富汗、波斯、土耳其斯坦、亞拉

人民 宗教



熊白 狸海 鳥面七 牛麝 羊羚 鹿馴 鹿 野牛 狼 野馬 鹿洲米 野馬 鹿洲米 野馬



比亞、土耳其に行はる。然れども、各國又特殊の趣あり、支那、日本の如き、教育ある者は、孔子の儒教を奉じ、教育なき者は、大抵佛教に歸せり。又近時基督教の傳播其勢盛にして、日本、支那、印度、等の人民、之を奉ずる者亦少からず。宗教上本洲の名譽と云ふべきは、世界宗教の重なる者、即猶太教、基督教、佛教、ゾロスター教、(一)に拜火教と稱す、波斯に行はる、(二)回教の起原地たると、是れなり。

文化 本洲各國文明の程度一ならず、風俗、習慣、亦大に異なれると本洲の如きは、他に其例を見ず。然れども、之を要するに、白人種の文明は、金銀、寶玉、等の如き裝飾品の發達に偏し、日用普通の有益なる技藝は遂に其後に在り。黄人種の文明は、概して停滯不進にして、多くは活氣なし、但我國人の如き、例外の者あり。又亞細亞の北部は、全く魯西亞國の制を受け、南部は多くは英吉利國の影響を被り、西部海岸地方は、商業上歐洲の風に化せられ、東部に在りては、歐洲風に加ふるに、亞米利加風を以てせり。要するに、其内地と雖、多少、歐米文明の餘波を感ぜざる處、殆これなからん。

(七)生産

職業 本洲の如き、内部に未開の地方多き所に於ては、其生産の種類、一方に偏すると甚し、即ち極北地方には、獸獵及漁業を營む者多く、中央地方には、主として牧畜行はれ、農工商の如き定住事業は、多く東、南、西三方に於る、高原の外周及沿海の地に行はるゝのみ。然れども、

農産 本洲全林を概観すれば、主要の生業は、農業なると、他の大洲と同様なり。

(農産) 農産物の重なる者を舉ぐれば、米、粟、小麥、及雜穀は、支那、後印度、日本に産し、西比利亞の南部と西部は、精良の小麥、大麥、裸麥を出す。印度と小亞細亞に於ては、綿花を作るに少からず。製茶は、支那、日本、印度、錫蘭の主産物なり。養蠶は、日本、支那、印度、土耳其斯坦、小亞細亞に廣く行はる。珈琲の産地は、亞拉比亞、印度、錫蘭、ジャウア、其他の南地なり。砂糖は、臺灣、日本、等の南地及東南地方に多し。香料は、馬來諸島に産するもの多し。藍、黄麻、染料、阿片、幾那は、亦東南及南地方に産出する所少からず。

自餘産物 獸皮、毛皮、脂肪、羊毛は、西比利亞、滿洲、等より年々巨額の輸出あり。魚貝、海草類は、日本、及西比利亞東部の沿海地方に産するもの、舉て算すべからず。

工業 工業は、未大に發達せざれども、裝飾品類は、古來東洋の名物と稱せらるゝもの少からず。其一二を示せば、彫刻、鑲嵌、縫箔、等は、日本、支那、印度、波斯、小亞細亞に製するもの、精緻を極め、漆器、陶器、絹布は、日本、支那に、敷物は、波斯、中央亞細亞に産し、其他種々の什器を出す、其韻致あり、雅麗なると、西洋諸國の、遠く及ばざるものあり。又綿糸の製造は、近頃印度、日本、等に盛に行はるゝに至れり。

(八)交通

陸路 本洲の陸路交通は、重に歩道に依ると雖、其道路の修築概して行届かず。唯日本



全國及印度の一部には長道路あり。西比利亞には、東西に貫通する著名の道路あれども、南北の道路は、山川、藪澤、沙漠等の障害甚し。鐵道は、印度に凡二万哩、日本に二千哩、土耳其に凡一千哩、暹羅に三百哩あり、其他は算するに足らず。然れども、魯西亞は、西比利亞鐵道の計畫あり、其中東海岸鐵道の落成せるもの、二百哩餘に達し、且つ其西部も、數百哩成就せり。又中央亞細亞に、八百九十哩の鐵道あり。

水路

(水路) 水路の大なるは、第一支那にして、諸大河及運河あり、又沿海の航路少からず。西比利亞には、三大河の支流に由りて、東西の往來を便し、加ふるに黒龍江は、二千哩の間航行すべし。日本は、航河甚少しと雖、沿海交通の利便極めて大なると、本洲中之に過ぐるものなからん。

郵電

(郵電) 電信、郵便は、我國の發達最大なり、而して西比利亞、印度、支那等に於ても、重要な都府、港市は、大抵此交通具なきはなく、坐して世界の大都府と通信するを得べし。

(九)貿易

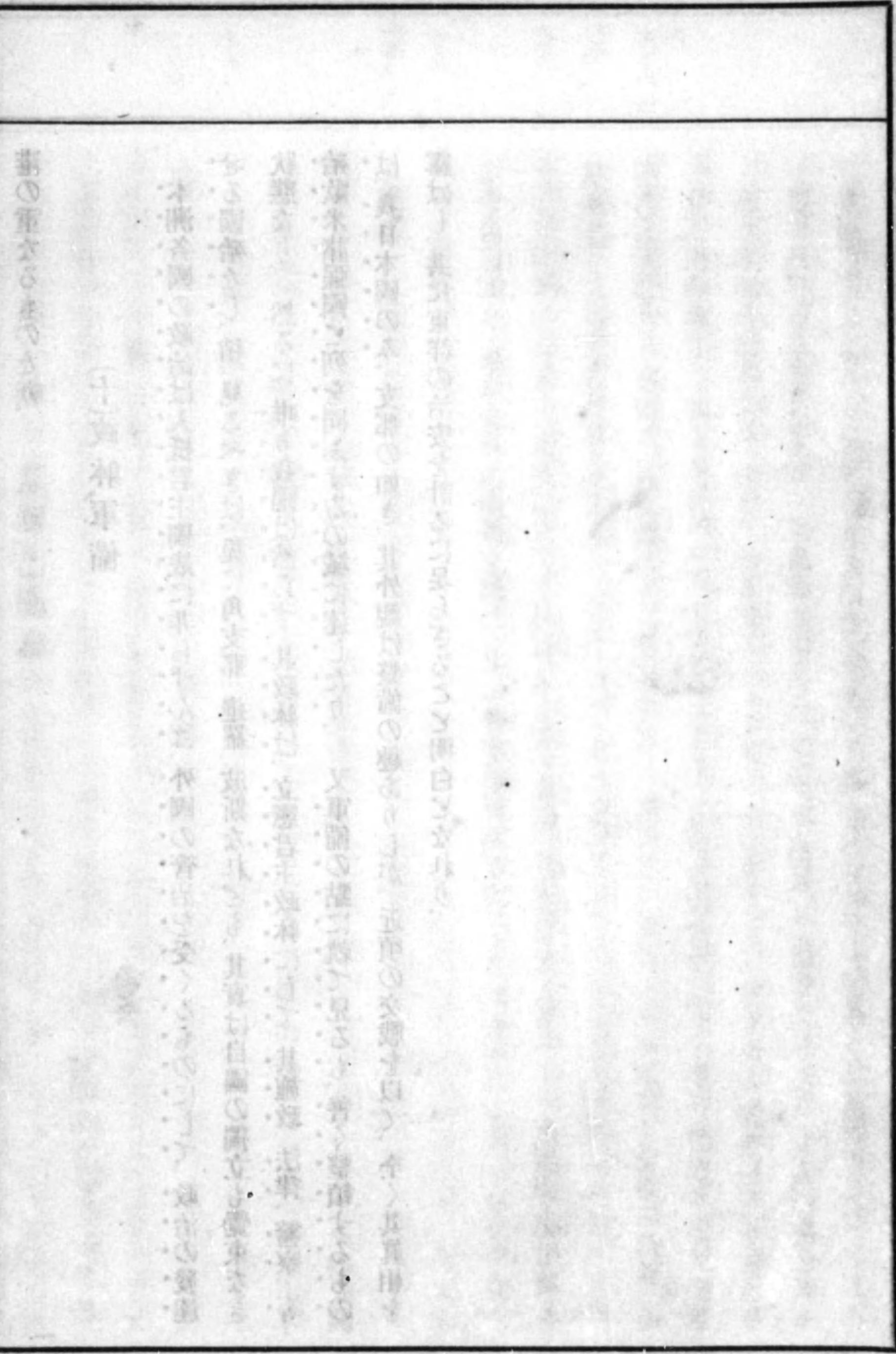
本洲各部の通商貿易は、其起原最古く、蓋し數千年の上にある。往昔は、主として駱駝、馬等に由りて、貨物を運搬せしと雖、印度、支那、日本の開港以來、漸く汽船の航行始まり、今日に於ては、歐米各國との貿易は、多く之に依れり。本洲の南部及東南部の諸港、我が横濱、神戸、長崎を首め、釜山、芝罘、上海、漢口、香港、廣東、新嘉坡、カルカッタ、ボンベイ、アデン、等は、通商

港の重なるものなり。

(十)政躰、軍備

本洲各國の政治は大抵君主獨裁に非らずんば、外國の管治を受くるものにして、政治の發達せる國殆なし、稍見るべきは、兎に角支那、暹羅、波斯なれども、其實は自國の獨立も覺束なき状態なり。然るに、唯り我國は然らず、其政躰は、立憲君主政躰にして、其施政、法律、警察、等殆歐米諸強國と列を同ふするの域に達したり。又軍備の點に就て見るも、善く整頓するものは、我日本國のみ、支那の如き、其外觀は整備の趣ありしが、近頃の交戦を以て、全く其真相を露はし、共に東洋の治安を計るに足らざること明白となれり。





### 第二編 歐羅巴洲誌

#### 第一章 發端

第七號地圖参照

(一)廣袤 歐羅巴洲は、其形三角にして、其尖角西南に突出せり、實は亞細亞に屬する大半島と謂ふべし。其長さは、ウラル山より、西南端まで、凡三千三百哩、其幅は、南端マタバン岬より、北端の北岬まで、二千四百哩あり。面積は、大約三百七十七万方哩にして、其大さ亞細亞洲の五分一に過ぎず。

(二)境界 東は、ウラル連山、ウラル河、裏海を以て、亞細亞洲に接し、南は高加索山脈、黒海、地中海に臨み、西は全林大西洋を扣へ、北は北氷洋に接せり。

(三)沿海 周圍の海灣、海峽、半島、島嶼、等の名稱は、大畧左の如し。いざ地圖(第七號)を披みて、其位置を熟覽すべし。

南方の海部 裏海は、既に陳べたれば之を畧し、黒海より始めん。此海は、東西六百哩、南北二百哩あり。北の半島はクリミアと稱す。其東側の灣水は、アゾフ海なり。亞細亞洲と本洲を隔離する二海峽、及其間のマルモラ海を過くれば、地中海の領域にして、此邊無數の島嶼散在するを以て、群島の稱あり。西の半島は、希臘半島にして、其岩濱曲折甚多し、南端をマタバンとす。其東南に、クリート島一名カンディア島あり。



希臘の西に、アドリアティック海深く陸地を穿つ、長さ五百哩あり。以太利半島は、長靴の形を成し、其指端にシハリー島あり、島中に著名の火山エトナ屹立す(一万八十四呎)。それより西北の二大島は、サルデーニアとコルシカなり、コルシカ島は、佛蘭西のナポレオン誕生の地として、名高し。西に方りバリーリック諸島あり。西の海峡は、地中海の西門ジブラルタルにして、其幅僅に十二哩、本洲と亞弗利加とを分つ、且つ軍事上大切の所なり。**大西洋** ジブラルタル海峡を出つれば、大西洋なり。アイベリアン大半島の西南角は、ウインセント岬とす。此半島を周くれば、ビスケー湾あり、北にブリタニー半島突出す。北の大群島は、世界の大富強國英吉利にして、就中大島二個あり。此群島と大陸の間を英吉利水道と云ふ。

其北の海部は、北海にして、其東方にユットランド半島北に出づ。其北端を周くりて、バルティック海に入れは、數多の島嶼散點す。北にボスニア灣、東にフィンランド、リーガの二灣あり。西の大半島は、スカンディナヴィアなり。又西の方遙に海中に位する大島は、アイスランド、即ち氷島と稱す。

**北氷洋** 大洲の北端は、北岬にして、其東の彎曲部は、白海と稱す。半島其北を畫きる。更に東方の小灣は、チエスカイアにして、北にノーヴァゼムブラ島あり。其西には、又スピッツベルゲン群島(第一號地圖中北極圖参照)あり、海豹、海馬、の類、氷海に出没す。

**(四)國土の區劃** 本洲の西部は、イタリー半島の北に、本洲第一の山脉アルプスありて、其

北氷洋

國土の區劃

支脈四方に分出し、以て其周圍諸邦の國境を限きると雖、東部は、概して平原にして、山脉の國境を成すものなし。今山脉に拘はらず、左に本洲列國の名稱を排列せん、讀者宜しく地圖(第七號)を案して、其位置を區別すべし。

西部には、土耳其(ルーメリア、ブルガリアを含む)、ルーマニア、セルヴィア、モンテネグロ、希臘、奧地利、匈牙利、以太利、瑞西、西班牙、葡萄牙、佛蘭西、白耳義、和蘭、日耳曼、丁抹、那威、瑞典、英吉利の十七國あり。

東部には、魯西亞の一國あり、此一國の占むる面積は、他の十七國の面積よりも稍大なり。

第二章 歐羅巴列國誌

(一)歐羅巴土耳其

**(位置、面積、等)** 土耳其帝國、一名ナトマン帝國は、前段記したる如く、三大洲に跨る大國にして、今述べんとするは、其歐羅巴洲内の領地なり、是れ即ち此帝國の本部にして、本洲の東南部に位せり。

此領地は、直轄領と、藩屬領の別あり、之を合すれば、其面積十一万四千五百餘方哩なれども、其屬領ブルガリア公園、及東ルーメリア自治國を除けば、七万六千七百方哩なり。總人口凡八

位置



地貌

百萬あり。之を我國に比するに、其面積は殆我國の八分の七にして、人口は其五分の一に過ぎず。(日本の面積は凡十四万七千六百二十三万哩なり)。

氣候

(地貌、等) 地貌は、山多く景色に富み、又肥沃の平谷少からず。バルカン山脉の東端は、ダニュープ河と平行し、ブルガリアの低地と、東ル・メリアの低地の分水界をなす。此山脉より南に走りて、希臘半島に入る山脉はピンダス山脉といふ。バルカン山脉の南は、氣候概して溫暖にして、殊に南海の濱は、禾穀、草木よく發生せり。内地の山國は、寒暑ともに甚し。

人民

(人民) 歐洲土耳其の人民は、黃人種と、白人種と混合せり。人民は回々教の外は、大抵基督教を奉せり。此國の教育は、世人の想像と異なり、案外に普及せり。大學、其他専門學校、等大抵備はれり。當國は、衣服、飲食、家屋、寺院、等百事他の歐洲諸國と異れり。總て回教信者は、寛衣を着し、紅帽を被り、婦人は、外被を垂れ、面を見はさず。風俗恭敬を重すれども、婦人を卑み、妾婢を賣買す。



府ルブーノイテムタスニコ

都府

(都府) 大都會と稱すべきは、唯、首府コンスタンティノブルのみ。其位置ボスポラス海峡に臨み、風景極めて佳く、商業、及軍事上、最便宜あり。船舶の出入繁く、諸大國と定期郵船の往復多し。人口八十七万三千餘あり。サローニカ(人口六万)はサローニカ灣にある繁昌の交易場なり。

産物

(産物) (農産) 耕作の法最幼稚なれども、地味概して肥沃にして、穀物、葡萄酒、菓實、薔薇油、煙草、亞麻、綿、等少からず。(畜産) 馬、蜂蜜、蠶絲の利少からず、特に山羊の肉は、國人の重なる食物なれば、其産出多し。(工業) 嘗て、工業名ありしが、今は西部歐羅巴諸國の製品に壓せられ、甚衰微したり。故に、此國は外國工業物の好市場なり。

貿易

(交通、貿易) ダニュープ河の外、航河殆これなく、道路其他交通具開けず。内地商業の振はざる、歐羅巴中其比なし。輸出品は菓物、珈琲、阿片、小麥、羊毛、橄欖油、香油、等にして、輸入品は、砂糖、綿糸、小麥、毛布、金屬、玻璃、陶器、紙、石炭、石油、等なり。

政事

(政治、軍備) 此國の皇帝は、サルタンと稱す。一旦憲法を制定したれども、實際に行はれず。財政修まらず、官吏の給料も、悉く支給すると能はず、隨て汚行甚たし。外國債の利子も、亦之を拂はずして、遂に外國政府の干渉を被むるに至れり。

軍備

陸軍は現役凡二十万あり。海軍は甲鐵艦十五艘、木造艦數十艘あり。土耳其帝國は、其領地三大州に跨り、其面積甚廣大にして、總計百六十二万九千餘方哩あり、其人口は三千九百二十一万餘なり。領地の名稱は下の如し、歐羅巴の直領州、ブルガ



リア自治國、東ルーメリア、亞細亞の直領州、亞弗利加の直領州（トリポリ）、埃及國、これなり。

(二) ルーマニア、セルヴィア、モンテネグロ

此三國は、舊時土耳其帝國の屬國なりしが、近時獨立して、幾分か一國の軀面を具ふるに至れり。

（ルーマニア） 此王國は、面積我國の凡三分一にして人口五百五十万なり。西邊の外は、大抵平坦なり。全土の大半は牧場にして、國民の財産は、主として馬、羊、其他の家畜にあり。石油と岩鹽は名産の稱あり、首府ブカレストはダニュープ河の北に位し、人口十九万四千あり。

（セルヴィア） 此王國は、北境はダニュープ河に接し、面積は、凡我國の八分の一にして人口二百十六万なり。國中、山岳起伏し、森林大半を蔽ひ、櫟樹に富む。

國民は、概して皆基督教を信ず。首府は、ベルグレード（人口五万四千）にして、交易繁昌なり、河畔は、土地肥沃にして、農産少からず。牧畜亦盛にして、牛、羊、豚多し、豚を飼ふに、櫟の實を以てす。豚、梅干、穀物、等を輸出し、砂糖、藍、石油、等を輸入す。

（モンテネグロ） モンテネグロとは、黒山の義なり、森林、國の全面を蔽ふ、此名稱は、よく土地の狀貌を表はせり。東部には、アルプス山脈の高峯（九千五百七十呎）屹立せり。南

モンテネグロ

セルヴィア

ルーマニア

方僅に海に面す。面積三千六百三十方哩、人口二十万餘あり。首府セツテピンジは、人口一千二百の一村落のみ。國際上の關係によりて、軍旗及戰艦を有すると能はず。國中岩石多くして、牧牛に不便なり、然れども、羊、山羊、豚の畜養少からず。

(三) 希臘

（位置、等） 此國は、海岸の屈折、出入、煩多なると其地境に比して、萬國に冠たり。面積は、我國の北海道本島よりも遙に小なり、人口百九十七万あり。

（地貌、等） 地形、天然に分れて、二部となる、北希臘及モリアと稱し、コーリンスの地峽之を連絡す。北部には、ピンドス山脈南北に走り、支脈東西に派出し、數川之を灌漑す。概するに、山岳は彎曲して、其狀恰も鐵蹄の如く、海濱に面せり、故に往昔は、之によりて數多の小邦を畫し、現今は、各州の境をなせり。地味は、概肥沃ならざれども、周圍の群島は豐饒なり。高山は、年中大抵雪を戴けども、沿海の地は、殆寒を知らず。夏は炎暑甚しく、低地の牧場は、乾燥して草を生せず。

（人民、都府） 一千八百三十年、土耳其の管轄を脱して、獨立したる以來、大に普通教育を勵し、其結果觀るべきものあり。此國は歐洲中に於て、最先きに開化したるを以て、名所舊跡少からず。首府は、アゼンズにして、政治、教化の中心をなし、人口十萬七千餘、其港をピリアスと稱す、兩所の間、鐵路を布く、要港にして、工業あり、且造船甚盛なり。

位置 地勢 氣候 人民



産物	(産物) (農産) 此國は、概して農業國なり。土耳其の虐政を脱してより、穀物の産額大に増加したり。農産は、覆盆子、果實、煙草、綿、等なり。(鑛物) 鑛業未だ發達せず、石炭と資本に乏しきが故なり。
交通等	(交通、貿易、等) 馬車を通ずべき大道路は、二三の重要市府間にこれあるのみ、國人は、商業、運輸の事業を好み、黒海及地中海の東部に於ては、希臘の船旗勢力あり、重なる輸出品は、小乾葡萄、鉛、油、葡萄酒にして、輸入品は、穀物、織物、等なり。日本との通商條約あれども、其取引少し。
位置	(位置、區劃) 奧地利匈牙利國は、面積二十四万九百四十方哩あり、人口は四千二百一十三万餘なり。此國は、内實分れて奧地利、匈牙利の二國となす、但し其君主は同一なり。
地勢	(地貌、河湖) 山は西部に多く、低地は東部に多し、國中最大の平原は、ダニュープ河の流域にして、匈牙利の大半を占め廣大の農産地なり。此大平原の西部に、アルプス山脉あり、其最高峯は、富士山よりも、少しく高し、ゴヘミア森山、カルバーシアン山等の數山脉東、北、西の三方を繞れり、概するに、河流の排列宜を得たり、唯惜らくは、有用の河流、アドリアティック海に注かざるとこれなり。ダニュープ河は、日耳曼より來り、全國を貫流すると、殆八百五十哩。
河湖	

(四) 奧地利 匈牙利

氣候	歐洲第二の大河にして、當國通商の要路なり。河流は、匈牙利に入りては甚緩にして、水量の増減少なく、大に運漕に便なり。西北部にエルベ河あるを以て北海及大西洋との交通便なり。
人民	(氣候) 此國は、其位置大陸にあり、且つ國中山多きが爲め、海岸の外は夏は暑く、冬は寒し、山地は雨量多く、低地は降雨少し。匈牙利の濕地は、暑中熱病を發し易し。
都府	(人民、都府) 此國の人種と言語は、甚雜駁にして匈牙利には黃人種多し。宗教は基督教なり。學校は、全國に普及し、其進歩著し。大學の數十一あり、概して理學に精く、文學に粗なるが如し。
都府	ヴァエナは、此帝國の首府にして、全國の商業地の中央に位し、且ダニュープ大河に瀕し、歐洲中樞要の大都會なり、商賣、工業、益、繁昌す。人口百三十六万あり。府は四方に丘陵を繞らし、風景佳なり。府内に日本の公使館あり。當府の緯度、日本の札幌よりも北に偏せり。
都府	プーダベスは、匈牙利の首府にして、亦ダニュープ河に跨り、水運の便利と、商業の自由を兼ねたり、市内の製造亦盛にして、人口五十万あり。トリーエスト港(人口十五万八千)は、アド
都府	



奧地利南境山岳中土柱



農産

リアティツクの沿岸に位し、當國第一の外國貿易市場なり、恰も我國の横濱港の如し

畜産

(産物) (農産) 此國は、歐洲中最天裕多き國にして、全土概肥沃なり、去れば農業は主要の生産にして、穀類、砂糖、菓實、橄欖、桑、葡萄、麻類、等の産出少からず、殊に匈牙利は實に當國の穀倉なり。(畜産) 牛、馬、羊、豚、蜜蜂、等の畜養甚盛なり。

林産

(林産) 當國は、歐洲中最森林に富む諸國中の一にして、全國の三分二は森林なり。(鑛産) 鑛産

工産

も歐洲中最多き一國にして、石炭、鐵の二物を重要とす。(工産) 西部は石炭と水力に富み、且つ

交通

熟練の職工多きを以て工産盛なり。製造品は、木綿、麻布、毛絲、雜貨、金工、玻璃、陶器、等なり。

貿易

(交通、貿易) ダニエーブ河、國中を流通し、汽船の上下するもの、殆二百艘、以て黒海に達すべし。又運河の水路甚長し、諸河口の、外國に屬するは、唯此國の不利なり。輸出品は、穀物、

政治

麥粉、薪材、等にして、輸入品は、羊毛、棉花、石炭、木綿、絹布、茶、煙草、等なり。我國への輸出は、銅、亞鉛、等にして、我國より輸入するは、米、生絲、雜貨、等なり。

國防

(政治、國防) 政体は、立憲世襲君主政治なり。又國の東南海岸なるボスニア、及ヘルゼゴビナの兩國は、一千八百七十八年より、土耳其の管轄を脱し、此國の支配するとなれり。

此國は、國境の長さ五千四百哩、或は山川の要害に依り、或は城堡を構へたり。陸軍の常備兵、三十二万餘、戰時には、百七十五万の兵を出すべし。海軍は、諸艦船を合せて、百四十艘なり。

り。

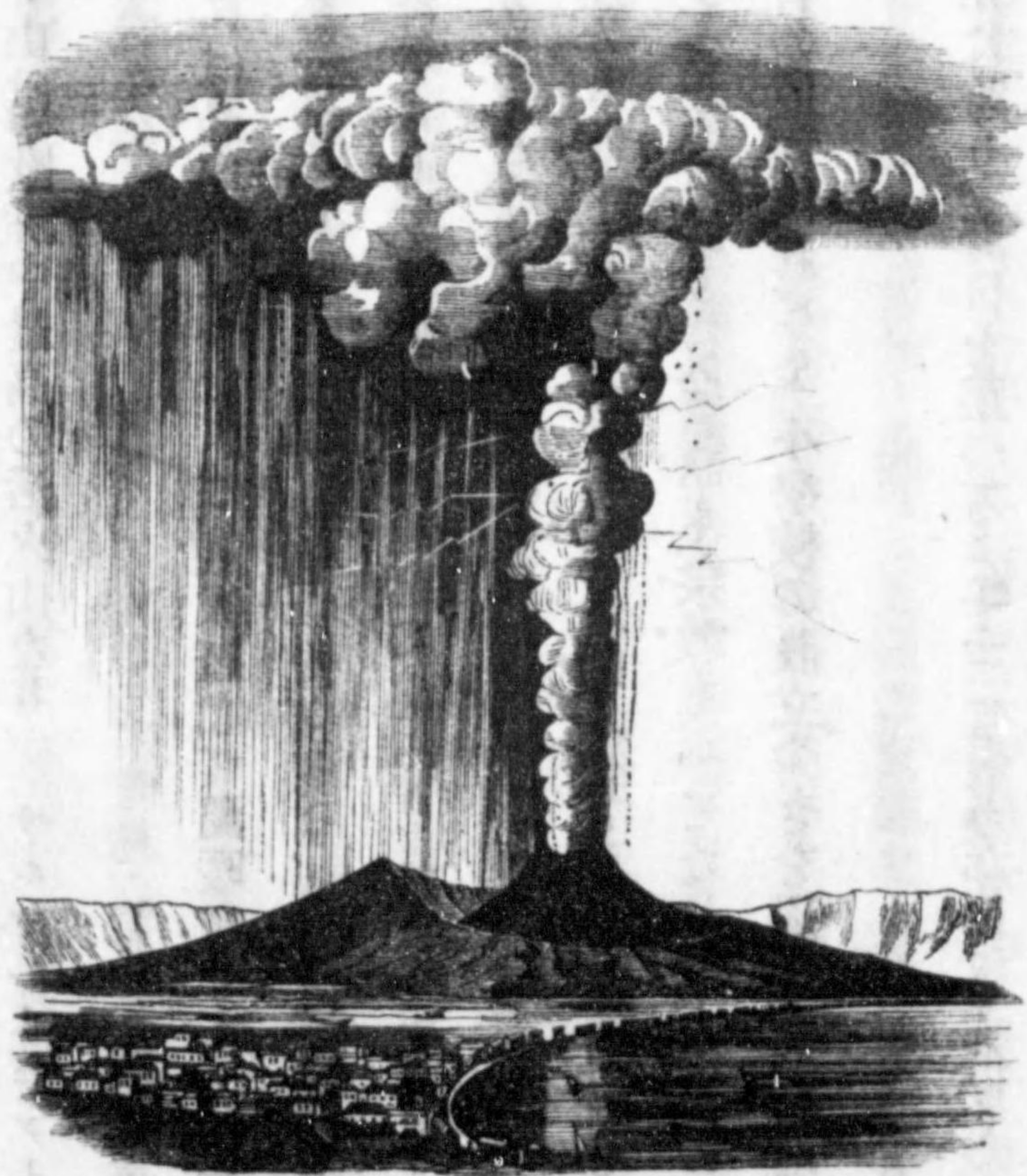
(五) 以太利

位置

(位置、等) 以太利は、希臘と同じく、歐洲南部の半島國にして、其形長靴に似たり。北方の外は、大抵地中海に臨めり。面積は日本よりも稍小なり。人口三千三十四万なり。

地勢

(地貌、河湖) 此國は、恰も我國の如く狭長にして、脊骨山脉之を貫けり。北境にアルプスの高山脈あり、アルプス山脉地中海に近つき、漸く東に曲りて、當國に入る、之を沿海アルプス山と稱し、アペンニ山脉に接す。アペンニ山脉は、東南に走せ、海峽を涉りて、シシリ島に蜿蜒せり。此山脉の最高點は、一万二百呎にして、本土の中央に位せり。アルプス、アペンニ兩山脉の間に、ポイ河畔の大平原あり、一にロムバルド平原と稱す。廣大なる米田、及牧場にして、毎年牧草を萌芽すると、六回に及ぶといふ、實に當國の寶庫なり。



往昔の火山破滅の圖 (イタリヤの東方に在り)



河湖

ポ・河は、長大なれども、其流急やく、舟航に便ならず、此邊運河よく整頓し、農夫毫も早魘を恐れず、西岸にタイバル川あり、其沿岸は、ローマ平原にして、著名の古市ローマ此にあり、湖は、北部及中部に少からず。

屬島

諸屬島中、シシリイは、山多くエトナ山は、歐洲中最高の活火山なり。サルデーニアも、山岳多く、地味肥沃なり。

氣候

(氣候) 當國は、海中に斗出し、北には高山を控へたれば、氣候概して溫暖にして、天色常に蒼々たり。西岸は、夏は亞弗利加より熱風(シロコ)吹來り、動植物皆衰弱す。冬は凜烈なる風の吹かざる所少なし。ポ・河口の沼澤等より發散する瘴氣健康に害あり、輓近アルカリ樹を栽植して、此毒氣を消散せんとするの計畫あり。

人民

(人民) 人口稠密にして、蕃殖亦速なり。上古以來、四方の人民入來り、種々の血統を雜へたれども、今日は幸に一致して、一國民を造るに至り、又言語も、宗教も、一となれり、數多の中學校、及二十一の大學校ありて、高等教育の道備はれども、小學校の設立少きを以て、人智進歩せず。

都府

(都府) 首府ローマは、タイバル川に跨り、海口を距つると十三哩、其左岸は甚低く、河水汎濫の虞あり、右岸には、法皇の宮殿、世界中最廣大なる聖彼得の會堂あり、此他、舊蹟、名所甚だ多く、諸國の觀客、此地に集るもの年々少からず。人口二十七萬餘あり。日本の公使此に駐在す。當府は、粗、我國の函館と同緯度にあり。チ・プルスは、南部西岸の大都府にして、風

產物

景絶佳の稱あり。人口四十六萬餘、國中最大の都府なり。ヴェニスは、アドリアティック海頭にあり、中古は、著名の商業府なりき。此他人口十萬乃至二十九萬を有する都邑、六個あり。  
(產物) (農產) ポ・河畔の溫暖地には、玉蜀黍、米、小麥、亞麻、桑等を多く産す。中部及南部平原は、菓實及橄欖の培養、盛なり、葡萄酒の醸造亦夥し。養蠶は、歐洲中此國を以て、最盛とす。(鑛產) シシリイの硫黃、鐵、大理石、等の産出少からず。(工業) 往時は、製造を以て歐洲に冠たりしが、今日は、他國の後に落ちたり、これ石炭と水力の缺乏、及資本の僅少に源因せり。北部の絹布、綿布、綢具、紙、油、香水、等は、重要な工業なり。

交通

(交通、貿易、等) 以太利は、内國の航路甚短きを以て、交通、運輸は大概鐵道に依るなり。北方アルプス山を通過する鐵道、六條あり。海岸貿易は、灣港乏しきがため、隆盛に至らず。ゼノア、チ・プルス、は肝要の開港なり。輸出品は絹布、菓物、硫黃、葡萄酒、綿花、等にして、輸入品は、穀物、酒精、木材、綿、石炭、石油、等なり。日本より、輸入する者は、生絲、米、及び雜貨なり。

政治

(政治、軍備) 政治は、立憲君主政にして、上下兩院あり。此國は、外患、内憂のために、國家久く亂れ、今より二十餘年前の革命戦争により、全國始めて一統し、獨立の立憲國となりたり。陸軍の常備兵二十六萬二千餘、海軍の諸艦船、合せて二百五十二艘あり。

軍備

(六) 瑞西



位置 地勢 氣候 人民 市府 產物

(位置、地貌、等) 端西は、歐羅巴洲の最高處に位し、四大國と其境を接する小邦なり。面積は日本の九州島と大抵同一にして、人口二百九十一万餘なり。

當國は、歐洲中最山多き國にして、アルプス山、全土を蔽ふ。中央歐羅巴に發する諸川は此を中心として四方に流下す、ライン、ローン、等の諸川是れなり、山の傾斜は、南方に急なれど、北方は緩なり。山中に氷原と氷河あり、又數多の湖あり、ゼニール、コンスタンス等にして、

何れも河流之を貫く、峽中の風景歐洲に冠たり。此地の流水は、急なれば航行に適せされども、其水源氷河なるを以て、四時水の絶ゆるとなく、頗る工業に便なり。

地面、凹凸極めて甚たしきが故寒暖の差頗大なり。雨量は、山中に多く、

年中四分の一は雨多く、低地は其半に足らず。

(人民、市府) 四種の言語國中に行はる。教育は頗



盛にして、讀書、習字を能くせざるもの殆罕なり。大學は最高等にして、各國の遊學生常に絶へず。上等社會

の小兒は、能く二三國の言語に通するもの少からず。人民自由を重じ、對外の思想に富む。此國には大都府なし、ゼニール(人口七万一千)は時計の製造盛なり。ベルン(四万六千)は、議會の所在地にして、此國の首府なり。

(産物) 此國は、山勝ちなれば、耕地少く、牧場多し。穀類は、内國の需要に足らず、葡萄、菓

工業

實各地に産す。牧畜の業盛にして、耕作に優り、家畜の牧養、乾酪の製造、及山羊の飼養少からず。

工業國中、瑞西の如く、工業に不便なる國あらざるべし、何となれば、高山多く、河流急にして、交通、運漕に便ならず、且天産物は、内國の需要に足らされはなり。然るに、國人大に製造を起し、遂に工業を以て、國本となし、廣く外國と競争するに至れり。此成功は、主に不易の水力と、職工の勉強とに因れり。製造品の重なるは、織物、時計、寶石、機械、毛製品、麥藁細工なり。

(交通、貿易、等) 當國は、以太利、佛蘭西、日耳曼三國の中間に介在し、古來専ら此三國と貿易、交通せり。其鐵道の複雑なる、恰も蛛網の如くにして、且九哩餘の長隧を穿てる所あり。電信郵便の法、最整頓し、現に萬國聯合電信郵便の中央事務所は、國都ベルンに設置せり。

貿易は、四隣の外、亦東洋諸國にも、大關係あり。人民好んで外國に出稼し、能く富を作りて、歸國するの風あり。輸出品は、家畜、乾酪、絹綿布、時計、機械、等輸入品は、食糧、石炭、鐵、石油、等とす。我國に、時計、染料、絹布を送り、我國より、生絲を輸入す。

瑞西は、立憲共和政体にして、二十二の自治州、相合して聯邦を成せり。一國の行政權は、七人の委員之を掌握す。議院は、上下の兩院あり。軍兵十二万六千あり。

(七) 西班牙

(位置、地勢、等)

西班牙は、葡萄牙と共に、アイベリアン半島を占む。面積十九万七千六



地勢

百餘方哩、人口一千七百五十五萬餘あり。海岸の尤も注意すべきは、ジブラルタル海峡とす。北方佛蘭西の境は、ピレニース山脉を以て塞ぐ、其高峯は、一万一千百餘呎に達せり。山中樹木少なし。此より北岸を西走するは、カンタブリアン山脉とす。此兩山脉の間より、東南に、アイベリアン山脉延び、其西に數脈の山脉支分す。國の中央は、高さ二千呎以上の高原にして、樹木乏しく、唯僅に牧場あり。四川大西洋に注ぐ、其最南のガダルキヴィル川と、東北のエーブル川とは、能く舟航に適し、其流域は俱に廣大の沃原なり。

河湖平原

季候

此國は、以太利と其緯度を同じくし、又海水を繞らすと雖、其季候は大に異なれり。季候の溫和なるは、西北部、及東北部のみ、内地は、寒暑共に甚しく、雨量は、概して少なし。

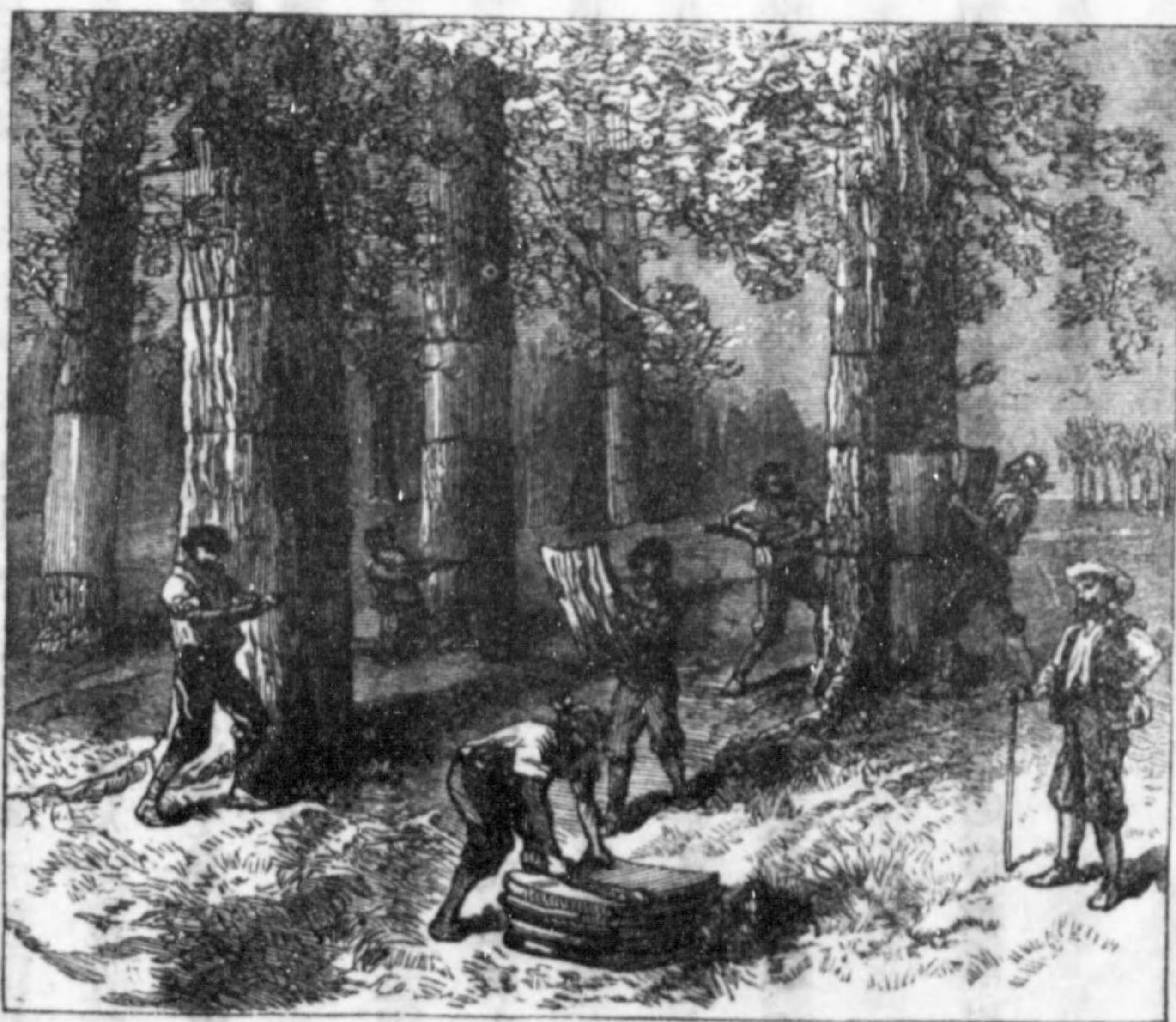
(人民、都府)

國民は、多く順良なれども、

人民

教育普及せず、要するに國民は、大に近代の勤業、文明に後れたり。首府マドリッドは、國の中

央高原にあり、其位置海面を抜くと、二千四百呎、四近乾燥にして、草木、菓實繁熟せず、人口四



図の收採木栓

産物

十七万あり。東北地中海岸のバルセロナ港は、緊要の交易場にして、人口二十七万あり。其他、ジブラルタル(人口十八万)は、地中海の咽喉にして、亞弗利加と交通の要路に當れども、英國に屬せり。

(産物)

(農産) 當國は、大半不毛の地にして、殊に内地の高原は、森林を濫伐したるが故、最

水なきに苦しめり。農産は、莢豆類(國民の食物)、菓實類、葡萄、胡椒、栓木、等なり。(牧畜)

綿羊、山羊、牛、馬を産す。(鑛物) 鑛業進まず、水銀、鉛、銅、鐵、鹽は産額最多し。(工業) 今は工

業振はず、僅に外國の資本に依りて、之を維持す。製造品は綿、麥粉、油、織物、等にして、東北

隅は、最盛の製造地なり。

(交通、貿易、等)

國內道路壞れ、航河甚だ少く、山多きを以て、交通便ならずと雖、近頃大

に鐵道を擴張し、殊に佛蘭西、葡萄牙に通ずる鐵道は、著しく農工商業を發達せしめたり。輸

出品は、葡萄酒、油、羊毛、鑛物、栓木、穀物、等にして、輸入品は、綿、穀物、煙草、石炭、金屬器の類

なり。

政治は、立憲世襲君主政にして、議院は上下兩院あり。陸軍は、平時凡十四万五千あり。海

軍は諸船艦五十餘艘あり。

此國の外國屬地は、凡四十万五千方哩にして、其住民の數、凡九百七十万あり。屬地の重なるは、大洋洲のフィリピン群島、スルー群島、カロリン群島、マリアナ群島、亞米利加の西

印度キューバ、ポルトリコ、其他亞弗利加のカナリー群島、ギニー海岸、等なり。往時は巨大

屬地

政治

貿易

交通

工業



の屬領を有せしが、今日は大抵之を失へり。

(八) 葡萄牙

位置 面積は、日本の四分一に足らず、人口四百七十万餘あり。國內には、西班牙より連亘する數山脉、縦横に起伏す、海濱は、低卑にして、藪澤多し。全地豊饒にして、河流の汎濫すると多し。航河少からず、其下流は大船を容るべし。東部は、氣候往々酷烈の處あれども、西部は海に濱するが故、一般に氣候溫和なり。

人民 (人民、都府) 宗教、教育共に、西班牙人と大差なし。兩國民の氣質は、酷似たる處あれども、常に相疾視するが如し。

市邑 國都リスボンリスボンは、テージガス河口に位し、世界無双の良港なり、此より國の中央及西班牙に通ずる鐵道あり、又運道甚便利にして、四方の貨物此に集る。人口二十四万餘あり。

産物 (産物、貿易、等) 地味豊饒なるも、耕地は、僅に全面積の五分一に過ぎず。農産は、葡萄、菓實、栓木、亞麻にして、畜産と共に西班牙と粗同じ。製造品は麻布、毛布、絹布、帽子、革、陶器、等なり。

交通貿易 近年に至り、大に交通の道を擴張したれば、内國貿易大に進歩したり、殊に沿海の商賣、甚活潑なり。輸出入品の重なるは、葡萄酒、菓實、海鹽、と製造品、綿、石炭、金屬、材木、等なり。原來、葡萄牙人は、西班牙人と俱に、夙に我國に渡來し、泉州境に於て通商したるとあり、其頃は獨

り海運、貿易の權を握りけるが、今は然らず。

政治 國政は、世襲君主政にして、憲法あり。往時は西班牙と同じく、屬領廣大なりしが、今日存する者は、亞細亞と亞弗利加を合して、其面積凡七十四万二千方哩、人口五百三十七万人なり、支那の澳門も其一なり。

(九) 佛蘭西

位置面積 (位置、區劃) 佛蘭西は、歐洲西南の大國にして、北境の外は、山海國を鎖せり。面積二十万四千方哩、我國よりも少しく大なり。人口三千八百三十四万なり。

地勢 (地貌、等) 海岸は、概扁平にして、砂土深く、良港灣に乏し。東部は山岳多けれども、境山の外は、甚高からず、我奥羽地方の山と伯仲せり。西部は總て平地なり。東方の境山中、アルプスは、峻嶮にして、フランスの高峯を戴けり。

河原 當國の河流中、ローン、ソーンの兩河は、南流し、其他の大河、ガロン、セーン、等は西流せり、河流の水域は、廣大の低地をなし、地味概して肥沃、漕運の便利極めて大なり。

氣候 當國は、溫帶の中央に位し、歐洲中氣候最溫和なり。北部地方と雖、山地の外は、冬も寒からず、南部地方も、暑氣堪へ難きに至らず。降雨の量は、概して多く、殊に太平洋海岸は、最多し。

人民 (人民、市府) 宗教は概して基督教なり。近時大に教育を勵み、學徒大に増加す、唯墮地利若くは日耳曼に及ばず。然れども、國民美術の思想に富み、百工、技藝に長ずるは、他國の及ば



市府

ざる所なり。國民は性質快活にして、私事の爲めには勤勞を吝まず、公事のためには、其身を犠牲とするの氣風あり、是れが爲め、世界の耳目を驚かすと少からず。

國都パリイ府は、セーン河に跨り、百工、技藝の淵藪、且歐洲諸國風俗の中心なり。世界都府中、ロンドン府を除きては、人口二百四十四万第一に位する所以は、其文學、技藝に卓れ、才子、佳人の交際に富み、若くは錦衣、玉食の快樂あるのみならず、其公園、其建築、其博物館、其繪畫閣、其圖書館の如き、何れも天下に稀なればなり。家屋は、大抵四層の高樓にして、借家人は、其一層、若くは其一部を賃せり。市街の周圍には、城壁を繞らし、守備嚴重なり、蓋し去る一千八百七十一年に、獨逸兵の屠戮、掠奪を免れたるは、此城壁の然らしむる所なり。當府在留の日本人凡三十七人、又日本公使館あり。當府の緯度は、日本の千島の北部と同一なり。

マルセルは、地中海の一大要港にして、遠近諸國との交易の中心なり。我國より歐洲西部に直航する者は、多く此に上陸するを常とす、人口四十万、當國第三の市街なり。此外、リチン(人口四十一万、絹布製造を以て世界に冠たり、此に日本の領事館あり、日本人十三人在留す)、ポールドー(二十五万)、等の大市、要港あり。又人口十万乃至二十一万の市府八個あり。

(産物) (農産) 佛蘭西は、工業も盛なれども、原來農業國にして、土地の過半は耕地に屬し、人民も過半農人なり、北部の小麥、馬鈴薯、甜菜、亞麻、菓實は産額多く、又南部の葡萄、橄欖、桑樹の如き、著名の産物あり。

(畜産) 牧畜は、意を用ゆれども、尙劣等なり。良牛及精乳は、西北地方、アルプス山、等より

産物

出づ。家禽の畜養は、最進歩す。(林産) 林木は、一時濫伐の爲め、減したれども、尙アルプス、ピレニース、等には、鬱蒼たる森林あり。(水産) 海漁は、近頃大に進歩し、一の富源なり。或は英吉利の北海、又は亞米利加の沿海に出て、鯡、鱈を捕ふるものあり。

(鑛産) 此國は鑛物餘あり、生産の多きと、歐洲諸國中第三に位し、其最多きは石炭と鐵なり、然れども、鐵坑と炭坑相距つるが故、鑛業發達せず。

(工業) 工業上英吉利と競争するは、獨り此國のみ、而して意匠の巧にして、善く美術を工業に應用するの一點は、英吉利人も及ばざる所あり。毎年の工産價額、凡三十億圓、又農産の價格九億圓、共に當國繁昌の大原因とす。最盛なるは、紡織にして、殊に絹布製造は、其規模尤壯大にして、其中心リチン府は、世界第一の絹布製造場なり。又毛布、棉布、等、枚舉に遑あらず。造船術は、最進歩し、我國よりも、軍艦の造築を依頼せしと數なり。

(交通、貿易) 國內の交通具充分に備はらざるはなし。就中、水路は、數百年間河流の改良に苦心し、併せて數多の運河を通したれば、河川縦横に連絡せり。鐵道は、歐洲諸國中、其組織最完全なり。當國は、其位置及地勢の、商業に適すると、交通の要具備はれると、製造業の盛大なるに依り、商業亦頗る活潑なり。輸出品は、毛布、絹布、棉布、葡萄酒、羊毛、生絲、又物、草具、リチン、乾酪、牛酪、等にして、輸入品は、葡萄酒、羊毛、セリール、生絲、綿、材木、毛皮、油種、珈琲、石炭、等なり。日本との貿易は、葡萄酒、布帛、兵器、等の輸出、米、生絲類、絹布、雜貨、等の輸入にあり。

交通

貿易



政治軍備	屬領	位置	地勢	河川	氣候	人民	都會	
(政治、等) 現今は共和政治にして、代議院、元老院あり。當國の軍備を案するに、陸軍は、常備兵員凡五十万二千、戰馬十二万二千にして、海軍は、諸艦船合せて三百九十三艘あり。佛蘭西の屬地、及保護國は、亞細亞、亞弗利加、亞米利加、大洋洲に散在する、其數凡三十にして、其面積合計二百八十一万餘方哩、人口三千五十二万餘なり。印度支那、ニールカレドニア、亦此中にあり。		(位置、地勢、等) 面積は九州島よりも遙に小にして、人口六百三十五万餘、一方哩の人口五百三十九にして、歐洲中最稠密なり。白耳義は、概して地表變化多く、外觀美なり、而して西北部は、低野にして、堤防にて海水を遮り、東南部は森林あり、當國の廣大なる煤田、及鐵坑は、此地方にあり。ミーズ河其他、河流の航通すべきものあり、加ふるに、運河數百哩あり、或は大船を浮ぶべし。氣候は、概して溫和にして、海濱は濕氣多く、山地は寒暑の差大なり。				(人民、都府) 國民の大多數は、面貌、言語、共に和蘭人に似たり。宗教は基督教を奉ず。教育は漸く進歩し、國內四個の大學あり。國都ブラッセルは西北低地の中央に位し、鐵道及運河の樞軸を占め、貿易極めて盛にして、又織物、器械、等の製造所あり、小バリー府と稱せらる、人口凡四十七万あり。アントゥワール府(人口二十三万)は、北海に出づる要港にして、國中商業最繁昌の中心なり。又木綿、毛氈、レース、等の製造盛なり。		

(十)白耳義

産物	工産	交通	貿易	政治	位置	地勢
(産物) (農産) 全地の百分の十五は、森林なれども、其他は耕地、牧場等にして、農産殷富なり。其耕種の法は、大に日本風に類似し、大概人馬の力を用ゆ。穀物、馬鈴薯、亞麻、煙草、甜菜、菓實、等を産す。(鑛産) 當國繁榮の基本は、炭、鐵、二鑛にあり、爲めに小英吉利の名を得たり。此二鑛物の産地、相接近するは、鐵工業の盛なる所以なり。(工産) 當國は、中古の頃、既に工業國として知られ、今尙其名を殞さず。鐵工業は其第一に位し、次は、レースとす。又醸造、木棉、毛布其他麻布、紙、等も盛なる工業なり。		(交通、貿易、等) 河流、運河、道路、鐵道は、國の面積に比例すれば、歐洲中最完備し、其他の交通方便も、發達せり。外國貿易は、海陸相半はす、アントゥワール港は、嘗て佛蘭西の一世ナポレオンが第二のロンドンたらしめんとて大に力を致せる良港なり。輸出品は、織物、布料、石炭、器械、鐵鑛及鐵具、等にして、輸入品は、布料、材木、珈琲、等なり。日本との賣買は、未盛ならず。此國は、立憲世襲君主政體にして、上下兩院あり。			(十一)和蘭	
					(位置、地勢、等) 和蘭は、西と北は、北海に面し、ザイデルジールの大灣、深く陸地を穿てり、去れば、國內何れの地も、海より百二十哩以上を距つる處なし。面積は九州島よりも稍、小なり、人口四百六十二万なり。	地勢は、瑞西と正に相反し、全土總て坦々たる低原にして、無數の溝渠、縱横し、地面の四分

(十一)和蘭



一は、海面よりも低し、故に此國をチザランド(低地の義)とも云ふなり。然れども、海岸には、波浪と風力に依りて成りたる沙丘あり、其高三十五呎より二百呎に至る。斯る沙丘なき處には、堤防を設けて、海水の浸入を防げり、其大なるは、高二百呎、幅三十呎あり、堤上に能く二輛の馬車を并馳すべし。

海岸

ザイデルジ一灣は、往時内地の一湖なりしが、北海の怒濤の爲めに、遂に現時の如く一大灣となれり。地面此の如く低卑なれば、決して尋常の排水法に頼るべからず、(往々海面下十六呎の處あり)甚しき低地に於ては、風車ポンプを以て晝夜浸水を汲出せども、尙及ばすと云ふ。又堤防は、獨り海岸のみならず、河流及運河の兩岸にも、或は之を設くるの必要あり。

河流

河流の重なるは、ライン、ミューズ(マース)とす。國內運河甚多し、和蘭は實に運河の國といふ可し。運河の大なるは、幅六十五呎、深六呎に至る者あり、思ふに、水利に力を致せると、此國人の如き者あらず、和蘭人の、水利工學に練達せる、亦宜なり。

氣候

氣候は、水濕を帯び、夏は酷暑からず、冬また酷寒からず、然れども、冬季には、運河は大抵凝結す、卵籠を頭上に載て、市場に往來する婦女も、書冊を抱て學校に昇降する小兒も、皆橇に乗らざるはなし。

人民

(人民、市府) 和蘭人は日耳曼の言語を用ゆ。國民は基督教を奉ず。初等教育は普及し、大學は、古來其名高し。當國の地貌が、國民一般の上に、大に影響したると、猶瑞西國の地勢の其人民に於けるがごとし。能く諸般の艱難と戦ひ、以て表はしたる敏捷、及忍耐の成績、歴々

都邑

として徴すべし。

アムスタルダムは、川上の濕地に位し、全市殆皆上に立てり、街路には、多く、中央に運河あり、數多の橋を架す、其數三百、我國の大坂市も尙之に及ばず。貿易繁昌の大商市にして、又諸種の工業あり。人口四十二万なり。ロッテルダムは、ライン河口に接する大貿易場にして、歐洲中央諸國より、大西洋に出づる咽喉なり、人口二十一万あり。此外、西岸のハーグは、人口十五万、王宮及議院あり、此國の政治首府なり。府内に日本の公使館あり。

農産

(産物) (農産) 農事大に進歩し、穀物、馬鈴薯、麻、煙草、花卉、菓實、は名産なり。(畜産) 牧

水産

畜は、其發達世界中に比類少なく、西瑞にも優れり。牛、羊、乾酪、牛酪、馬、家畜の輸出少なからず。(水産) 漁獵は、其規模廣大にして、此國の大富源なり。

工業

(工業) 此國は、商業國なり、海國なり、而して工業國にあらず、是れ、其材料、燃料、及水力の不足に因るなり。工業中著名なるは、花布、帆布、土器、金剛石細工(アムスタルダムは、世界中此業を以て最名あり)とす。

交通

(交通、貿易) ミューズ、ラインの兩河は、白耳義と、日耳曼に通ずる水路にして、貨船の上下活潑なり。交通の道能く備はれり。和蘭は、夙に航海貿易を以て、宇内を壓倒したる國にして、數百年來、日本との關係も淺からず、今猶世界中主要の商業國なり。輸出品は、雜貨、亞

貿易

麻、粗布、麥粉、牛酪、等にして、輸入品は、雜貨、麥粉、鐵類、粗布、蠟類、石炭、米、銅等なり。日本との貿易は、甚微々として年々三四万圓に過ぎず。



政治軍備  
屬領

(政治軍備) 此國は、立憲世襲君主政にして、兩議院あり。海軍は鐵艦二十五艘あり。海外の殖民地は、亞細亞に於て、ジアフア、マデューラ、スマートラ、ボルチナ、セレベス、モラカ、ニューギニー、等の諸島、亞米利加に於ては、西印度諸島、等なり。此面積合計凡七十二万九千餘方哩、人口三千六十八万あり。

(十二)日耳曼

位置

(位置區劃)

日耳曼は、一に獨逸と稱す、歐洲の中央に位し、七國と境を接し、其他はバルティック海、北海に臨む。面積二十万八千餘方哩、人口四千九百四十二万なり。日耳曼帝國は、二十六州より成立つ、其中の重大なるは、普魯西、等の四王國、六大公國、三自由都府及アルサスローレイン、とす。

地勢

(地勢)

當國の地勢は、天然に分れて、南北の二部をなす、即高地日耳曼、低地日耳曼、これなり。北部は平原にして、魯西亞より和蘭に連り、渺茫として際界なし。此平原は、地味概して瘠せ、唯最豊饒なるは、東部境上の麥田なり。南部高地は、其地貌甚しく變化あり。ライン上流の河谷は、風景畫くが如く、黒森山の景色は、此地を獨逸の樂園と呼ばしむ。又到る處に鑛泉あり、風色と共に遊客を引くと少からず。

河川

(河流等)

高地の東南は、其流水ダニューブ河に會すと雖、其他の河流は、皆北に流るゝを以て、高地の大半と、低地の全軀は、其地勢北方に傾けり。其大水道たるライン河は、瑞西に發

氣候

し、國の西邊を流れて、和蘭に入り、又運河に由りて、ダニューブ、ローン、セーン三河と連絡せり。寒暑ともに、西より東に進むに従て強けれども、平均温度は、全國概して同一なり、何となれば、高地日耳曼は、南に偏するに従ひ、益、高ればなり。濕氣は、北より南に減少す。

人民

(人民都府)

此國の人民は、其言語、歴史、利害、粗、相同じ、且其宗教も、亦皆基督教なり。日耳曼人は、概ね身軀、智力、道德、共に堅固にして、能く學業を勉め、又兵役を悦ぶの風あり、故に男子は、皆武事に慣れ、兼て讀み書きにも習へり。大學二十一あり、其學生の數殆二三万に達す、哲學、博言學、音樂、等は、卓然として世界の表面に立てり。近年、我國の遊學生にして、笈を此地に負ふもの最多し。

ベルリン府

國都ベルリンは、普魯西王國の中央、エルベ、チーデル、兩河の中間に位す。近時歐洲各國に

關する重要な談判は、當府に開くの例なれば、外交上樞要の都府なり。政事の外、工業、商賣、及學問の淵藪にして、鑄物、陶器、織物盛なり。人口百五十七万なり。此には我國の公使駐在し、日本人の在留者四十八人あり。當府の緯度は東塞加半島の南部と同一なり。

ハムブルグ府

ハムブルグ府は、貿易盛なり。其位置、エルベ河口の上七十五哩にあれども、大船、巨舶自由

に入津し、又其上流塊地利領内より、沿岸の諸府を通過する船舶少からず、去れば英吉利のロンドン、リヴァプールに次く商業の要地なり。且器械、鐵、煙草、砂糖、等の工業、亦盛なり。人口五十七万あり。



諸大都府

此他ブレスロー(三十万)ドレスデン(人口二十七万)ライプジヒ(人口三十五万)ムーニッヒ(人口三十三万)等は、著名の市府なり。

農産

(産物) (農産) 全國面積の九割四分は、生産地なり。北獨逸中、最豊饒の地方は、エルベ河

畔、等にして、多く燕麥、小麥を産す。南獨逸は、森林及葡萄園

多くライン河畔には、穀物を産す。此他、馬鈴薯、砂糖等あり。

畜産

(畜産) 牛及馬の産出多し。其外、豚、山羊、蜜蜂の飼養少から

林産

ず。(林産) 林業は、當國の最重大なる事業にして、其林制、世界

中、最發達せりといふ。全國面積の四分一は森林なり。

鑛産

(鑛産) 鑛産は、石炭、鐵、褐炭、亞鉛、鉛、銅、鹽最多し。獨逸

工産

は、世界の第一等鑛産國の中に列せり。(工産) 國中、製造業の

最盛なるは、普魯西とす、英吉利、佛蘭西、等の製造國と競争す

るの位置に達せり。工業中盛なるは、製鐵、毛布、絹布、砂糖、麥

酒、玻璃、陶器、なり。

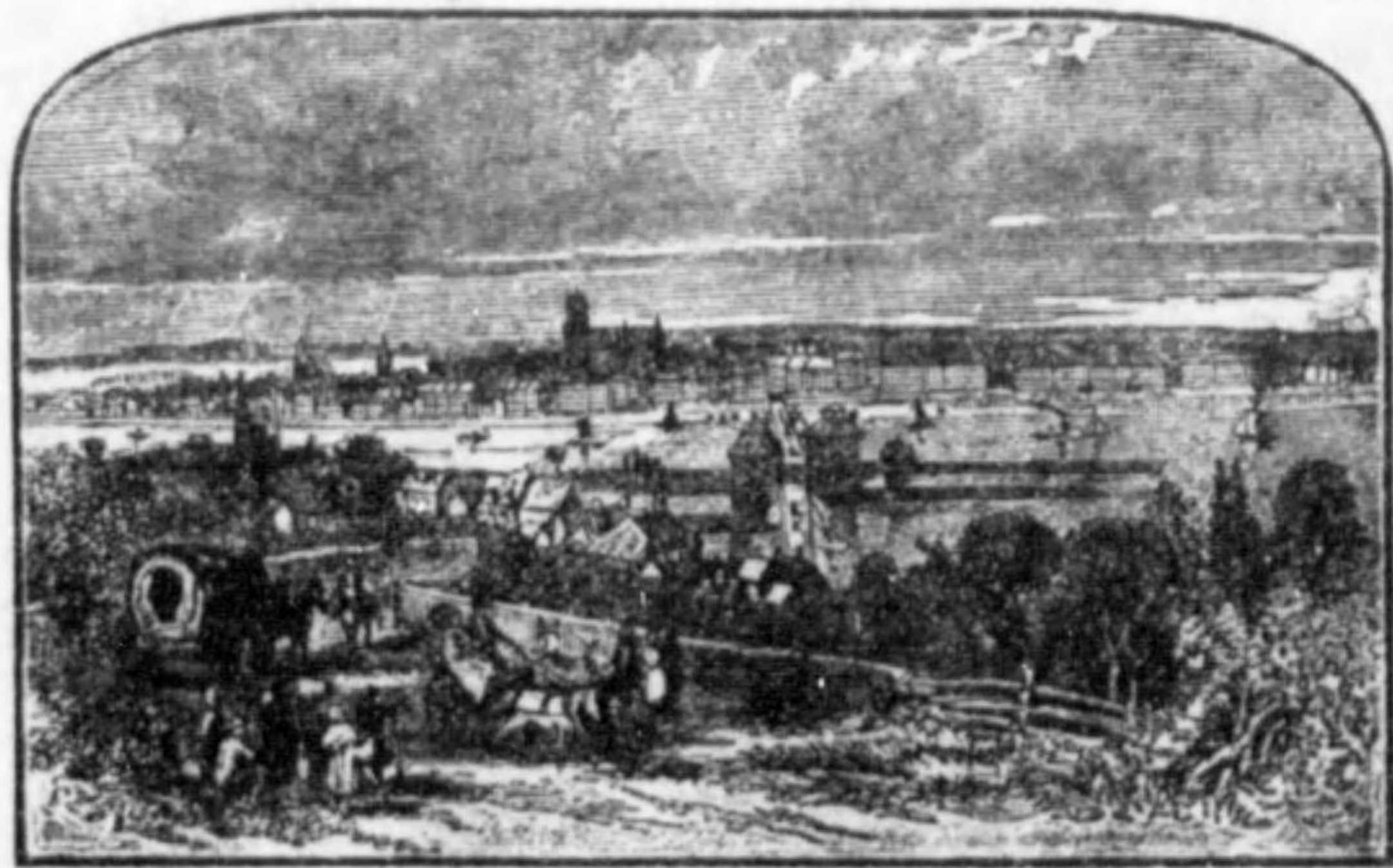
交通

(交通) 當國は、歐洲諸國の中心に位し、バルティック海の

西部には、良港あり。北海は、船舶の出入最頻繁にして、ライン、エルベの大河に通せり。又東

には、天産物の多き諸國を控へ、西は、屈指の製造國に隣れり。又諸大河は、到る所能く船舶を

通じ、且互に運河に由りて、相通せり。鐵道、電信、郵便、等交通の便利備はらざるなし。



市トルップの畔河ニメ流支の河ニイフ

貿易

(貿易)

外國貿易

此國の位置及交通此の如し、歐洲貿易の大部分が、此國を經由するは、是れが爲め

なり。輸出品は、織物、金屬器、藥品、雜貨、革、器械、毛布、等なり。輸入品は、織物、穀物、畜類

絲、等なり。日本との貿易は、砂糖、アニリン、ダイス(染料)、絹、綿布、金屬、等種々の物品を輸出

し、輸入は、米、漆器、其他僅少の雜貨なり。

(政治、軍備)

此國は、聯邦國にして、普魯西王は、聯邦の皇帝なり。議會は、聯邦議會と、

帝國議會の二より成る、前者は各州を代表し、後者は一般人民を代表す。

陸軍兵員、二百二十五万餘、戰馬四十四萬。陸軍の完備にして、強銳なると萬國に冠たり、

海軍は、未充分に發達せずと雖、諸船艦七十八艘、水兵一万九千三百あり。

日耳曼國の所領は、往時は歐洲内に限りしか、近年に至り、亞弗利加、及太平洋中に、殖民地を

得るに至れり、其全面積九十六万六千方哩、人口五百五十一万なり。

(十三) 丁抹

(位置、地勢)

丁抹は、北海より、バルティック海に入るの咽喉に位する、半島及數島嶼を

以て、一國を成し、陸地の國境は、五十哩のみ、故に實は島國同様なり。其面積、日本の四國島に

若かず。人口二百十八万餘なり。丁抹半島は、概して、低原なり、東邊は、地味肥沃にして、一

の小隆起帶、東岸を南北に走る、西海岸は、平低の沙濱多く、堤塘を築きて、海水を防禦す。ハ

ルティック海の屬島も、概ね平坦にして豊沃なり。氣候は、濕氣多く、溫和にして、牧畜に適せ



人民	都府	產物	交通	政治	屬島及殖民地
<p>り。</p> <p><b>(人民、都府)</b> 丁抹人は、顔色美にして、眼目緑なり。其國海に瀕するを以て、從來優等の海員を出し、世界の運輸業を助長せしと少からず。國民は、性勤勉、忍耐にして勇氣あり。教育は、初等、高等、共に普及し、屬島アイスランド人と雖、讀み書きの出來ざる者、殆なし。國都をコーペンヘーゲンといふ、ジールランド島の東海岸に位し、當國の重要なる市場兼城塞なり、此市は、瑞典との互市場にして、當國の通商、過半此に輻輳す、工業(織物、器械、等)亦盛にして、人口凡三十一万あり。</p>		<p><b>(產物、交通)</b> (天產物) 農耕と牧牛は、主要の生業にして、全國の三分二は、地味肥沃なり。穀物、野菜、製油、植物、亞麻、等を産す。牛、馬、羊、豚多く、製乳亦盛なり。(工業) 耕牧者多くして、工業起らず、只醸造、砂糖、帆布、革、等の製造あるのみ。當國は、港灣多く、又船舶、道路、鐵道、等能く備はり、内外の貿易盛なり。輸出品は、家畜、穀物、菓子類にして、輸入品は、葡萄酒、煙草、木棉、亞麻、生絲、織物、石炭、なり。</p>	<p><b>(政治)</b> 政治は立憲政體にして、上下兩院あり。兵備は陸軍凡一萬六千六百人、海軍は甲鐵艦十艘あり。</p>	<p>アイスランドは、面積四万方哩あり、内地山岳多く、四千呎の高地には、常に氷河を絶たず、火山の爆裂、數、島の各所に起る、ヘクラ山は、著名の活火山なり。島内温泉甚多く、其最有名なるは、大噴泉と稱し、時々熱湯を吹上ると、百呎、若くは百五十呎に至る、其響砲聲に似たり。</p>	

位置
<p><b>(位置、區劃)</b> 前編、既に亞細亞魯西亞を記したり、今此には、其本部たる、歐羅巴魯西亞を記すべし。此國は東北の大平原に位し、實に本州の大半を占む。面積二百九萬五千餘方哩、人口九千七百五十萬、一方哩に四十六人の割合なり。然れども、亞細亞領を、合すれば、全帝國の面積、八百六十六萬餘方哩、人口一億二千五百二十五萬餘、一方哩に十三人の割合なり。世界中、陸續きの最大國と云ふべし。</p> <p>歐洲魯西亞は、左の十大部に分てり、(一)バルティック州、(二)大魯西亞、(三)小魯西亞、(四)南魯西亞、(五)西魯西亞、(七)アストラカン、(八)波蘭王國、(九)芬蘭大公國、(十)高加索、是れなり。</p> <p><b>(地貌)</b> 當國の地勢は、概して平原にして、其分水脊は、低き隆起線をなし、西南境より、東北ウラル山に向つて屈曲せり、此の隆起線の最高點は、國都セントピーターズバーグ府の南方、</p>

(十四)魯西亞

地勢
<p>氣候は、緯度に比すれば、溫和にして、濕氣深き故、よく草を生ず。馴鹿、家畜、羊、馬、魚貝少からず。住民凡七萬二千あり。宗教は本國と同じく基督教にして、教育普及す。都をライクジアウ、ツクと稱す、家屋は皆木造なり。</p> <p>此外、本洲外の屬領は、亞米利加のグリーンランド、西印度の數島なり。内外の屬地を合すれば、面積八萬六千六百餘方哩にして、人口十一萬四千あり。</p>



山岳

ウ・トル・ダイ・丘とす、地圖を披きて、南北河流の分水脊を踪跡せよ、容易に其屈曲線を認むべし。山岳地方は、唯極南のクリミア及高加索と、東境のみなり。クリミアの山脈は、高さ四千呎あり。東境のウラル連山は、凡其中央に於て、五千五百呎の高あり、此山脈の北部は、ベシ。ラ河源までを、荒蕪ウラルと稱し、中部を産鑛ウラル、南部を森林ウラルと稱す。高加索は、凡百方哩大の山地にして、其最高點をエルブルズ山と云ふ。

平原

魯西亞大平原は、其各部の地貌同じからず。北部は、卑濕の澤地にして、毎年氷結すると數月間なり。唯馴鹿の食料ある所のみ、人の棲息に適すべし。南部は、黒海及裏海の岸に沿ひ、曠原にして樹木なし。而してドン河以西は、灌漑宜を得、住民多く、牛羊群居し、以東は荒野藪澤にして漂民、稀に住居す。

右の北部澤地と、南部曠原との間に、森林地と、穀産地あり。森林地は、歐洲中最巨大にして、北に偏す、穀産地中最肥沃の部は、西南國境より、東北ウラルガ河畔に至る、一帯の地方なり。又ウラルガ、ドン、兩河上流の牧場は、豊草滿々たり。

湖

(河・湖) 航河數多あり、然れども、多くは年中三ヶ月、乃至七ヶ月氷結すると、遠海に注ぐもの不便あり。三方に注ぐ諸大河の内裏海に注ぐ、ウラルガ河は長二千二百哩、歐洲の最大河にして、本支河の航路甚長し。而して諸河流の間は、往々縦横に運河を開きて、連絡せり。湖水は、西北部に多し、就中ラドীগ湖は、歐洲第一の大湖にして、面積日本の四國島よりも大なり。チチーガ湖、イルメン湖は、ラドীগ湖と相通ず。此等の諸湖と、河流との間に、運河を通ずる

ものあり。

(氣候) 當國は、土地廣大にして、各地の氣候、大に差異あれども、其等差は、寒暑の強弱よりも、寧ろ其長短にあり。セント、ピータースバーグ府のニーウツ川は、冬季半年間氷結し、黒海のオーデッサ港も、往々此の如きとあり。クリミ



管四國北部分ラフドン

ア半島の南阪は、半熱帯の菓實、蜜柑、無花果等を産す。之に反し、西北隅ラフランドは、不夜の夏日あり、數日間の炎熱甚たしく、蚊群の患に堪へず。雨量は、西歐洲よりも少し。

(人民、都府) 國民中、判然たる階級あり、相混同せず、貴族、僧侶、公民、農夫、是れなり。國教は、基督教にして、皇帝は國家と教會の元首なり、然れども信教の自由を妨げず。教育は、之を西歐洲諸國に比すれば、後るよと遠し、然れども高等教育は、初等教育よりも、其組織稍、整頓し、九個の大學あり、故に中以上の社會は文物稍、發達し、從來榮名を博したる學者少からず。

國都セント、ピータースバーグ府は、彼得大帝の建設する所にして、ニーウツ河の坦岸に跨る。此河は、芬蘭灣に入り、其灣の淺頭より運河を通ずるを以て、當府は英吉利のロンドン府

都府

人民

氣候



の如く、一の開港にして、諸國の大船此に出入するもの少からず。勿論毎年十一月より、翌年四、五月迄は、河流の氷結のため、海路の交易全く断絶すれども、種々の工業盛にして、定期の大車あり、市況常に繁昌なり。人口一百万餘あり。當府に、日本の公使駐在す。

ウ・ル・ソ・ー府は、ウ・ス・テ・ラ河畔に位し、人口四十九万あり。麥酒、煙草、石鹼、等を製造し、商賣亦盛なり。モ・ス・コ・ー府は、舊帝都にして、國の中央に位し、四方の道路皆此に輻る、製造盛にして、人口七十九万餘あり。

モ・ス・コ・ーの東方ウ・ルガ河畔に、ニ・ズ・ニ、ノ・ブ・ゴ・ロ・ドの大市場あり、人口僅に七万三千餘なれども、毎年七月より、九月までに開く、大市は、頗る廣大にして、世界中に比類なし。蓋其位置、北氷洋と裏海の間、又亞細亞と歐羅巴の中間に位し、且大河に瀕するを以て、四方より群集する商賈の數、殆三十万にして、此市の取引高は、一億六七千万圓に下らず。其來集する商賈は、東は支那より、西は佛蘭西に至る間の、諸國民にして、各自其國産を販鬻せり。此他、當國には、定期の市場を開く都邑尙少からず。

チ・ア・ッ・サは、黒海の西北岸にあり。此地方の要港にして、其大切なると、首府ピーターズバークに次けり。人口三十一万あり。ア・ス・ト・ラ・カン府は、ウ・ルガ河口の三角洲に位し、裏海貿易の中心をなし、且著名の魚市場なり、人口七万三千あり。

(産物) (農産) 魯西亞は、從來農を以て國本とし、人民の過半は農人なれども、其耕作法甚幼稚なり、是れ教育の不进によるといふ。農産は、穀物、亞麻、麻苧、馬鈴薯、甜菜、煙草、等なり。

ニズニ、ノブゴロ、ツドの大市

チアッ、サ港

産物

(牧畜) 牧畜は、當國の、一大生業にして、馬、牛、羊、豚、蜜蜂、馴鹿、駱駝(南部)は、重要な畜産なり、殊に馬は、歐洲中、最良質にして、最多數なり。(林産) 北部には、森林尤多く、南部には材木缺乏す。(水産) 漁獵は、最盛なり、殊に裏海の漁獵は、全産額の半に居れり。

(鑛産) 此國は、歐洲中鑛物最多き國の一なり、金、銀、白金、鐵、石炭、銅、亞鉛、食鹽、最多し。ウラル山脉の中央部は、鑛業の主地とす。鑛産中、金は世界の全産額五分の四以上を出し、食鹽は、殆無盡なり。又高加索の石油、鑛泉は、殊に多量を産す。

(工業) 製造業は、近時漸く繁昌に赴き自國の製品を、亞細亞地方に輸出するに至れり。重要な製造地は、中央部にあり、工業は、織物、金工、革、石鹼、蠟燭、砂糖、等にして、就中綿布製造尤盛大なり。

(交通) 國內廣大なれども、幸に數大河四方に馳せて、三方の海に注ぎ、而して地面の高低少きを以て、河流と河流の間に、運河を穿つと、容易なるか故、往來運漕の便少からず、之に用ゆる汽船一千五百餘艘あり。ウ・ルガ大河は、此河系の幹線を爲し、内地貿易の大道なり。然れども、此國の如き大農業國には、鐵道最必要なり、今は凡二万哩の線路あり、且今や、ウラル山嶺を横り、西比利亞を貫き、遂に日本海の岸頭に達する、鐵道布設の大計畫あり、其幾部は既に成れり、其影響甚大ならん、我邦人たるもの、寸時も此事を忘るべからず。河制及鐵道は美なれども、道路は、甚不完全なり、但冬期は橋に依るの便あり。東方亞細亞に通ずる道路の重なる者、三線あり(第一號地圖)其中エカテリンブルグ(ウラル山)通りの線路は、西比利亞を

畜産 林産 水産 鑛産 工業 交通 鐵道 道路



電信  
貿易

過ぎ、支那及日本海岸に達する線路なり。郵便、電信の法、亦大に備はれり。  
**(貿易)** 其地境大にして、各部、各市相隔つるも、魯西亞が商業上緊要の位置に立つは、是れ交通法の發達せしに因ると雖、亦其位置及物産の然らしむる處なり、即ち概して、西方に對しては、未製品を輸出して、既製品を輸入し、東方に對しては、既製品を輸出して、未製品を輸入するの位置に立てり。

外國貿易

外國貿易は、往時は大抵陸路に限りしが、今は周圍の海灣にも、魯國の商船を浮べ、殊に首府及ナイデ、サの兩港の出入船舶、甚多きに至れり。輸出品は、穀物、麻類、獸脂、木材、蠟、松脂、家畜、毛皮、羊毛、革、織物、砂糖、魚類にして、輸入品は、綿、珈琲、毛布、菓實、絹布、葡萄酒、時計、器械、鐵具、硝子、等の類なり。我日本との貿易は、日本より、米、及雜貨、等の輸入あるのみにて、其他は算ふるに足らず。

政治

**(政治)** 政体は、立君專制にして、國民勤王の心厚し、國內或は過激の徒なきにあらざれども、是れ誠に少數のみ。軍備は、常備兵凡八十一万四千、戰時は、二百二十二万を出すべし。海軍は甲鐵艦四十五艘あり。

(十五) 瑞典及那威

位置、國政

瑞典及那威の王國は、歐洲の西北遇なる、大半島スカンディナヴィアを占め、東北の外は總て海に臨めり。面積、合計二十九万四千餘方呎、瑞典は那威よりも稍、大なり。

國政  
地勢

瑞典の人口、四百八万、那威の人口、二百一万余なり。

此兩國は、往時別國なりしが、凡八十年前、一王の治下に聯合し、今は、立憲政治なり。

**(地貌、河湖)**

スカンディナヴィア半島は、山極めて多く、山の占むる、地積の廣大なると、アルプス山地に二倍し、峻嶺、絶壁目を驚かすものあり。北部は、キナレン連山蜿蜒として、其



馬海 約

最高峯は八千四百呎とす。東海岸は、沙濱にして、南部に唯一の沃原あり、原中大湖二三を有せり。西岸は、斷崖にして、狹深の灣江多く、又無數の島嶼あり、此等の灣江は、内地に入るべき大切の水路にして、陸地を侵蝕すると、或は數十哩、其兩岸には、往々四千餘呎の峭壁屹立し、灣頭には殆皆瀑布懸かり、或は氷河を成し、景色絶佳なり。當半島は、降雨多量なるを以て、其河流は、概して水底深けれども、瀑布及岩石多く、航通用に適せず、但其水力を工業に使用するの利あり。

氣候

**(氣候)** 西海岸は、北亞米利加の東岸より流れ來る、灣海流の影響に因りて、氣候溫和、海水氷結するとなく、暑寒の差甚しからず。内地と東岸は、氣候稍、酷烈なり。

人民

**(人民、都府)** 教育善く普及せり。國人は、概して容貌美麗にして、智慧と勇氣に富み、又信義、堅忍を兼ねたり。瑞典の首府、ストックホルムは、マーラル湖よりバルティック海に通ず

都邑



位置	交通	貿易	産物
<p>(位置、區劃) 英吉利帝國は、其領地及屬邦、地球の全面に散點す、之を合すれば、總面積一</p>	<p>(交通、貿易) 兩國共に、道路善く整ひ、又鐵道、電信、等の便少からず、瑞典は、特に河湖の間に運河を開けり。瑞典は、海運に依り、取引甚自在なり。那威は、其人口に比して、航海者の多きと、世界中其比なく、又商船の多きと、唯英吉利に一步を譲るのみ。故に外國貿易及運輸事業、甚盛にして、東西の海洋、那威國の船旗を見ざる處なし。輸出物は、穀物、材木、魚類、鐵、麥酒、石材、マツチにして、輸入品は、穀類、石炭、食鹽、石油、酒類なり。</p>	<p>(産物) (農産) 兩國の農産は、穀物、馬鈴薯、亞麻、煙草、等とす。(畜産) 瑞典は、畜類亦餘あり、極北のラブランド人は、馴鹿數十万頭を有す。(林産) 材木は、土地岩石多きを以て、木質堅密にして、年々の輸出盛なり。(水産) 那威は、海漁頗る盛大にして、鱈、鯡、殊に多く、鱈は、世界中第一の稱あり。(鑛産) 鑛物、頗る富裕なれども、採鑛術未進歩せず、蓋石炭乏しくして、他國と競争する能はず。(工業) 兩國共に、人力、石炭、及資金の三者、不足なるが故、製造業發達せず。瑞典は、鐵工業盛なり。那威は、石炭乏しけれども、水力饒にして、之を木工に使用す、其他は、造船、肝油、等の製造あり。</p>	

(十六) 英吉利

位置	交通	貿易	産物
<p>(位置、區劃) 英吉利帝國は、其領地及屬邦、地球の全面に散點す、之を合すれば、總面積一</p>	<p>(交通、貿易) 兩國共に、道路善く整ひ、又鐵道、電信、等の便少からず、瑞典は、特に河湖の間に運河を開けり。瑞典は、海運に依り、取引甚自在なり。那威は、其人口に比して、航海者の多きと、世界中其比なく、又商船の多きと、唯英吉利に一步を譲るのみ。故に外國貿易及運輸事業、甚盛にして、東西の海洋、那威國の船旗を見ざる處なし。輸出物は、穀物、材木、魚類、鐵、麥酒、石材、マツチにして、輸入品は、穀類、石炭、食鹽、石油、酒類なり。</p>	<p>(産物) (農産) 兩國の農産は、穀物、馬鈴薯、亞麻、煙草、等とす。(畜産) 瑞典は、畜類亦餘あり、極北のラブランド人は、馴鹿數十万頭を有す。(林産) 材木は、土地岩石多きを以て、木質堅密にして、年々の輸出盛なり。(水産) 那威は、海漁頗る盛大にして、鱈、鯡、殊に多く、鱈は、世界中第一の稱あり。(鑛産) 鑛物、頗る富裕なれども、採鑛術未進歩せず、蓋石炭乏しくして、他國と競争する能はず。(工業) 兩國共に、人力、石炭、及資金の三者、不足なるが故、製造業發達せず。瑞典は、鐵工業盛なり。那威は、石炭乏しけれども、水力饒にして、之を木工に使用す、其他は、造船、肝油、等の製造あり。</p>	



アイランド島は其中央平原にして、全地の四分之一を占め、其周圍は、丘陵、山岳を繞らし、但東西兩灣の沿岸は、平原、海濱に達せり。此平原は、甚低くして、僅に三百二十呎に過ぎざる所あり。

ブリテン島の河川は、其源高山に在らず、其流短くして緩なり。下流の外は、航通の利益少しと雖、河口に近づけば、其流廣く且深くして、又海潮遙に河上に昇るを以て、能く大船を入るべし、加ふるに冬季氷結の患なし。ティムス河は、國都ロンドン府を貫流し、其下流は大船を容るべし。此他ハムバル河、セヴルン河、クライド江、ロルン江等は、其河口廣くして、岸上には、皆商業市府あり。且つ河流は多く運河に由りて、互に連結せり。北部には、湖水少からず、アイランドの川流は、大抵西南に向ひ、シアンソン河に會合せり。シアンソン河は、ブリテン諸島中、最長くして、二百四十哩間を航行すべし。

(氣候) 歐洲諸國の氣候は、概して亞細亞よりも溫和なり、英吉利は、殊に此惠を被り、寒暑の差甚少し、是れ大西洋の灣流に因るなり。雨量は最多量にして、西部アイランドは、殊に然り。

(人民) ブリテン島の南部、及製造地は、戸口最稠密なり、平均一平方哩に、三百七人の割合なり。當國人民の凡六割は、都會に住居し、人口十万以上の都府、凡三十あり、故に年々外國に移住するもの甚多し。國民は、基督教を奉ず。教育制度は、之を佛蘭西、或は日耳曼に比して、稍及ばざる所あり、中等學校の組織、亦整備せず、高等教育は、較、完備し、十個の大學あり、英

河湖 氣候 人種 宗教 教育

性質

ロンドン府

リヴァプール

グラスゴー府  
ダンリン府

農産

吉利人は、性着實にして、氣力あり、能く事を起し、又能く業を守り、佛蘭西人の如く輕佻ならず、殊に自己の業務を勤め、餘念なきの美習あり。然れども其習慣古風を墨守して、容易に新法を採らざるの甚しき、或は笑ふべきものなきにあらず。

(都府) 首府ロンドンは、ティムス河上に在り、其富の廣大なる、世界中無雙にして、又其規模の大且人口の多きを以て、地球上最大の都府たり。府内を三部に區別す、市部、ウエストミンスター、サウスアルク、是なり、三部の間巨大の橋梁を架す。ウエストミンスターには、王宮、兩議院、寺院あり、其他府内の大館、巨屋、人目を驚かすもの少からず。其人口四百二十一万あり、世界の萬國と通商し、其一動一靜は、實に萬國の商況に關係するものあり。日本人の在留者、凡六十餘人、日本の公使及領事、此に駐在す。其緯度は、東塞加の南端と同一なり。リヴァプール市は、西岸に位し、其近傍に、マンチェスター(人口五十万)バルミムガム、(人口四十三万)等の大製造市府を控へたれば、其輸出品の多額なると、國中比なく、又其船渠の廣大なるは、世界に雙なし。綿布、穀物の商權は、全く之を握れり。人口五十一万餘あり。日本人は十餘人在留す。

グラスゴー市(人口六十一万)は、スコットランドの中央平地の西部に位し、貿易の利を占め、工業亦盛にして、殊に木棉業名あり。アイランドのダンリン府は、東岸に在り、本島の首府にして、市内美麗なり、然れども港内淺くして、大船を容るべからず、人口二十四万あり。

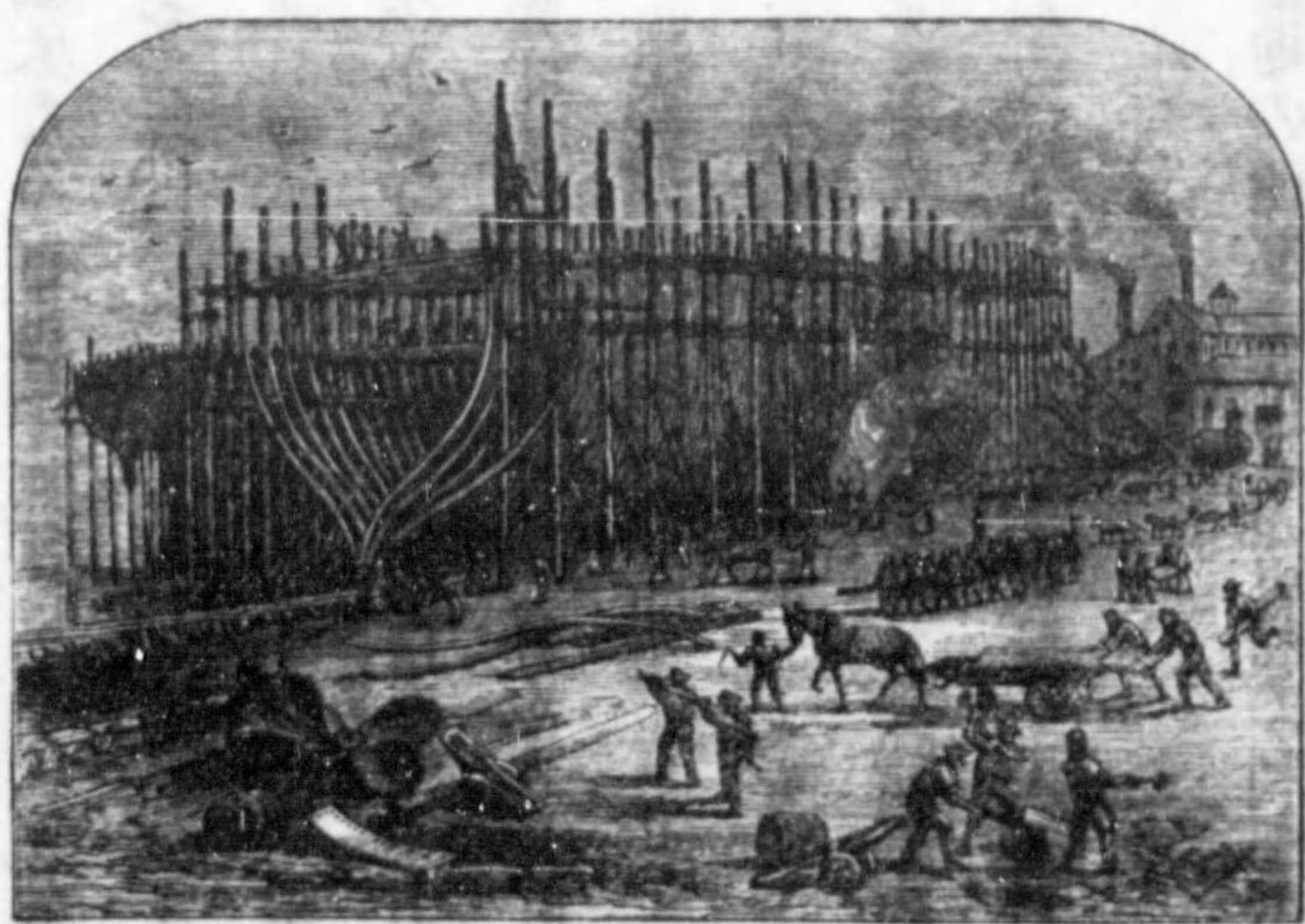
(産物) (農産) 灌漑、排水、肥料、及耕法、等此國の如くに完備し、隨て地面の生産力、此國の



如くに豊富なる國は、他に其例を見ず。然れども、國民中、他の業に従事するもの、極めて多ければ、其農産物は、未人民の食料に充つるに足らず。故に輸入品は、概未製物にして、輸出品は、製造物なり。穀類、馬鈴薯、亞麻、麻、野菜、菓物、等の産あり。

(畜産) 牧場廣大にして、飼養法の發達したるもの、此國の如きはなし。故に家畜多くして、其質美なり。産馬の駿足なるは、能く一分間に一英里を走すると云ふ。牛は、肉肥へ乳多く、其數一億五十万頭あり、然れども尙未國民の食料に足らず。(林産) 森林は、スコットランドに多し、(水産) 漁業は、富源の一にして、鱈、鯡、鮭の收獲北部の海に最多し。

(鑛産) 當國の、石炭と鐵に富むと、亞米利加合衆國の外、比類なし。蓋此國の工業、貿易を以て、世界に冠たるは、是れ炭鐵二鑛の力とす。石炭の産額は、世界の石炭總産額の半に居り、鐵の産出高は、歐洲諸國の鐵の總産額の半を占むると云ふ。石炭坑の著大なるは、スコットランドの南部より、イングランドの北部に巨り、即ち諸製造地方、並に南部ウェルズに在り。鐵は、石炭田の中央、又は其周圍に多し、故に鐵具の製作、非常に廉なり。錫、鉛、銅、亞鉛、粘土、石盤、鹽の産額も又少なからず。



造 船 場

工産

(工産) 當國は、世界第一の製造國なり、蓋唯多量の工産物を出すのみならず、苟くも其工業にして、善美の域に達せざるものなし。其重なる原因は、鑛産の豊富、器械の精良、交通の便利、資本の富實、殖民地の多數、工夫の熟練、又起業心の活潑、此等は即ち重なる原因たるや疑なし。

絹布

工業中最盛なるは、棉布製造にして、其産出高は世界棉布製出高の半以上を占む、其中心地方は、マンチスター府なり。次は、羅紗製造にして、數百年間名聲高し。次は麻布及絹布なり。

羅紗

金屬工業は、バルミンガムを中心とす、其種類は、小は縫針より、大は瀧鐘に至る迄、殆之れなきはなく、右の外、主要の作品は、陶器、硝子、化學品、曹達、硫酸、麥酒(製造所二万七千個所)、砂糖、煙草、鞣皮、革具、紙、裝飾品、造船(築造數年々千艘にして、中五百は瀧船)等、枚舉に遑あらず。

(交通、貿易) 國內道路完備し、鐵道は、恰も地上に網を布くが如く、其線路二万餘哩なり。郵便、電信、運河、亦善く整へり。世界中主要の各港間には、大抵定期の航路あり、到る處英吉利の商船を見ざるなし。當國は、世界第一の商業國にして、地球上の各國殆通商せざるものなく、世界商業の五分一と、歐洲貿易の三分一は、英吉利人の手中に在りといふ。

交通

此國が、斯る地位に達したるは、種々の原因ありと雖、今其一二を算すれば、(一)此國の、島國にして、其位置宜しく、良港に富むと、(二)石炭、鐵の二鑛物多きと、(三)其殖民地廣大にして、一には製造の材料を供給し、一には大に其製造品を購買すると、(四)又國民剛毅にして、堅忍、不拔の精神に富むと、是等は、主要の因由なり。其他政府が、製造、貿易の利害を察し、遠近諸國

貿易

繁昌の原

繁昌の原

因



と通商條約を結び、或は軍艦を各國の港灣に駐屯し、以て自國の商賈を保護する等、尙種々の原因これあらん。

輸出品は、織物、金屬器、器械、未製品、飲食物、化學用藥品、其他の製造物、家畜、等にして、此價格十四億圓(金)許なり。輸入品は、飲食物品、布帛原料、煙草、製作物、雜貨原料、金屬、化學用藥品、染料、油、食用動物、等にして、此價格凡二十三億圓なり。日本との貿易は、綿布、綿糸、羅紗、毛布、帽子、藥品、紙、鐵類、鐵器類、石炭、其他種々の物品を輸出し、米、煙草、菜種、生絲、絹布、雜貨、銅、等を輸入し、輸出品多くして、輸入品少し。

(政治、軍備) 英吉利國は、立憲君主國にして、議會は上下兩院より成る、此國の君主は、即英吉利帝國なる、世界の最大國を統治するなり。本國の陸軍常備兵員は、十萬四千餘にして、之に屬國及殖民地の軍人を合計すれば、二十一萬餘あり。海軍の船艦は、總て三百七十三艘なり。海軍の整備、強堅なると各國其比なし。

此國の所領及屬國は、五大洲に充滿し、世界の各地、多少の屬地なきはなく、其領内には、常に太陽の没する時なし。今其重大なる領地を掲ぐれば、(一)歐羅巴に、ジブラルタル(二)亞細亞に、セイロン島、印度、香港、(三)亞弗利加に、喜望峯地方、(四)亞米利加に、加奈太、西印度諸島(五)濠太利亞細亞に、濠太利亞、フイジー、ニユーギニー、ニージーランド、タスマニア、等の諸島とす。此全面積、一千百四十二萬餘方哩、人口三億八千六百六十萬なり。

輸出入品  
政治  
軍備  
殖民地及  
屬領

第三章 歐羅巴總編

(一)海岸、島嶼、海灣

海岸 (海岸) 本洲は、亞細亞洲に比すれば、其面積僅に五分一に過ぎずと雖、其海岸の曲折甚繁きかため、其面積に對する海岸線の長さは、遂に亞細亞に優れり、殊に南海岸と西北海岸は、港灣の數多し。是れ本洲諸國の航海貿易の、世界中に於て最卓絶せる主因なり。

半島 (半島) 歐羅巴は實に半島洲なり、南海に突出するもの四、西北海にあるもの四とす。其廣表を算するに、全洲の三分の一に當れり、而して半島中大なる者は、亞細亞の半島と同じく、亦皆北より南に斗出せり。

島嶼 (島嶼) 亞細亞の島は、南北兩洋に稀にして、獨り東南及東邊に集まれり、本洲は然らず、南にも、西にも、北にも、島嶼の散點するもの少からず、殊に西には、英吉利群島あり、其趣き日本群島の、亞洲の東海に位するに似たり。又概して地味の肥沃なる島嶼は、季候溫和なり。島嶼の面積は、全洲面積の殆ど二十分一あり。

海灣 (海灣) 歐羅巴は、甚海灣に富みたり、而して其大陸を穿ちて深く内地に入ると、六大洲中其比なし、故に魯西亞の如き大國にても、其市府の、海を距つると、七百哩以上のものあるなし。又其海灣の形狀も、變化極めて多し。是れ皆其半島及島嶼の然らしむる所にして、本洲各國の富強を致したるは、之に因るもの多からん。

海灣

島嶼

半島

海岸



海峡

(海峡) 亞細亞の沿岸には、世界の通航路と稱すべき水路二三ありと雖、歐羅巴の海峡は、此の如きもの、獨りジブラルタル海峡にして、其他は只一局、一部に關する者のみ、然れども彼の黒海及バルティック海に入る水路の如き、本洲の強國中には、至大の關係あるものと知るべし。

(二) 山脉、平原

地勢



歐羅巴大洲山脉及平原の圖  
(數字は平均高度を示す)

(地勢) 本洲は、獨り海岸線の屈曲變化多きのみならず、地表の變化亦極めて甚だし、山岳あり、阜丘あり、台地あり、曠野あり、平原あり、又低谷あり、而して此等は、多少相接近せり、殊に西部は最然りとす、然れども、概して之を觀れば、低地の領域最廣くして、全地の三分二を占めたり、故に歐羅巴は、低原の大洲なりと謂ふを得べし。又毫も沙漠の痕跡を見ず、

是れ亞細亞と大に異なる所なり。

又試みに、東經二十七度線を以て、歐羅巴を東西の二部に分たんか、東半部は、地勢單一にし

山脉

て、唯平原浩々たれども、西半部は變化甚多く、南方アルプス山より、曼佛高地、曼佛高地より、曼佛平原と、次第に北海岸の方に低下せり、而して海を涉れば、スカンディナヴィア山脉東北に向て連亘せり。

(山脉、高原) 本洲の西南部は、山岳東西に連

山地

亘し、南北に交叉し、其中間低卑の部分を雜へ、而して黒海の凹窪によりて、亞歐の境なる高加索山脉と分離せり。又東北と西北には、ウラル、スカンディナヴィアの兩山系、南北に蛇行せり。

中央アルプス山

さて本洲の主山系は、アルプスにして、以太利平原の北方を中央として、東、西アルプス、等種々の稱あり、其最高點は、西アルプスのモントブランク峯なれども、四方の分水點は、瑞西の東南部にあり、山間湖水多く、河流縱横に奔り、ライン、ローンの兩大河も、此山中に發して、南北に流る、又氷河にて著名なり、此山脉は、西方ローン河の縱谷を隔て、佛蘭西のセイウエン山に連なり、更に西南に延き、ピレニース、カンタブリアンの兩山脉となり、それより、南方チツパダ山に連なる、此間西班牙内部は總て高原なり。



アルプス山氷河の圖



アルプス  
山系の支  
脈

又アルプスの南支は、ポー河谷の西を擁して彎曲し、地中海岸に向ひ、此より東南に走せ、ア  
ベンニー山脈となり、以太利を縦斷す。又アルプスの北方は、ダニュープ河南の高原より、河  
北の山脈及エルプ山脈に接し、それより東して、カルパシアン森山となり、匈牙利平原の東北  
を繞る、最高點は、殆一万呎あり。それより東南の山脈は、高原性を帯びたり。次にアルプス  
の東方は、アドリアティク海より黒海に至るまで、山脈東に向て走す、之を概稱してバルカン  
山脈と云ふ、其中間高原多し。此山脈は一旦海に没して小亞細亞の山脈に連れり。

此他、黒海と裏海の間に、高加索山系あり、ウラル山は、綿々として歐亞兩州の間を走せ、北は  
林木に蔽はる、又スカンデナヴィア山系は、同名の半島を蜿蜒し、山中湖水多し。

(平原) 歐洲の大平原は、ピレニース山系より東北ウラル山系に達し、其面積、全地の三分  
の二に居れり。此他高地中と雖、山系及高原の間、平原少からず。平原の最大なるは、東北平原  
にして、此平原の西に、獨逸平原あり、日耳曼の北部を占め、更に西して、和蘭の海岸低地あり、  
海面よりも卑し、それより、西南佛蘭西の低地に連れり。此他ロンバルデー平原、ハンガリ  
ー平原、ルーマニア平原、等あり、山地の間に散在せり。

(三)河、湖

河

(河流) 本州の分水界は、東北平原に在りては、東北ウラル山脈より、西南に向ひ、ヴォール  
ダイ丘を経て、曼嶼の境に達せり。而して更に同方角に進み、終にピレニース山に終れり。而

東南諸海  
に入る河  
流

して此分水界より東南方の傾斜は、遙に西北方の傾斜に勝るか故、最大河は南の諸海、殊に黒海  
に注けり。然れども、大河は、大抵裏海、黒海の如き、内海に終るを以て、其河口に大都府なし。  
之に反し、西部大西洋に注く河流は、長大ならずと雖、其下流には、盛大の市邑あるもの少なか  
らず。

ヴォルガ河は、本洲の最大流にして、初めは平原を東に緩流し、カザン府の下にて、カマ河を  
併せて南流す、全長二千二百哩、殆河流船を通ぜざる所なく、河口分れて、七十流となる。

ドン河は、アゾフ海に入り、ニール、ダニュープは黒海に朝す。就中ダニュープは、本洲  
第二の大流にして、日耳曼の北部より、墺地利、セルヴィア、ブルガリア、ローマニア、を經過し、  
其間南北山岳の諸水を容れ、一千八百哩の長程を走り、七河口をなして、海に入り、而して船舶  
能く上流に達するを以て、内地貿易の要路にして、其利益甚大なり。

地中海に注く著名の河流は、ポー、ローン、エープロ、等なり。ポー河は、以太利の沃原を灌  
漑し、下流の水面は、沿岸よりも三十呎高し。ローン河の急流は、アルプス山に發源し、西流し  
て、一旦ゼニウ湖に入り、之を出て、南流して地中海に注く。

次に大西洋に朝する河は、テージス、ロワール、セーレン、ライン、エルベ等なり。ラインは、中  
央アルプス山に發源し、西北に流る、長八百八十哩、瑞西の境迄は能く流船を通ずべし、沿岸風  
景に富み、且大都府の多きを以て、著名なり。此他、バルティック海に入る川流は、ヴイステラ、  
等あり。北氷海に朝する者は、ドワイナ、ベンシラ等なり。

ライン河

ダニュー  
プ河

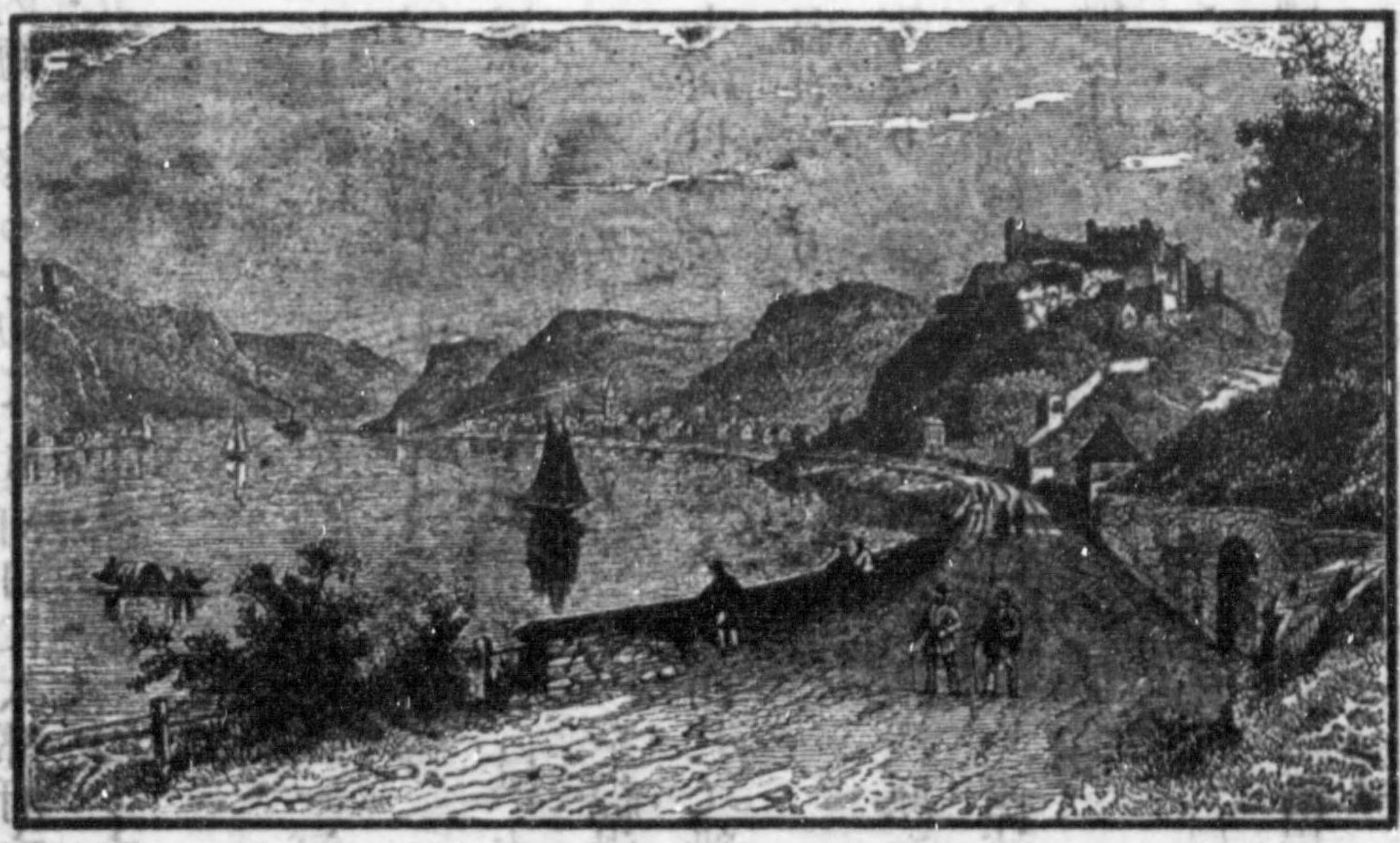


湖

(湖沼) 本洲の大湖は、之を區別して、二群とすべし、バルティツク海沿地の湖と、アルプス山地方の湖是なり。前者に屬するラド・ガ湖は、本洲最大の湖にして(面積七千五百五十方哩)河流を容るゝと四十、又其南と東には數條の運河を穿ち、内地に通ずべし。ナチ・ガは、ラド・ガの東北に位す、一川あり兩湖を連絡す。此他、フィンランド州には、無數の沼湖あり、スカンディナヴィアにも、湖少なからず、就中ウ・テル湖、最大なり。

南部の湖  
アルプス山地方には、瑞西のゼ・ニ・ヴ・湖、其形半月に似て、水亦透明、風景佳絶なり、最深處は、殆一千呎に至る、夙に汽船の航通あり。日耳曼のコンスタ・ンス湖は、アルプスの北脚にあり、景色美にして、ライン河湖中を通過し、船舶の交通織るが如し。其外匈牙利のバ・ラ・ト・ン湖、以太利のガ・ル・ダ湖、アルプス山域の湖あり。

(四)氣候



風景の畔河ンイラ

氣候

歐羅巴の氣候は、分ちて南、中、北の三帯となすべし、即ち西班牙、以太利、希臘、南佛蘭西、及土耳其は、溫暖にて、能く米、橙、無花果、其他の菓實を産し、冬期短くして、夏期長し、之を南帯とす。中部以北の佛蘭西、英吉利諸島、丁抹、南部那威及瑞典、日耳曼、和蘭、白耳義、瑞西、墺地利、並に南魯西亞は、四季次第に變移して、急遽ならず、穀類、菓實、亞麻、大麻、等成熟す、之れ中帯なり。北那威、及瑞典、ラフランド、北魯西亞は、夏短くして、冬は長く、且嚴なるを以て、植物の發生甚乏し。バルティツク海の北邊、ボスニア灣の如き、冬期は水面全く氷結す、之を北帯とす。

氣候温和の理由  
雨量

蓋本州は、極北部の外は、溫帯に位し、殊に南部は半島多く、海水深く、陸地を穿つを以て、概して他の同緯度の大陸よりも、氣候溫暖なり。又特に注意すべきは、其西部の、東部よりも暖和なるとなり、是れ主として北亞米利加より來る灣流に由るものにして、北那威の如き、北極圈内に在れども、其氣候殆、溫帯と一樣なり。本州の雨量は概して西部に多く、東部は少し、是れ雨は多く西南風と西風の齎らす所なればなり、但し地中海の如き大潜水あるを以て、甚不規律なるものあり。

(五)動植物

動植物

東北部平原の動物及植物は、自ら三帯をあらはせり、北氷洋の地方は僅に蘚苔を生し、喬木なく、滿目藪澤にして、馴鹿其他北氷洋獸棲息するのみ。長き冬間は、此等の獸類、森林に潜伏し、



河水の氷結すること九ヶ月、人類は極めて少なし。此平原の南部も、亦茫々として樹木なく、其東部は曠原ステップと稱し、不毛の鹹原なり。然れども、其西部には、廣原あり、羊、馬、其他家畜の大群あり、又米穀及小麥を産すると甚多し。而して其中部には、大なる森林あり、その北に偏しては、麥類を生し、南に偏しては、亞麻、麻、及小麥の産あり。  
又地中海岸の暖國には、橄欖、蜜柑、巴旦杏、其他米、等の穀類あり、大西洋岸、及山地の谷間には、穀物、菓物、葡萄を生ず。西北の海岸は、頗る水産に富めり。(亞細亞總論生物圖參考)

(六) 人民、宗教、世運

人民

(一) 人民 本洲の人口は、大約三億六千萬あり。地の面積は、他の四大洲に及はずと雖、人口に於ては、唯亞細亞洲に劣るのみなり。人民の最多きは、其西南部にして、東北部は稀少なり、これ其交通の便否と、氣候の寒暄によるや明なり。

人種は、ラノランド、芬蘭及匈牙利の一部に、黃人種の住する外、全洲各地白人種の數族之に占居せり。其言語は、全國多少の差異あれども、東洋語と西洋語の相違するか如き甚しき懸隔なし。

宗教

(二) 宗教 宗教の大體を察するに、少數の黃人種及土耳其人、等を除くの外、概して基督教を奉ぜり。然れども、種類の異同によりて、基督教の三大派に分屬せり、即ち希臘教(日本の所謂正教)は、東北部の人民之を奉じ、カトリック舊教は、西南部の人民之を信じ、新教は西北部に行

世運

はる。其他は、回々教にあらざれば衆神教に歸依せり。

(三) 世運 歐羅巴洲は、大抵溫帶の中に位し、其寒暖の人身に適すること、同緯度の他洲に勝れり。海岸は、出入夥しく、河川は四方に放流して、大に交通、貿易の利あり。此の如く、本洲は、天惠を享有すると、大なると、其他の事情によりて、夙に文運進歩し、殊に近代に至り、汽機、郵便、電信、印刷等の發明ありてより、頻りに長足の進歩をなし、現今に於ては、實に宇内を凌駕するの實力あり。亞細亞の半部、亞弗利加の大部、亞米利加の大體、及阿西亞尼亞の過半は、皆歐洲人の殖民する所となり、或は之れが支配を被らざるはなし。我國方今の新文明も、多くは其影響に由らずんばあらざるなり。

各國の進

本洲大體の世運は、以上の如しと雖、之を各國に就て、察するときは、固より大小、優劣の差異なきにあらず、即開明富強を以て、最赫々たるは、英、佛、曼、奧、魯、以の六國にして、其中魯國は、其勢力強大なるも、其社會及政治の上にては、他に及ばざるものあり。此六國の外は、其位置、多少劣れり。又諸國文明の風、大抵其趣を同ふすと雖、其風俗、習慣、氣質の如き、各國相異なるものなきにあらず。

(七) 生産

生産

本洲は、亞細亞と異なり、其規模狹小にして、東西南北の交通自由なるを以て、職業の種類甚多く、概して農、工、商、等の諸業、互に相雜居するを以て、單に獸獵、又は漁業、又は牧畜を專業



とする者のみ、一地方に住居するは、多くは大平原の東部、及大洲の北岸にあるのみ、而して農、牧、工、商等の諸業、大に進歩し、多少學理を應用せざるはなく、殊に工業の如きは、蒸氣機關を用ゐざるもの甚稀なるを以て彼の鐵器、布帛、時計、飲料、等、万般の製造、精巧を極めざるはなく、且つ其産額、極めて夥多なるとは、粗各國誌に述べたり、實に世界文明の前進國なり。

(八)交通、貿易

交通

(交通) 交通は、水陸を問はず、郵電鐵道に關せず、其設備の廣大にして、其運動の迅速なる、誠に驚くべきものあり。其一例を舉ぐれば、其領土の廣袤、我邦と大に異ならざる、英吉利、日耳曼、佛蘭西の如き、其鐵道の延長、一國にして、二万哩、乃至二万七、八千哩あり、(其領土の廣さ日本の九分一に足らざる白耳義も、尙ほ凡三千哩の鐵道を有せり)、電信線の條長、凡十八万哩、乃至二十四万哩なり、又汽船は、凡五百、乃至五千五百を有せり、以て其大躰を察すべし。

貿易

(貿易) 本洲各國の貿易は、即ち世界貿易の大半を占むるものにして、其領域甚大なり。英吉利の輸出入高は、合計凡三十八億圓(金貨)、日耳曼は、凡二十億圓なり。和蘭の如き小國も、十億圓以上に上れり。而して各國商船は、世界の各港に出入し、殆んど到らざる所なし、實に盛なりと云ふべし。

(九)政治、軍備

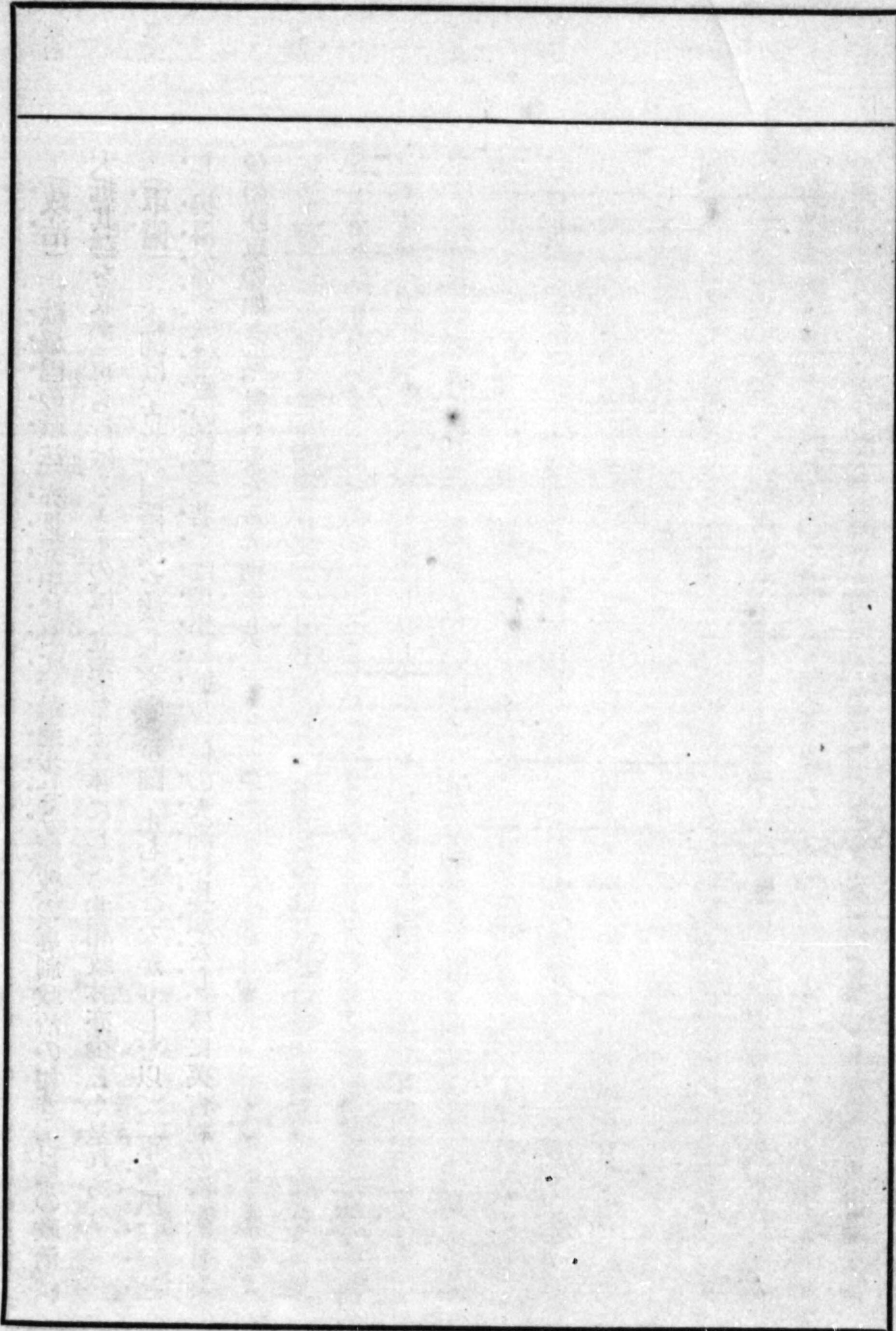
政治

(政治) 歐羅巴の政法、亦世界中に於て、最進歩せり。彼の專制政治の如き、古風の政治は、大抵其跡を收め、専ら行はるゝものは、立憲君主政體にして、共和政體亦少しく是れあり。

軍備

(軍備) 本洲は、古來列國境域を接し、交戦、争闘、止むときなかりしを以て、軍事夙に發達し、兵器の製造、軍艦の修築、若くは兵學の進歩、他の大洲に比類なし、殊に英吉利の海軍、日耳曼の陸軍の如きは、最精英なるの稱あり。





第三編 亞弗利加洲誌

第一章 發端

第八號地圖參照

廣袤 東海 西海 北海

(一)廣袤 亞弗利加洲は、其長さ、地中海のテューニス海岸より、南端アガルハス岬まで、凡五千六百哩、其幅は東岸のグアードフ岬より、西岸のヴェルテ岬まで、亦殆五千六百哩あり、面積は、附近諸島を併せて、凡千四百四十万方哩にして、其大さ歐羅巴に三倍し、亞細亞に次けり。

(二)沿海 本洲と亞細亞と接續する、スエズ地峽の堀割、及紅海の事は、亞細亞洲誌に記したれば、今之を畧す。紅海の危岸を沿ひ、ベールマンテフ海峽を過き、アードン灣を出れば、グアードフ岬の東に、英領のソコトラ岩島あり。其以南の海岸には、ザンジバル、ソーフアラ、の二灣あるのみ。東の大島マダガスカル島は、世界中第四の島にして、其面積日本群島よりも遙に大なり。此島と大洲の間を、モーザムビーク水道といふ。

西海 南端も、大灣なく、近海淺くして、海流悪しきがため、半歳は陸に近づくべからず。名高き喜望峯の突出あり、此處より以北ギニー灣底までは、斷崖壁の如く立てり、其以西は低沙の濱なり。西岸は、概して船を繋ぐべき港灣少からず。

北海 ジブラルタル海峽の兩岸は、斷崖直立して高岬をなし、以東テューニスの端までは、岩



國土の區劃

濱なり。それよりナイル河口までに、ケ・プ・ス、シ・ド・ラの兩灣あり。ナイル河口は、名高きニ稜洲なり。  
(三)國土の區劃 本洲は、境域大なれども、未開の土地多く、海岸の要地は、大抵歐羅巴強國の屬領なり。今之を分ては、土耳其管轄地、英吉利領、佛蘭西領、日耳曼領、葡萄牙領、西班牙領、及其他の獨立諸邦等とす。

第二章 亞弗利加地方誌

第八號地圖參照

(一)ナイル地方

ナイル地方とは、ナイル河の水域にして、埃及領とアビシニアの二國を包括せり、而して埃及領は、之を大別して、埃及本部、ヌービア、白ナイル地方の三部とす、但埃及領の境界は、尙判然たらざる所あり。

○埃及領

第一、埃及本部 埃及本部は、地中海よりヌービアに至る、ナイル河邊の地と、紅海岸の地と、リービアシ沙漠の一部とを包めり。其面積は、二十一萬二千餘方哩にして、殆日耳曼帝

地勢

國に等し。人口凡五百五十萬あり。

(地貌・氣候)

土地、概低平にして、高山なし。ナイル河の左岸は、サハラ高原に向て、地勢次第に高く、右岸には、山脉連りて、紅海の境を爲せり、其山脉の高處は、二千五百呎に達す。ナイル河の西方河流に並行し數多の沃域幅八十哩許あり、沃域とは、沙漠中に泉水ありて、地味の肥沃なる所を云ふ、一に泉地とも稱す。

氣候

氣候は、夏期炎熱なれども、其他は中和なり。降雨甚稀なれども、ナイル河の氾濫に因り、地味極めて肥沃なり。

人民

(人民・都府) 人民は、土耳其人、亞拉比亞人、等なり。土耳其人は、上流を占め、國王亦之に屬す。從來回教を以て、國教と定むと雖、宗教の信仰は、總て自由なり。近時教育漸く普及せり。

都府

首府カイローは、本洲最大の都にして、ナイル河の東岸に位し、海岸を距る二百哩、市街狹隘不潔なり、舊跡處々に散在す、人口凡三十七萬あり。カイロー府の緯度は、日本の琉球列島の中の島と粗同一なり。貿易盛大の港は、アレキサンドリアにして、古來有名なり。

産物

(産物) (農産) 近來、耕作大に發達せり。ナイル河の水域は、地味肥沃にして、一年に三回の收穫あり、國民過半は、耕作を事とす。穀物、菓實、藍、麻類、葡萄、薔薇、等を産出す。(畜産)

交通

駱駝、馬、山羊、驢、牛、鵝、鴛鳥、等少からず。  
(交通・貿易) 埃及は亞拉比亞地方より本洲内地に通ずる隊商路の中心に衝り、又ナイル



の水路に依り、遠く汽船及帆船を、内地に行るべし。鐵道、郵便、電信、電話の設あり。此國古來屢、世界の貿易中心と爲りしが、近時スエズ運河の開鑿以來、復た交易、頗る隆盛に赴けり。抑此スエズ運河は、今より二十有餘年前に、佛蘭西人レセ、ノ氏の開鑿せる所にして、長八十哩、幅は水面上三十一間以上五十間あり、其通航時間は、凡十餘時間を要すと云ふ。

(政治、古蹟) 埃及は、古來幾多の變遷を

經て、千八百四十一年土耳其の屬國と爲りしが、内亂相續き、國政治まらず。名目上尙土耳其國の管轄に屬せり。此國は、世界中の古國にして、今尙存する數多の古蹟は、其夙に開明に進み、藝術の發達せしを證すべし、就中金字塔、獅身女面の像、方尖石碑、等は、奇異の遺物なり。

第二ヌービア ヌービヤは、埃及本部

とアビシニアの間、サハラと紅海の間に介在し、面積凡二十五万方哩、人口四十万あり。土地概荒野にして、ナイル河之を貫流す。河畔の地勢一般に高し。ナイルは、此邊に瀑布、急流多く舟航に適せず、地味、氣候、殆埃及本部に等し。

人民大抵回教を奉じ、土語を用ふ。貿易盛大の都は、カルツームにして、藍白兩ナイルの合



河運メエズ

政治

古蹟

ヌービヤ

人民

白ナイル地方

流點に在り、歐洲人の居留者少からず。

第三白ナイル地方 此地方は、熱帶の降雨に因り、草木繁茂す、ナイル河の沿岸は、ゴンド

コロ以下は、二百哩間概沼地にして、蘆葦繁茂し、其以上は、地勢高峻にして、海面を抜くと、四千哩なり。

○アビシニア

(位置、地貌) 面積凡十九万方哩にして、人口五百万なり。此國は、全く海に接せず。國

内概高原にして、南西部は、殊に山多く、アバヤレド山は、二万五千二百呎に達し、四時白雪を戴けり。藍ナイルと、アトバラの二河、此に發す。氣候はヌービヤ及埃及に比すれば、稍寒冷にして、健康に適せり。山谷の地味は、殊に豊饒なり。

(人民、産物) 人民は、皮膚栗色にして、體格正整なり、又性質は、粗暴なり。國人大抵基督

教を奉ず。首府を、コンダーと云ふ。農産物には、良種の穀類あり、毎年二回、乃至三回收穫すべし、又諸種の菓實、良材あり、野獸亦多く、鱒魚河に躍り、大蛇山谷に遊ぶ。此國は、君主專治にして、以太利國の保護國なり。

(二)北亞弗利加

バルバリー諸州とは、トリポリ、テューニス、アルゼリア、及モロコ、の總稱にして、本洲の



地 貌	北部を占む。テューニス以西は、アトラス山系、北海岸に並行し、西方モロッコに於て、山勢最高く、一万二千呎に達す。山と海の間は地味概豊饒なれども、耕作未だ完からず、就中、モロッコは最肥沃なり。アトラス山とサハラの間にある、一帯の地には、波斯棗の森林夥し。住民は、大抵回教を奉ぜり。 (トリポリ) トリポリは、土耳其の屬國にして、人口八十萬、面積三十四萬四千方哩あり。海岸は、肥沃にして、物産多し。氣候は寒暖の差甚し。首府トリポリは、内地スーダンに向ふ、商路の起端にして、緊要の地なり。 (テューニス) 面積四萬五千方哩、氣候溫暖、地味豊饒、牧畜盛にして、鑛産物あり。人口百五十萬、小學校を設け、電信、郵便を設け、數條の鐵道あり。要するに、北部諸州中、アルゼリアに亞ぐ開明國なり。首府テューニスの近傍に、古代のカーセージ城趾あり。此國は、佛蘭西の保護國なり。 (アルゼリア) 面積十八萬四千餘方哩、氣候概健康に適し、首府アルジールスの如き、冬時歐洲人の來て、病痾を養ふ處たり。地味豊饒にして、人民大抵農業をなし、牧畜盛なり、人口、四百十二萬四千、學校の設あり。又鐵道、電線あり。沿岸貿易盛なり。千八百三十年以來、佛國人此地を征服して、植民地と爲せり。 (モロッコ) 面積二十一萬九千方哩、人口凡五百萬あり、モロッコ革は、名産なり。貨物の運送は、僅に、隊商に頼るのみ。首府は、モロッコ及フェズの二都とす。政體は、君主專制なり。
トリポリ	
テューニス	
アルゼリア	
モロッコ	

北海岸諸國の外國貿易	本洲の海岸中、獨立を維持する者は、唯此國のみ。 此海岸諸國の輸出品は、種々の天産物にして、海路よりの輸入品は、歐洲の製造品なり。而して内地に通商する隊商は、象牙、金粉、駝鳥の羽毛、及黒奴、等を輸入し、之を以て歐洲の製造品、兵器、火藥、短劍、衣服の類と交易し、又之を内地に輸送するを常とす。 (三) サハラ沙漠
位 置	サハラは、地球上最大の沙漠にて、北亞弗利加の中央を占め、西は太西洋より、東はナイル地方に至り、北緯凡十五度より、三十度に達す、其面積は、凡二百五十萬方哩にして、畧歐洲の三分二に等し。
地 貌	サハラは、一般に沙漠の高原にして、海面を抜くと、平均千三百呎、乃至千六百呎、岩石處々に屹立し、丘陵起伏せり。就中長五百哩許の山脉二箇あり、西北より東南に連亘す、其最高峯は、八千二百呎あり。東部の沙漠を、リビアン沙漠といふ。
沃 域	サハラは、一般に降雨少なし、是れ其沙漠となれる主因なり。日中は、炎熱太しけれども、夜間は屢、寒冷に苦しむと云ふ。沃域には棗子並に諸穀を生ず。山地には往々人民の集合して社會を成す者あり、最有名なるをアスペン國とす、サハラの殆中心に在り、首府をアガーデスと云ふ。
沙漠の旅 行	沙漠の旅は、實に困難危険なり、或は中途に於て糧食盡き、或は井水の缺乏に苦しむ、又往



々恐るべき旋風吹起り、又は猛悪なる流民の爲めに、襲撃せらるるとあり。此等の危難あるに拘はらず、隊商は常に貨物を駱駝に載せて、沙漠を横ぎり、スーダン地方と、地中海濱諸國との間に往來せり。其通商路數條あり、皆沃域より沃域に達せり。又沃域に於て、物品交換の定期市場を開く者あり。

人民

サハラの住民は、種々の種族あり、大抵遊牧を事とし、定居なし。住民凡五百万人ありと云ふ。言語は、亞拉比亞語、或は土語を用ゆ。名目上回教に屬する者多し。産物は、棗子、食鹽、硝石、明礬、等にして、又處々に鹹泉あり。野獸は、沙漠の邊緣に徘徊す、然れども、世人が猛悪なる沙漠獅子甚多しと想像するは、是れ大なる誤なり、隊商の獅子に襲はれたりとの實談は未聞さる所なり。又駝鳥羽は輸出品の一なり。

(四)西亞弗利加

西亞弗利加とは、大沙漠より、ヌウルス河(南緯十八度の地にあり)に至る迄の、西岸地方の總稱なり、其中に、セチガムビア、シイラレナン、リベリア、及ギニーの諸地方を包有す。此地方の住民は、蠻教を奉ずるもの多し、回教、或は基督教も少しく行はる。

セチガムビア

(セチガムビア) セチガル、ガムビア、及リナグランド、三河の水城地方にして、面積三十八万方哩、東南部は山多し、氣候炎熱にして、地味豊饒なり。國內數多の小邦に分る。又所々に歐洲諸國の殖民地あり。人口凡千二百万あり。

シイラレナン

(シイラレナン) 英國の殖民地にして、氣候甚悪しく、産物多し。人口十八万餘。

リベリア

(リベリア) 地勢は、海岸より、内地に向て次第に高し。氣候及産物は、シイラレナンと等し。住民は、黒人種にして、基督教少しく行はる、人口凡百七万なり。此國は、解放せられたる奴隸のために、創立したるものにして、今は獨立の共和國と爲れり。

ギニー

(ギニー) ギニーとは、北緯十度二十分より、南緯十五度四十一分に至る、西岸地方の總稱にして、之を上下二部に分つ。上ギニーとは、セチガムビアの東南境より、赤道邊のナゴエ河に至る迄を稱し、下ギニーとは、ナゴエ河より、ヌウルス河に至る迄を稱す。ギニー中に包有する地方、左の如し。

穀物海岸(大部はリベリア共和國に屬す)

象牙海岸

奴隸海岸

アスハンテ、(ギニー中最大の王國にして、黄金海岸とコング連山の間にある)

ダホメ

ヨルバ

ベニン

ピアラ

ローアング等

此等の中歐洲諸國の屬領あり(八號地圖)、又此外、コンゴ河以南に在るものは、コンゴ、アソゴラ、及ベンゲラの三地方にして、海岸を距ると五百哩に、モカムベ連山あり、東境を成せり。内地は概廣大の森林を以て蔽ひ、象、犀、獅子、等多く棲居す。此沿岸一帯の地は、第十五世紀の末より、葡萄牙の所領に歸し、最初甚繁盛なりしが、奴隸賣買の流行以來、人口大に減少し、



産物

再び衰退せり、其首府はアンゴラに在り。  
以上西亞弗利加地方の産物は、土地により小異あれども、之を概記すれば、橄欖油、地豆、護謨、象牙、沙金、胡椒、木材、珈琲、綿、砂糖の類とす。而して通商貿易は、歐洲諸國との間に行はれ、船舶の往來少からず。

(西方諸島) 西海の著名なる島々を擧ぐれば、英吉利領のセントヘレナ島は、第一世那翁の流竄地として、其名高し。其西北にアッセンション島、ヴェルデ岬の西にヴェルデ島、更に北方にカナリイ島、アゾールズ島等あり、此等の諸島は皆火山質の島なり。

(五)南亞弗利加

南亞弗利加の中には、ダマラランド、ナマカラランド、ケープコロニー、ナタール、チャレンジ自由國、南亞弗利加共和國、並に廣大なる内部地方を包含す。

(ダマラランド等) 西海岸のダマラランド、及ナマカラランドは、一にホッテントット國と稱す、北部地方は、英國の所領にして、南部は、日耳曼の所領なり。僅に船舶を繫泊すべきは、ウァールウヰツシ灣あるのみ。海岸は、岡丘を負ひ、内地は廣漠たる山地にして、平均高七八千呎に達し、其以東は、草原にして、土人牧畜を事とす。

(ケープコロニー) 其面積は、諸屬地を合して、二十一萬三千餘方哩あり。一條の山脉、南回歸線の邊より起り、東南海岸に沿ひて、遂に國中を横斷するものを雪山山脉とす。山脉の

ダマラ  
ランド  
ナマカラ  
ランド  
ケープ  
コロニー

産物

西端に、テール山あり、其南端の高岬を喜望峰と云ふ。此邊の河流は急激にして、岩石水中に峙ち、又夏は乾涸するを以て、皆舟航に適せず、チャレンジ河の如き、千二百哩の長流なれども亦然り。

氣候は、概して溫暖なり。東海岸は、降雨少からず、草木繁茂す、土地は大半牧場を使用す。住民は、歐洲の白人、ホッテントットの黑人、等なり。人口凡百

五十三萬あり。近來土人も大に基督教に歸せり。教育も、近頃稍、其緒に就けり。首府をケープタウンと云ふ、貿易頻繁にして、各國の郵船常に寄港す。

羊毛は、主産物にして、又駝鳥の羽を輸出す。鑛物は銅を第一とし、又近年頻りに黄金坑、及金剛石坑を發見し、盛に之を採掘せり。三條の鐵道、内地に通じ、郵電の制亦備はる。當地は、英國の殖民地なり。スエズ運河の開通以來、著しく衰へたり。



シウダプーケ

(ナタール) 面積二萬餘方哩、人口五十四萬餘あり、耕作、牧畜盛にして、黄金を産し、北部には、廣大の炭田と、良質の鐵坑あり、此二地方は英領なり。

(チャレンジ自由國) チャレンジ自由國は、チャレンジ河の上流と、其支流ヴァール河との間に在り、面積四萬五千五百方哩なり。此國は、平均五千呎の高原にして、冬寒夏熱共に甚しく、降雨

ナタール  
チャレンジ  
自由國



南亞弗利加共和國

稀なり。住民は、大抵土人、及和蘭耕夫にして、人口二十万餘あり。基督教行はれ、學校の設あり。炭田に富み、又黄金、寶石、羊毛を産し、住民は多く農牧を業とす。此國は今共和國なり。  
(南亞共和國) 面積凡十一万三千方哩、我國よりも少しく小なり。地勢、北に傾き、低地は、耕作に宜しく、高地は、牧畜に適す。金剛石、黄金、石炭、駝鳥羽、等の産物あり。人口七十六万、内白人十一万あり、大抵基督教を奉ず。公私の學校、及鐵道、電線の設あり。此國は獨立共和國なり。

内部地方

(内部地方) 南亞弗利加の内部地方は、甚廣大にして、諸種の黒人之に住居す。カラハリ沙漠は南ナレンジ河より、南緯二十二度に至り、酷熱不毛の地にして、住民少なし。氣候不良にして、熱病流行し、毒草、毒蟲多しと云ふ。ベチアナランドの英吉利國殖民地は、面積四万二千餘方哩(カラハリを合すれば、十六万二千方哩)あり。土地概高野にして、氣候、地味、共に佳良、耕作、牧畜に適し、金、銀、鉛、鐵を産す。

(六)東亞弗利加

ソ、フ、ラ、及、モ、ロ、ク

東亞弗利加とは、右の地方の以北、印度洋の沿岸アビシニアに至るまでの地方を稱す、長凡三千哩、之を分て、ソフアラ、モザムビーク、ザンジバル、ソマリーの諸國と爲す。  
(ソフアラ及モザムビーク) 面積凡二十万方哩、人口一百万なり。海岸は平低にして、西に山岳、高原を負ひ、リムボボ、ザムベジの兩大河あり、内地にはニアンザの大湖あり。

ザンバル

ソマリー地方

り。象牙、黄金、珈琲、砂糖、等を輸出す。此沿岸一帯の地方は、葡萄牙の所領なり。  
(ザンバル) 獨立の回教國にして、南葡萄牙領より、北赤道邊に達し、近海の屬島中、最大なるを、ザンジバルと云ふ、國名は此島名より起れり。キリマンジャロの高峯は、四時白雪を冠せり。住民は、黒色種族にして、數部落に分る、回教を奉ずるもの多し。人口十萬あり、首府をザンジバルと云ふ、同名の島に在り、東海岸中、最要の貿易場なり、本洲赤道地方に入らんとする者は、多く此港に來ると云ふ。南部は、日耳曼に屬し、北部は、英國の支配を受く。  
(ソマリー) ザンジバル以北の地は、獨立種族の住處にして、海岸に住する者を、ソマリー族と云ひ、内地に在る者をガラ族と云ふ、共に回教徒なり、基督教も少しくあり。此地方は、珈琲、沒藥、乳香、等を産出す。セイラはアーデン灣に瀕する小都會にして、バルベラは貿易場なり。此等の地方は、大抵埃及王の支配に屬す。

(七)中央亞弗利加

内地の探検

亞弗利加の沿岸地方は、夙に歐洲人の探知する所と爲りしが、其中央部に至ては、久しく暗黒にして、之を明知する者なかりき。然るに、現世紀の初より、數多の探検者あり奮て内地に旅行し、百難を冒し、万苦を忍び、山川を跋涉したるを以て、近來稍、其形勢を窺ひ得るに至れり。就中リビングストーン、スタンレー二氏の如きは、最著名の探検家にして、數百年間内地を蔽ひし濃雲を排らきたるの功勞、實に鮮からず。



スーダン

(スーダン) スーダン、一名ニグリシアは、中央亞弗利加の廣大なる地方にして、北サハラに堺し、西、セチガムビアに隣りし、東ナイル地方に接し、南境は未だ明瞭ならず。此地は大抵高原にして、地面凹凸少く、南西部に高さ八九千呎の山脉あり。大河はナイジェル、とシャリーにして、シャリーは中央のチャッド湖に注けり。熱帯の降雨を受け、地味豊饒氣候炎熱にして、綠林地を蔽ひ、能く菓穀を産すべし。土人は、黑色種族なれども、亞拉比亞人亦住居す。

此地方に在る重なる小邦を擧ぐれば、北西部のカアルタ邦、バム・バーラ邦、マ・シーナ邦、就中マツ・シーナ邦は、スーダン地方中、有名の貿易場にして、沙漠の女王の異名あり、恰も五條の貿易通路に當り、食鹽、金、象牙、等を産す。ナイジェル河の東方にハウツサ邦、ポール・ニュー邦あり、ポール・ニューの首府クーカは、スーダン地方中最大の都なり。此他數邦あり、今假りに之を邦と稱するも、大抵一國の軀面を具備するものにあらず。

(コンゴ自由國) コンゴ自由國とは、本洲の中心に方り、コンゴ河の貫流する地方を稱するものにして、千八百八十五年、日耳曼のベルリン府に開きたる萬國コンゴ會の議決に由りて、之を建立し、白耳義王をして、一個人の資格にて、之を支配せしむるとせり、而して、白耳義政府は、毫も之に關係なし。抑も此國を建たる目的は、萬國人民をして、自由に此内



人土加利弗亞央中

コンゴ自由國

地に交易せしめんと欲するに在り。此國の境界は、東境は北緯四度より、南緯十二度に至り、南境の西部は南緯六度に至り、而してコンゴ河口の邊凡二十三哩間は海に面せり。スタンレー氏の計算に據れば、其面積百五万六千二百方哩、人口一千五十二万ありと。此國主要の輸出品は、椰子油、護謨、象牙、珈琲、蜂蠟、等なり。

コンゴ河は、楊子江の支那に於るが如く、本洲内地に交通の便を與ふること、實に大なり。此河は、河口より四百五十哩間は、航通自由にして、其以上スタンレー池迄二百哩間は、無數の瀑布、急流ありて、船を行るべからず、然れども、其上流は、スタンレー瀑布に至る迄、一千哩間は、能く汽船を通ずべし、而して航通に適せざる部分には、將に鐵道を布設せんとするの計畫あり、且今日既に五十餘個所の泊船所を設け、汽船十數艘往復絶へず。故に此河は、將來内地開拓の要路となるや、疑を容るべからず、内地コンゴ河水域は、尙未開の森林を以て蔽ふ所多しといふ。

(八)東海諸島

マダガスカル

(マダガスカル) マダガスカルは、本洲第一の大島にして、モーザムビーク水道を隔て、大陸と相對す。面積二十二万八千餘方哩あり。山脉、南北に走り、其高峯は一万三千呎以上に達するものあり。内地は氣候溫暖なるも、海岸は酷熱にして、濕氣多く、疫疾流行の恐あり。地味概豊饒にして、海岸には森林繁茂し、又鼠猴、狐猴の如き奇獸に富み、鑛産物數種あり。島



内數多の種族住居し、其主族をホーバと云ふ、自餘の種族は皆黑人なり。人口總て三百五十万  
 首府をアンタナナリツと云ふ、人口十萬あり。又北部に良港あり。基督教大に島内に行は  
 れ、政府又教育に注意せり。住民主として、耕作牧畜に従事し、殊に金屬製作、及花氈製造に卓  
 越せり。政体は世襲の君主專制にして、現今の國王は、女王なり、佛蘭西政府の保護を受く。  
 (マスカレ子諸島) マスカレ子諸島は、マダガスカルの東方に在り。其中重要な者を、  
 モーリシアス、及ボルボンの二島とす。モーリシアスは、英吉利國の屬島にして、人口三十六  
 萬餘あり、ボルボンは、佛國の所領にして、人口十九萬三千なり。  
 (サイシエル群島) サイシエル群島は、印度洋に散布し、英吉利國の所領なり。其他南方  
 濠太利亞と、亞弗利加との間には、無數の小島散在し、或は通行船に食料を給し、或は捕鯨船の  
 休憩場に供せらるゝと云ふ。

### 第三章 亞弗利加洲誌

#### (一) 海岸、島嶼、海灣

本洲の海岸線は、其大きさに比して甚短く、僅に一万六千哩に過ぎず、是れ其海岸の彎曲極めて  
 少なく、且島嶼の極めて稀なるによるなり、島嶼の大なるは、唯東海のマダガスカル島あるの

海岸  
島嶼

マスカレ  
子諸島  
サイシ  
エル群  
島

み、灣の大なるは、西岸のギニー灣、北岸のトリポリ灣、及アーデン灣なり。之を亞細亞に  
 比すれば、其形状の單一にして、變化なきと甚し。



原平及び脈山洲大加利弗亞 (寸法を以て平均高さを示す)

#### (二) 高原、山脈、沙漠

(高原) 本洲は、其形單一なるのみならず、内地の地貌亦單一なり。要するに、本洲は高原の大洲にして、過半は高原より成り、其高さ、凡そ二千呎、乃至九千呎なり。而して其周圍の海岸に沿ひて、大山脉あるを以て、高原の中央の高さは、其周圍よりも低く、又此周圍以外の海岸平地も、其幅甚狭し。本洲は、大麓高原なれども、其高さより區別すれば、宜しく上亞弗利加、下亞弗利加の二部に分つべし、即ち南を上とし、北を下とし、其境界線は北緯五度線とす、南部の平均高さは、北部の高さの殆ど三倍なり。

(山脈) 高原の周圍を繞くる沿岸山脉は、海濱より凡二百哩以内にあり、其重なるを擧ぐれば



は、(一)西北隅のアトラス山系は、地中海に沿ふて東西に走り、其最高峯をミルトシンと云ひ、高さ一万二千呎にして、我富士山と粗同しく、緯度も亦大差なし、常に白冠を戴く。此山系は、方に歐羅巴西南諸山と相對せり。(二)東岸アペシニアには、ナイル河の東側を、南北に走る山系あり。(三)東南岸の大湖地方には、ナイル河の源を繞る山系あり、其キリマンジャロ峯は、二万呎に達す、本洲の最高點なり。(四)南岸には、ケーブ、コロニアの臺地にて盡くる雪山山系あり。(五)西岸には、ナイジェル河に沿ふて、ユング山系あり。

**(沙漠)** 次にサハラ沙漠は、本洲全面積の凡四分一を占む。其中眞に沙漠と云ふべきものは、其西部の一部分と東部のリービアン沙漠のみなり。南部のカラハリ沙漠は、恰もサハラの大沙漠と南北好對をなせり、但此は、彼よりも甚小なるのみ。

**(スーダン)** 此の如く、本洲は、主として荒涼たる高原なれども、亦肥沃の平地なきにあらず、即ち沿岸山脉より、海濱に至る傾斜地、アトラス山系の南麓、兩大沙漠の中間に位するスーダン、及びケーブ、コロニアの沃原、是れなり。就中スーダン



沙漠

スーダン

河

(三)河湖

**(河流)** 亞弗利加の河流は、其數多からされども、其流域は長し、然れども、其分配甚不均にして、多くは其中部に急流及瀑布あり、又其下流短く、河口には危険の沙灘あるを以て、交通の便利少し。ナイル、ザムベジ、チレンジ、コンゴ、ナイジェルの五河、最大なり。ナイル河は、赤道直下なる、キリマンジャロ山に近き、湖沼地方に發源し、北に流れ、河口に三稜洲を作り、地中海に注ぐ、其長さ四千哩、所々に瀑布あり、本流を白ナイルと稱す。此河の特に他と異なる點は、(一)四近の地方雨に乏しきも、毎年期を定めて、徐々と二ヶ月間漲り、また次第に水量を減ずると、(二)上流には、藍ナイル等の支流あれども、下流二千哩の間は、一の支流なきと、(三)其河畔の地味肥沃にして、古來數千年間、大國の所在地として、生業、學藝、貨財の淵源たりしと、即ち是れなり。ザムベジ河は、南部の連山に發し、初めは五千呎の高地を流れ、次に高原の澤地を過ぎ、ウクトリア瀑をなして、印度洋に朝せり。

チレンジ河は、南部の最大河にして、ケーブ、コロニア山脈に起り、西流して大西洋に注ぐ、長さ一千哩にして、荒涼無人の境を過くれども、此邊に住する白人の爲めに、商業上の利益少からず。コンゴ河は、源を赤道亞弗利加に發し、西流して大西洋に入る。數多の支流を容れ、



或は數多の湖中を過ぎ、又は數多の瀑布をなせり。而して、舟を通すべき所、數百哩あり。ナ・イ・ジ・エ・ル・河はコング山脉中より起り、北流して、内部の窪地に入り、コング高臺を過ぎ、東南に轉して、ギニー灣に朝す、河口に一大三稜洲を呈す、長さ三千哩あり。

(湖沼) 北亞米利加の外は、本洲の如く數多の大湖沼あるものなし、而して多くは本洲の南部にあり、且つ東側に偏せり。就中ウ・クトリア湖は、キリマンチア山の西北にあり、湖面の高さ凡四千呎、長さ三百哩あり、白ナイル河、此湖より發す。此湖の西北に、アルベルト湖あり、其水亦ナイル河に入る。ウ・クトリア湖の南に、タンガニーカ長湖あり、長さ三百哩あり、其東南に、ニアッサ湖あり、又其西に二湖あり。此他は、スーダンのチャッド湖にして、水を放つの川流なし。

(四)氣候

亞弗利加は、諸大洲の中、極めて炎熱なり、是れその、熱帶の全幅を占むると、其東西の幅太た廣きと、日光の沙漠より反射するの強きとによるなり。然れども、本洲中極熱の地方は、熱帶の部分にあらずして、北回歸線の邊にあり、其然る所以は雨量の寡少なるに因るなり。故に雨量上、本洲を分ちて二部となす、一は多雨地域、一は寡雨地域と稱すべし。

多雨地域は、北緯十六度の邊より、南緯二十度の邊に達し、殆ど熱帶の全幅を含めり。此地方は、年中唯乾濕の二季あり、濕季には霖雨連週に亘り、河水溢れて全地を掩ひ、乾季には、大河

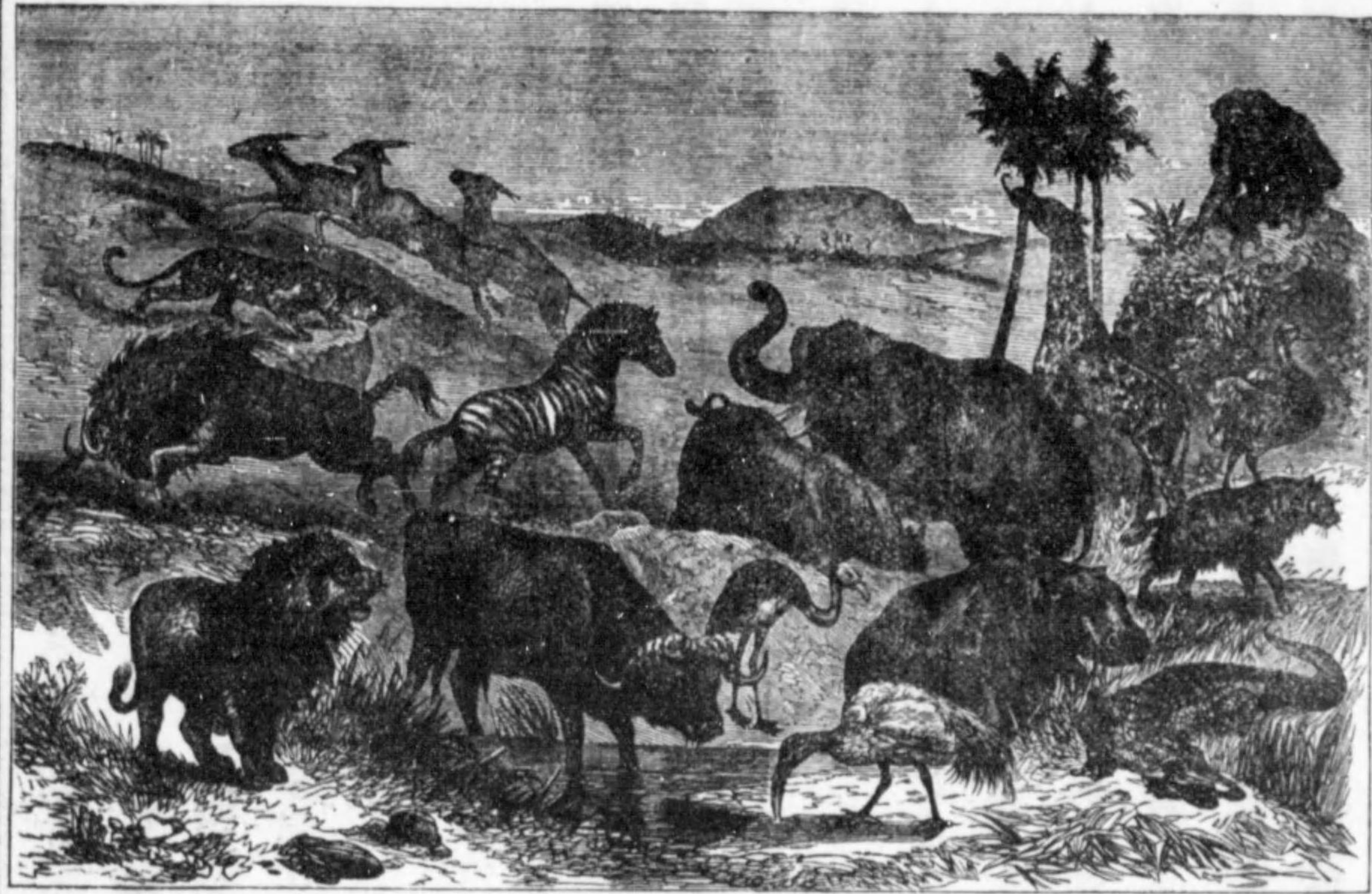
湖

氣候

多雨地域

寡雨地域

生物



子獅 馬角 豹 ドンライ 馬鹿 牛水 鱉赤 犀 鬣朱 象 馬河 子椰 フラジ 魚鱒 ナイハ 鳥駝 ンパンチ  
物 動 加 利 弗 亞

の外は、河床皆全く枯れ、植物亦熱殺せらる。此地方は雨量多きかため、森林繁茂し、爲めに日光を遮きるの効あり。寡雨地域は、北緯十六度以北と、南緯二十度以南の地を含めり。去ればサハラは、殆ど無雨の地なり、これ中央亞細亞の乾原より吹來る、東北風の通路にして、森林を培養すべき雨滴、毫もこれなければなり。

(五)生物

本洲熱帶地方の、重なる植物は、綿、藍、大薯、甘蕉、稷、椰子等なり。東部の重なる植物は、珈琲、香膏藥、護謨、及種々の香料なり。其北部には、南部歐羅巴の産物、並に綿、椰子の産あり。南部の乾燥なる臺地には、堅牢有刺の矮



樹灌木の類を生ず。動物は、種々の野獸あり、象、河馬、犀、斑馬、麋、驢、騾、駝、羊、羚羊、水牛、ゴリラ、チンパンジー、マンドリル、狒、猴、獅子、豹は、本洲の森林及平原を徘徊す。此他、駝鳥は、沙漠に住み、鸚鵡、バロケット(鸚鵡の類)等の美禽、擧て算ふべからず。蜥蜴、及各種の毒蛇は到る所に多く、鱒魚は殊にナイル河に多し。

(六)人文

人民

人口は大約二億ありと云ふ、其大部は黒人にして、分れて數多の部落を爲せり。然れども、黒人の住地は、世人の想像するが如く、甚廣からず、セチガル河と、ガブーン河(赤道近傍)との間を占むる、大西洋海岸より、ナイル河上流に至るまでの地にして、僅に全土の四分一に足らず。其以北及以東は、多くは白人種之に住せり、但此等の白人は、アラビア種にして、其膚色歐羅巴の白人よりも甚黒く、其言語は、アラビア方言に屬せり。此白人の奉ずる回々教、漸く黒人中に傳播するの傾あり、然れども黒人は多く猶偶像教を信せり。

商業

エジプトとバルバリー諸邦の外は、其政治の方法、最粗野簡單なり。本洲の商業は、其規模小にして、専ら白人の營む所なり。白人の内地に行商するは、北方のバルバリー諸邦より、沙漠の沃域を経て、中央亞弗利加に達し、其齎らす所の歐羅巴及亞細亞の製造品を以て、金、護謨、象牙、駝鳥の羽毛に交易し、又内地より、同様の諸品を、東西兩岸に運搬するなり。スエズ運河、アレキサンドリア、及スエズ鐵道は、歐羅巴と亞細亞の、商路の一部をなせり。

探檢

從來亞弗利加は、暗黒世界と稱せられ、内部の事情を知るもの、頗る稀なりしが、近頃歐羅巴諸邦の探檢者、踵を接して此に來り、就中リウ・ウ・グ・ストーン、スタンレー、二氏の如きは、最著名の探檢者にして、内地を掩蔽せる濛雲を排除したるの功、實に尠しとせず。斯く内部の狀況、年々歳々明瞭を加ふると共に、文明各國、競ふて之を占領せんとを計畫し、世界の耳目は、益、此に向はんとす。去れば、其事態一變して、文明の感化を被るに至るは、蓋し甚遠からざるべし。



第四編 阿西亞尼亞洲誌

發端及各部誌

第一號地圖參照

(位置、境界、等)

阿西亞尼亞洲とは、濠太利亞の大島を首めとして、太平洋諸島の中、亞細亞、或は亞米利加に屬せざる者、悉皆を總稱する名なり。今之を區別して、三群となす。(一)馬來群島、即ち亞細亞と、濠太利亞との間にある諸島。(二)濠太利亞細亞群島、即ち濠太利亞、タスマニア、ニュージールランドの三大島より成る一群島。(三)ポリネシア、即ち太平洋上に散布する自餘の諸島、これなり。去れば、今此に阿西亞尼亞洲と稱するものゝ範圍は、甚廣大にして、南北太平洋に亘り、西は亞細亞洲、及印度洋と、東は南北亞米利加洲との間に散在する、諸島を含めり。我國より之に對すれば、大抵西南方より、東南方に亘りて、距離甚遠からず、而して近頃は、彼我の交通、貿易漸く繁多とならんとするの勢あり。

(一)馬來群島

第九號地圖參照

馬來群島は、フィリッピン諸島、サンダ諸島、バブーア、即ちニューギニー島の總稱にして、蓋此諸島に、馬來人種(黃人種の一派)多く住居するより、斯く稱するなり、又此群島を、東印度群島

位置

範圍

位置



とも稱す。此群島境界は、東經九十五度線より、東經百五十一度線、北緯二十度線より、南緯十度線に達す。其面積總計一百万方哩餘にして、人口總計凡三千五百万あり。

ファイリッピン諸島

第一、ファイリッピン諸島 馬來群島中のファイリッピン諸島は、我國の琉球列島及臺灣の南に在る一叢島にして、大小の島嶼、一千四百個以上より成る。其面積十一万五千二百餘方哩にして、日本群島よりも稍小なり。此叢島排列の形状は、恰も扇子の如く、其最大島呂宗の北部は、即扇子の柄に似たり。人口凡七百七万五千あり。

地貌

(地貌) 島の大きなは、呂宗、ミンダナナ、サーマル、バラウ、ンにして、ミンダナナ島より西南に連なる小列島を、スール諸島と稱す。諸島概して山岳多く、山脉主として南北に列る。最高峯はミンダナナ島のアポー峯にして、其他は九千呎に過ぐる者なし。諸島中、火山甚多く、爆裂すると屢にして、其害の甚しき時は、一時に一万二千の人命を害したるとあり。又地震も頗多し。内地には川流少からず、最大なるは、我國の信濃川に優るものあり。其水域は平低にして、灌溉、運輸の便利あり。海岸は、灣港多く、水路の交通自由なり。呂宗島の西南岸に、マニラ灣あり、諸島の主府マニラ之に臨む、其人口二十七万にして、著名の良港あり。

氣候

(氣候、産物) 諸島は、南北十五度に亘るを以て、南北兩端の溫度相異なると、少からざれども、其氣候は、概して炎熱にして、北部は颶風の患多し、我國の颶風は、多く此邊より來るなり。暖期には降雨多く、低地は河水汎濫す。諸島は、天然の富源饒にして草木繁茂し、沃地少

産物

からず。重なる産物は、米、砂糖、烟草、珈琲、マニラ麻、護謨、藍、染木、蘇木、玳瑁、獸皮、等にして、殊に卷烟草の製造極めて盛にして、東西諸國に輸出するもの甚多し。又石炭、鐵、金、硫黃等少からず。

交通

(交通、貿易) 往時日本、及支那との通商、貿易ありしが、一時途絶し、近年復漸く盛ならんとする勢あり。諸島中の貿易中心は、マニラ府とす。定期航海船あり、又香港への電線あり。我國は、此に領事を置けり。日本への輸出品は、砂糖、烟草、乾藍、麻にして、日本よりの輸入品は、木蠟、絹布、漆器、陶器、石炭、木燧、等なり。

貿易

此諸島は、概して西班牙國の屬地にして、總督之を管治す、其居館はマニラ府に在り。人民は、大半馬來人種にして、黑色の土人多し、支那人、西洋人の雜種亦少からず。初等教育少しく行はる。

サンダ諸島及ニギニー

第二、サンダ諸島 馬來群島中の、サンダ諸島とは、西はマラッカ半島より、東はニギニー島に至る、總牀の列島を稱するなり。其中西部の島嶼を、大サンダ諸島と名く、即ちスマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス、バンカ、ヒリトン、等の諸島なり、東部の島嶼を、小サンダ諸島と名く、而してセレベスの東に在る叢島は、モラカス諸島と稱す。此總面積凡六十五万五千方哩あり、之にニギニー、一名パプア(第十號地圖)の大島(面積凡三千万)を加ふれば、其面積九十五万五千方哩にして、我日本の殆七倍の大きさなり。人口は、凡二千九百万あり。



地勢	<p>り。  <b>(地勢)</b> 此諸島中、ニューギニーと、ボルネオの二島は、世界中の大島にして、其他スマトラ、ジャバ、セレベスの如きも、亦小ならず。諸島の地勢は、概して山岳多く、峯嶺の高きは、一万二三千呎に達するものあり。フィリピン諸島と同じく、火山少からず、地震亦多し。河流は、運送、灌漑の便を備ふるものあり。海岸は、屈曲出入少からず、又繋船に便なる港岸乏しからず、就中ジャバ、パテラ、スマトラ島はサンダ海峽を隔て、スマトラ島に對し、諸島中最繁華の大都府なり。又スマトラ島は、馬來半島と相對し、其間にマラッカ水道を挟み、東西の咽喉を扼せり。</p>
氣候	<p><b>(氣候、產物)</b> 氣候炎熱にして、雨量多きを以て、概地味肥沃にして、草木繁茂す。諸島中最開けたるはジャバ、島にして、又最天賦の財源に富めり、蓋地球上熱帶地方の島中、第一位するといふ。耕作法中々に進歩し、農産少からず。諸島の產物を擧ぐれば、米(重要な食料品)、珈琲、砂糖、煙草、胡椒、丁香、肉桂、麻、栗、鐵木、黑檀、犀角、象牙、虎皮、燕巢、等あり。沿海の漁鹽は、甚重要にして、乾魚の消費少からず。礦物には、金、錫、鐵、銅、亞鉛、鉛、硫黃、石炭等あり。就中、バンカ島、及ピリトン島の錫は、重大の名産なり、ボルネオ島には、金剛石多し。製品にはジャバ、羊毛布名あり。其他青黛の製造、船舶の築造も、此に記するの價あり。</p>
交通	<p><b>(交通、貿易、等)</b> 此等の島々は、多くは天然の河流と、沿海の水路あるのみにして、内地の交通法未開けずと雖、唯りジャバ、島のみは然らず、其重要な都府は、長道を以て連絡し、車</p>

貿易	<p>輪は水牛を以て引かしむ。又數百哩の鐵道あり、郵便、電信の便利少からず。</p>
開港	<p>外國貿易廣く行はれ、隣島との通商、亦頗盛にして、漁船の往來甚繁く、諸島の產物は、大半本島の港市を經過せざるはなし。港市の最盛なるは、ジャバ、島のバテラ、にして、人口凡十萬(其中支那人二萬六千)あり。其他は同島のスーラビヤ(人口十二萬餘)、ボルネオ島の西海岸なるポンテ、アナック、スマトラ島の西岸バーダン、等とす。諸島の輸出價格は、年々凡九千萬圓にして、其品種は、砂糖、珈琲、茶、藍、煙草、錫、米、等なり。輸入品は、食品、石油、絲、鐵、金屬器、等なり。</p>
管轄	<p>此諸島中、ボルネオの三分二、ニューギニーの西部(東北部は獨立領なり)、及其他の島嶼、大抵和蘭國の領地にして、ジャバ、島のバテラ、府は、其政廳の所在なり。長官は、總督と稱し、海陸軍をも統轄せり。</p>
位置	<p><b>(位置、面積)</b> 濠太利亞細亞群島とは、濠太利亞、タスマニア、ニューギニア、三島の總稱なり。然れども、濠太利亞島は巨大にして、東西二千五百哩、南北二千哩あり、或は一大洲と看做すべきものなれば、他の二島は、之を其屬島と稱するも可なり。此一群島の面積、總計三百七十七萬四千方哩にして、人口凡三百八十八萬あり。</p>
面積	

(二) 濠太利亞細亞群島 第十號地圖參照



位置、等

第一濠太利亞 濠太利亞は、東印度諸島の正南に位し、東は太平洋に、西は印度洋に面する、一大陸地にして、其大さ歐羅巴の五分四に近し。其南部は、日本の九州、四國、本土と其緯度(南半球)を同ふし、又其中央を過ぐる經度線は、東經百二十五度線にして、我國の神戸、大阪邊の西南に當れり。全地を區劃して、クインズランド、ニューサウスウェールズ、ヴィクトリア、南濠太利亞、西濠太利亞の五部となす。

北岸

(沿海) 此大地は、其周圍殆八千哩あれども、海岸の彎曲、出入、極めて乏しく、唯北海岸に一大灣を有するのみ。此北岸の灣は、カルベンテリアと稱し、東はヨルク岬半島を以て限り、北はニューギニー島と相對し、同島との間をアララフ海とす、又其西をテームル海と稱し、其南岸にヴァンデイメンの良灣、及クイン水道、キング灣あり。

南岸

西南の岬は、ローヴィンと名く、南海岸は一大緩灣を成し、其沿岸一千二百哩の間、河流の吐口一もこれなし、蓋其内地盆の如く凹窪にして、海岸高ければなり、此大灣を大濠太利亞灣と名く、其東に、數灣あり、就中ポルトフィリップ灣内に、著名なるメルボーン港あり。灣南の島は、即タスマニアにして、其間にバス海峡を挾めり。

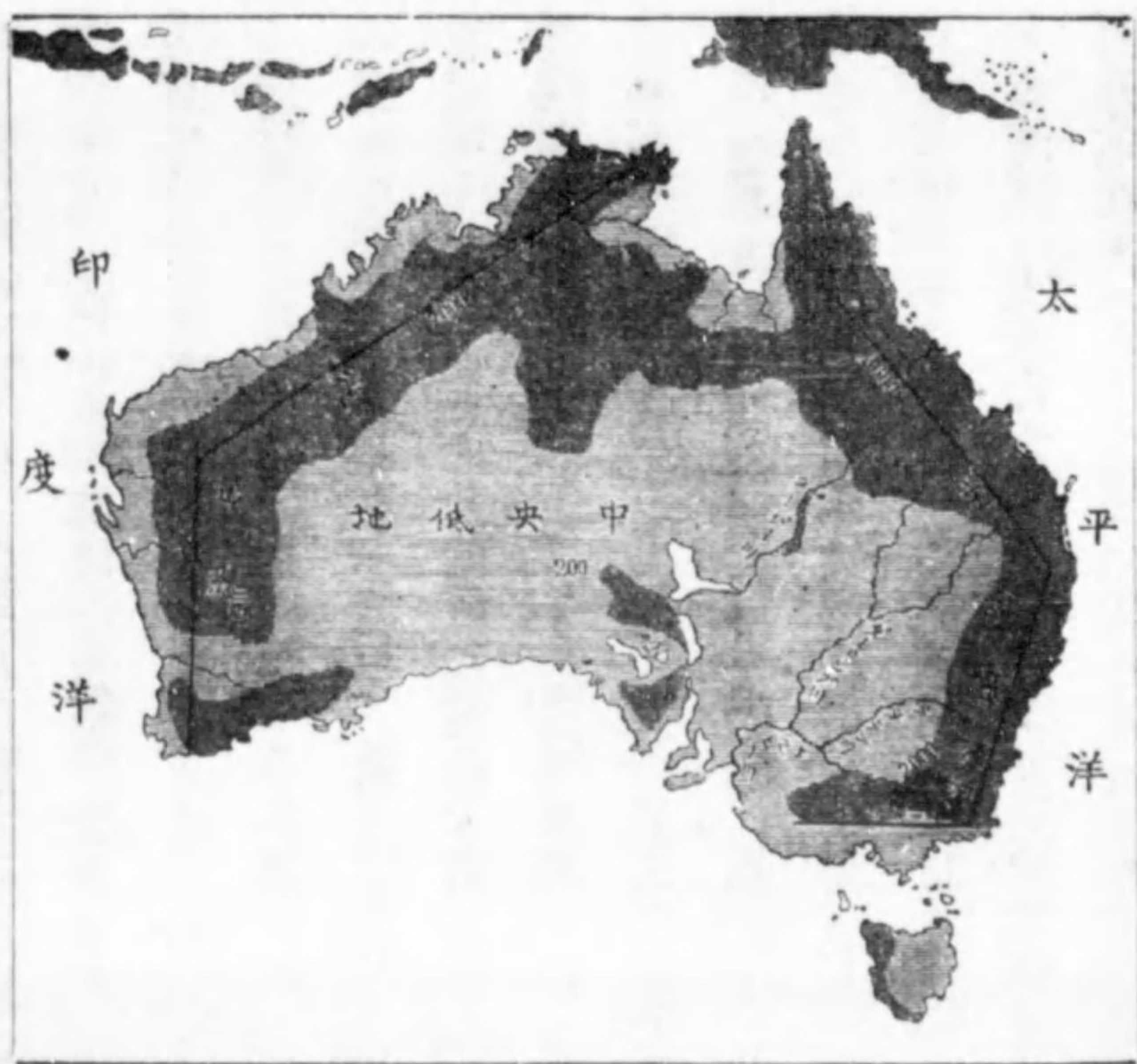
東岸

東海岸は、本島最高の山脈を負ひ、斷崖、絶壁多く、殊に其北部は、沿海に大珊瑚礁を繞らし、航海の危険少からず、故に、ニューギニー島との間を、珊瑚海と名けり。東岸中名ある港灣は、シドニー港、モールトン灣のプリズベーン港、ヘルベール灣、等とす。珊瑚海の西ヨルク岬と、ニューギニー港の間は、トールス海峡にして、水底淺し。

地貌

(地貌) 本島の内地は、其地勢恰も砂岩の大皿に似て、周邊隆く、内部窪み、灌水は多く、淺湖に輻輳し、其湖は口なきを以て鹹水なり、南海岸の一千二百哩間に、一の河口なきは、即是れが爲めなり、然れども、其他の處に於ては、其周邊の隆起帶、或は海岸より五十哩、若くは二百哩の内地にあり、隨て河流の海に注ぐものなきに非らず。此の如く、本洲の地形、皿の如くなれども、其地盤は、概して低からず、一大高原を成し、草原、沙漠、茫々として相連り、其五分の四は、無益の荒地なりと云ふ。

山脉



濠太利亞大洲の山脉及平原 (示す数字の地帯は等積)

東西兩岸に沿ふて、山脉蜿蜒たり、東岸の山脉は、南はヴィクトリア部の西南境岸より、海岸に沿ひつゝ、北端ヨルク岬に至るまで、綿々絶へず、濠洲グラムピアン山脉、濠洲アルプス山脉、

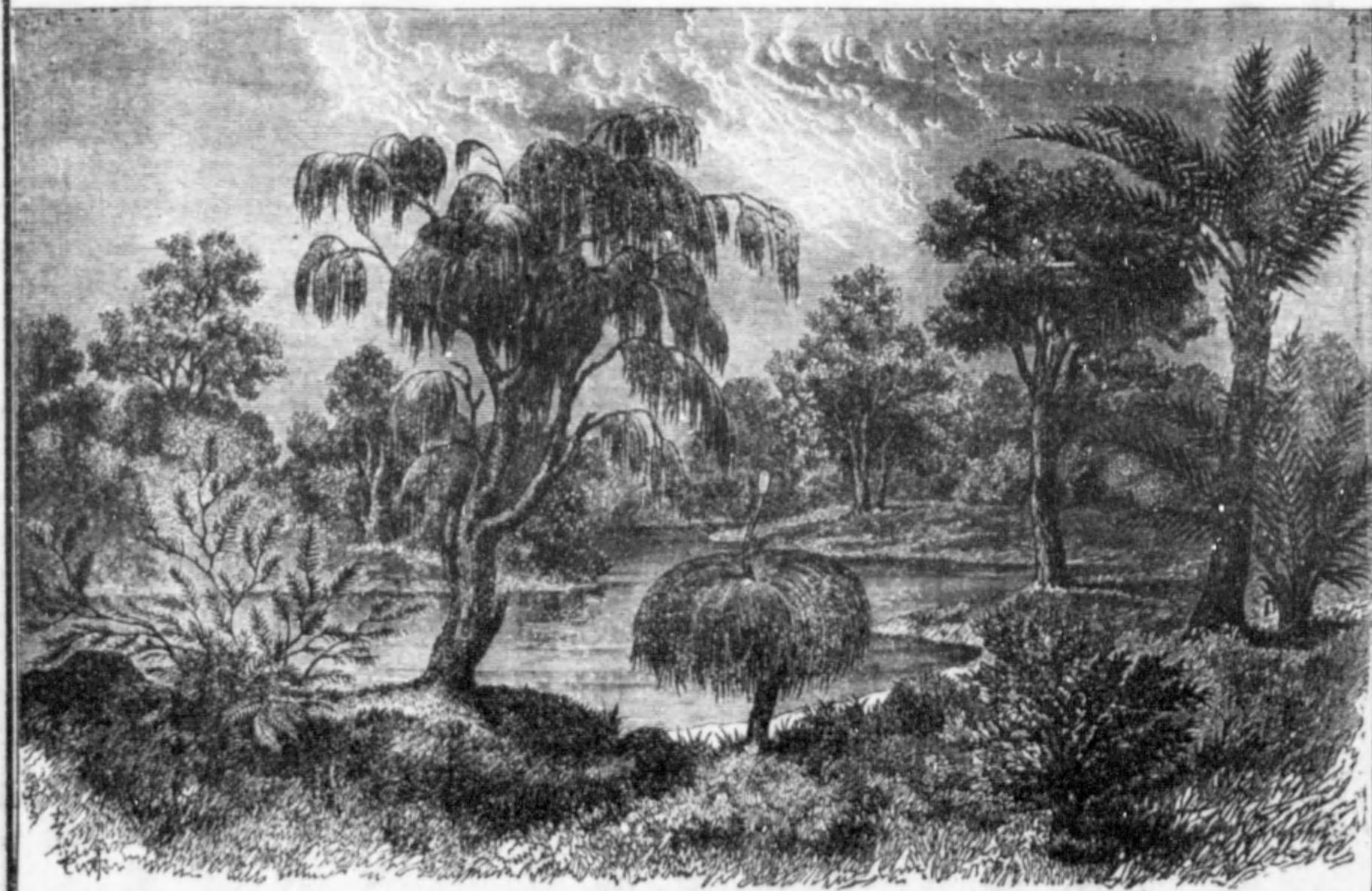
藍嶺山脉、リッダーブール連山、等、到る處其名を異にすれども、要するに方正の一山系を成し、長一千七百哩、平均高一千五百呎あり、其中の高峯は、ヴィクトリアのホットハム山、ニュー、サ



ウス、ウエルス、のコーシアスコにして、概して日本の陸奥山脉（註）の高度なり、然れども或は四時雪を戴き、且氷河を有するものあり。西岸の山脉は、甚低卑にして、高さ一、二千呎に過ぎず。

**(河湖)** 東岸山脉の東に落つる川流は、其水道短く、且急なるを以て、航行に適せず。然れども、其西側に流る諸流は、之に反せり。ムルレー河は、本洲の最大河にして、長一千百哩あり、其大半は、毎年八ヶ月間、船を行るべし。然れども、惜かな、其河水は南岸の淺湖アレキサンドリナに注くが故、適當の海口を有せず。支流の大なるは、ダーリング河とす。

本洲は、旱魃甚しきを以て、其河流涸れて、航舟に不便なると少からざれども、



アシカア ナリアスカ ーリツスラガ スダブリカーユ スアミザ  
物 植 亞 利 太 濠

河

湖

氣候

植物

東北氣候風の地方は、雨量最饒れば河水多し。其氣候風の及ぶ地は、東海岸に於て、北よりプリズペーン灣の邊まで、西海岸に於て、僅にキング灣の邊までとす。故にカルペンテリア灣岸一百哩の間に注く河流は、東岸全軀の諸流よりも大にして、且多し。其河流の重なるを、アルベアト、フリンデルス、ミッチェルといふ。

西北岸の重要な水流は、ヴィクトリア河、フットロイ河にして、其中ヴィクトリアは、河床深く、往々三百呎の河峽を成し、河口大にして、大船を容るべし。又西岸には、ムールチヅン河、等あり。湖の大なるは、南濠洲のアイル湖（デアアマンティーナ、バルクー、の兩大河之に入る）、トレンス湖、ゲイルドナー湖、アマデウス湖、等なり。實に本洲の短所は、河湖乏しくして、内地の水路、交通に不便なるとこれなり。

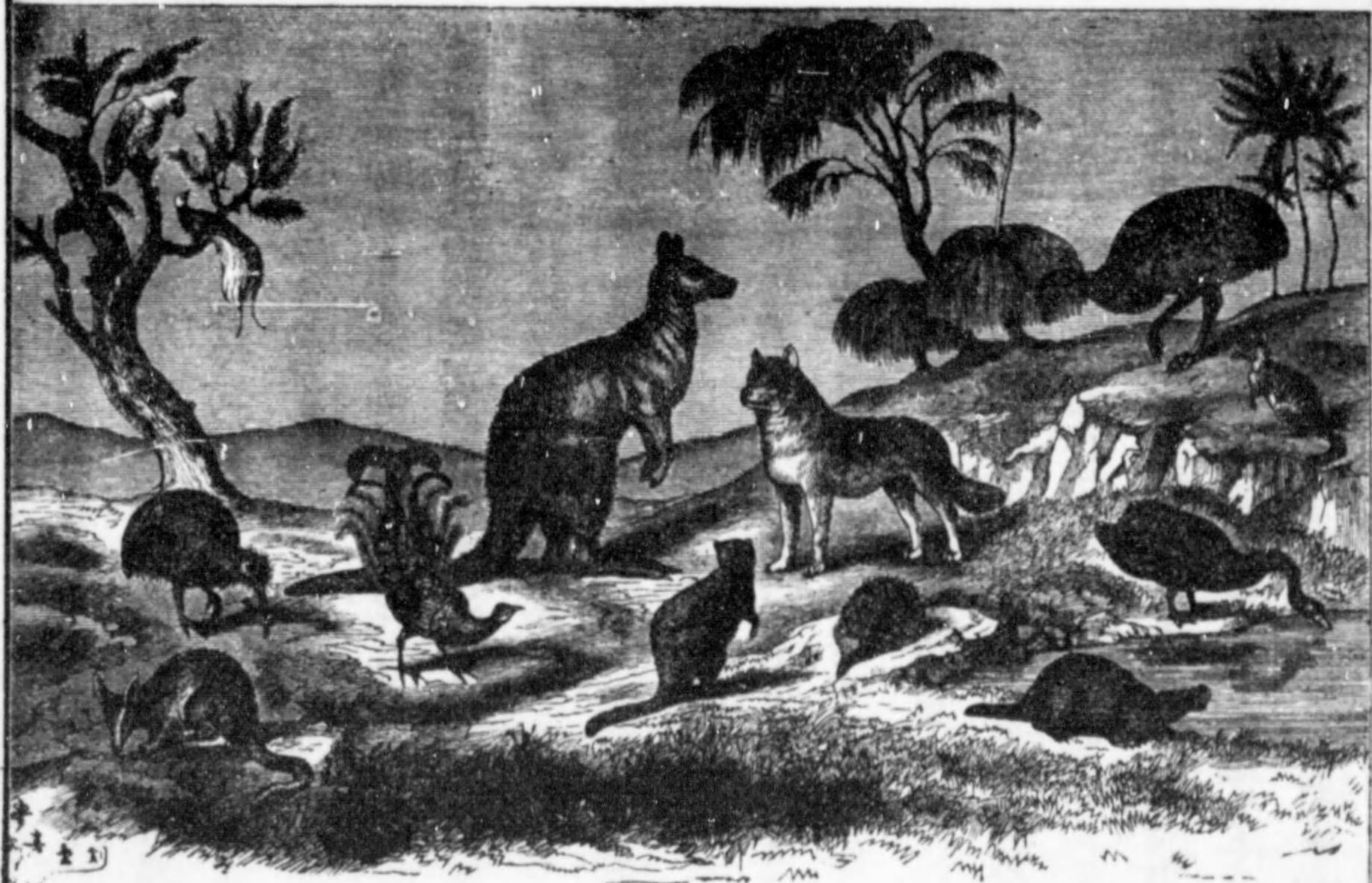
**(氣候)** 本島は、土地廣大なれども、各地の氣候差等甚しからず、但雨量は、海岸と内地とにより、大に多少あり。北部は熱帶中に在るを以て、南亞弗利加の同緯度の地に類し、夏（北半球の冬）は酷熱にして、冬は温暖なり。

ニューサウスウエルスの海岸シドニー府は、年平均十六度にして、我九州島の南部と粗同様なり、然れども、其海岸山脉を踰へて、内地に入れば、樹蔭に於て尙三十七度以上の炎暑を感ずるとあり。又雨量は、東北部に最多く、東岸及東南海岸の山岳近傍も、降雨寡からずと雖、内地は水濕甚乏しく、旱魃の害を受くると屢なり。要するに東部と東南部は、氣候開明人に適せり。**(生物)** 森林植物は、主として常綠樹にして、木葉密ならず、又樹木密叢せず。護謨樹、金



動物

人民



鷓鴣 スグツリテプア 鳥樂極 ドーバアイラ ールガンカ ナドキエ 犬野 ユミエ 獸蟻食蟻  
トーグデンバ トツラールガンカ スカンリソニルオ 鱒黒

物 動 亞 利 太 濠

合歡、其他巨大の草本は、此地固有の植物にして、護謨樹の如きは、高さ三百呎に達する者あり。菓實は多からず、原野の草は、毛氈の如く連続密生せず。

動物も、植物の如く、一種奇怪なるものあり、カンガルー(袋囊獸)、ウナムハット(同上其状狸に似たり)、ナルニソリンカス(形鴨の如し)は、最奇異なり。此他珍奇の禽獸少からず、又家畜類は歐洲より移植したる者、能く蕃殖せり。

(人民) 本洲の人口は、凡三百二十三万あり、其過半は歐洲人の子孫にして、土人、即黒人は、其數五六万に過ぎざるべし。土人は、頭髮薄くして長く、四肢細長にして、容貌猥惡な

り。性愚鈍にして、文明の事業に適せず、故に遂に其種族を絶つに至るべし。往時は、支那人多かりしが、歐洲人之を厭ひ、移住支那人に重税を課してより、漸次減少し、今は僅に三万人許なりといふ。

(都府) 今著名の都府を記するに當り、併せて各部の事をも記載すべし。

都府 プリスベ  
クインズランドは、本洲の東北部を占め、カルベンテリア灣半は此部に屬せり。東部は、高原にして、綠草茂り、牧場に適せり。人口四十万餘あり、日本人の此に在留する者殆九百人とす。其首府をプリズベーンと稱す、プリズベーン河岸に在り、河口を距つると二十五哩、其上流更に二十五哩間は、能く汽船を通すべし、人口五万餘なり。

府 シドニー  
ニースウスウエルスは、本洲中最舊の殖民地にして、當初は英吉利の罪人を移住せしめたり。東岸山脉の西側は、彼の最大河ムルレー河の水域にして、一歳八ヶ月間は、交通の便利少からず。又最良の牧場、茫々として相連なり、又煤田多し、人口百十三万あり、日本人二十九人在留す。首府シドニーは、本洲最舊の都府にして、前はジャクソン港に臨み、後は藍嶺の蒼色を負ひ、氣候溫和にして、世界中、最天恵に富める都府の一に算ふべし、人口三十八万あり、貿易盛なり。

メルボーン府  
ヴィクトリアは、其面積八万七千餘方哩にして、本洲の最小殖民地なり、然れども、人口は百十四万餘ありて、第二に位せり。是れ、其東南岸に山岳多きがため、雨量多く、氣候佳良なるのみならず、金鑛に富むと、非常なるの致す所にして、其繁昌他州に優れり。南岸のメルボーン



アラビヤ  
I 府

府は、首都にして、四方船舶の出入織るが如く、通商盛なり。人口四十九万を有し、本洲最大の都府なり、又南半球中、之に勝るの都府なし。日本人の、此に在留する者數十人ありといふ。南濠太利亞は、中央に位し、本洲を南北に貫き、地境廣大なり。然れども、内部は、大抵荒地にして、人口三十二万餘なり、日本人十二人居る。首府アラビヤは、東南隅にあり、人口十三万あり。本部の住民は、多く此地方に住居す、蓋此邊は著名の小麥産地にして、對岸ヨルク半島には、富饒の銅坑あり。

パルス府

西濠太利亞は、西部大牀を占め、面積百六万五千方哩にして、本洲中最大の殖民地なれども、其人口は僅に四万九千餘なり。人民の住居する地方は、西南隅にして、首府パルスも亦此に在り。熱風、旱魃の害を被ると少くして、良好の牧場あり。首府の人口は、五万餘あり。又北部の山地にも耕地及牧場に適する地あり、大に將來の望を屬すべし。



シドニー港

農産

(産物) (農産) 農業及牧畜は、多く本洲の東海岸に行はる。主なる農産物は、穀物、砂糖、煙草、綿、藍、茶(ニ、イサウスウールス)にして、無花菓、椰子、橙子、レモン、等の菓實も産出す、殊に現今は、穀物の産額人民の需要に超過するに至りたれば、其輸出少からず。地價、甚廉にし

畜産

て、而して勞力高價なるか故、耕作には多く器械を使用せり。

(畜産) 本洲中、生業の最重要なるは、畜産に若くはなし、其中羊の飼養尤盛なり。歐洲に輸入する羊毛、全量の三分二は、本洲の所産にして、シドニー、メルボーンの兩府は、世界中羊毛の大市場なり。牧羊家は、往々壹人にて五十万頭を所有するものあり。其他、牛、馬も少からず、又漁業、北海岸の漁獵、及西海の眞珠採集も利益あり。眞珠採集の爲め日本人の出稼者甚多しと云ふ。(鑛産) 本洲は鑛物に富み、一切の鑛物、殆皆備はれり。殊に黄金は、産額最多量にして、世界中第二位を占め、或は時々二萬五千圓、乃至五萬圓の價值ある、天然の金塊を得たるとあり、爲めに、歐洲の移住者を誘引したると少からず。ヴァクトリアと、クインズランドは、金産地の重要なものなり。此他産出の多き鑛物は、石炭、銀、鐵、錫、銅、アンチモニー、鹽、陶土、其他、寶石類、等なり。然れども、此等は、運輸不便なるを以て、採掘未盛ならず。

鑛産

工産

(工産) 此地は、製造の原料豊富なるを以て、製造業に従事する者少なからず。工作品の重要なものは、農具、其他の器械、蠟燭、石鹼、毛布、砂糖、等にして、製皮、鋸木、醸造、蒸溜、等の工場あり。其規模の最大なるは、メルボーン、シドニー、アラビヤ、等の製造所なり。又シドニー府は、造船を以て其名高し。

交通

(交通、貿易) 本洲は、内地未開けざるを以て、交通、商業は、大抵海岸に限れり。國內長路數條あり、貨物の運送には、多く牛を使用せり。水路は、ムルレー河の外、航船の利あるもの少なし。鐵道は、大都府の間を連絡し、殊にメルボーンと、シドニー間を主要の本線とし、之よ



り各地の鑛山、牧場等に通ずる支線數多あり、其延長既に一万二千哩の上に出たり。電線は、國內は勿論、亞細亞、及歐羅巴に達する海底線あり。又海路に就て言へば、メルボーン、シドニー兩港は船舶出入多く、文明諸國との間に定期の航海あり。

外國貿易は、多く、原料の輸出にあり。世界中最良港の名ある、シドニー、メルボーンは、商賣、交通、甚廣大にして、世界各國と通商す。輸出品は、羊毛、黄金、穀物、牛、蠟燭等を重なる者とし、輸入品は、砂糖、茶、珈琲、煙草、雜貨、織物等なり。日本へは、羊毛、鉛等を輸出し、日本よりは、米、竹器、絹布等を輸入せり。

前にしたる、五個の殖民地は、各獨立して、國會を設け、各國會は上下兩院より成る。政府の長官は、英吉利帝の任命したる太守なり。次に記する、タスマニア、及ニュージールランドも、亦英吉利の領地にして、大守之を管治す。

第二・タスマニア。タスマニア島は、一名ヴァンデールメンランドと云ふ、濠洲ウイクトリアの南方に位し、幅百二十哩の海峡を隔つ。附近諸島を合せて、面積二万六千二百方哩、人口凡十五万あり。之を濠洲に比すれば、海岸は更に岩峭多く、内地は更に山岳多く、河流は更に水量多く、又森林は、深密にして、降雨の量に富み、氣候亦稍人身に適せり、生物は濠洲と同じ島中一の窪地帯あり、全島を南北に貫く、兩河此を南北に流る。首府ホーバルトは、南海岸に在り、鐵路ありて北海岸に通せり。穀物、馬鈴薯、菓實、煙草、羊、錫、石炭、鐵、黄金等の産物

貿易

政治

タスマニア

地視

ニュージールランド

地視

都府

産物

交通

貿易

あり、貿易亦盛なり。

第二・ニュージールランド。ニュージールランドは、濠洲の東南一千二百哩に位し、二大島と一小島あり。大島は、北島、南島と名く、面積は、十万四千四百餘方哩、人口六十二万餘あり。其中土人、凡四万を占む。此人種は、身丈、容貌、共に歐洲人と大なる相違なく、其勇氣は能く比敵すべし、又其多くは、開明進歩せり。

南島稍、大にして、山岳亦稍、高し、其最高峰は、一万二千三百餘呎あり。然れども、河の最長きは、北島にあり、運輸灌漑の利あり。島中火山あり。氣候は、タスマニアと同じく、濠洲と反對し、最健康に適當し、北部の温度は、平均一月は二十度、七月は十度なり。

都府、北島のオークランド(人口五万七千)、首府ウヰリントン(二万七千八百)等にして、船舶の出入多く、又鯨獵船の碇泊所たり。此島は、山谷、平原ともに、水量饒にして、農作漸く進歩し、穀類、麻、材木(松類)の生産少からず。然れども、生業の最重要なるは、畜産にして羊(千六百五十八万頭)牛、馬の蕃殖盛なり。鑛物は、黄金を首めとして、石炭、石油、等あり。

内地の交通には、二千餘哩の鐵道あり、又電信、郵便、汽船等の交通具、よく備はれり。重なる輸出品は、羊毛、皮、蠟、材木、穀物、黄金、凍肉、麻、護謨にして、輸入品は、酒類、農具、衣類等の製造品なり。



(二) ポリネシア群島 第一號地圖等参照

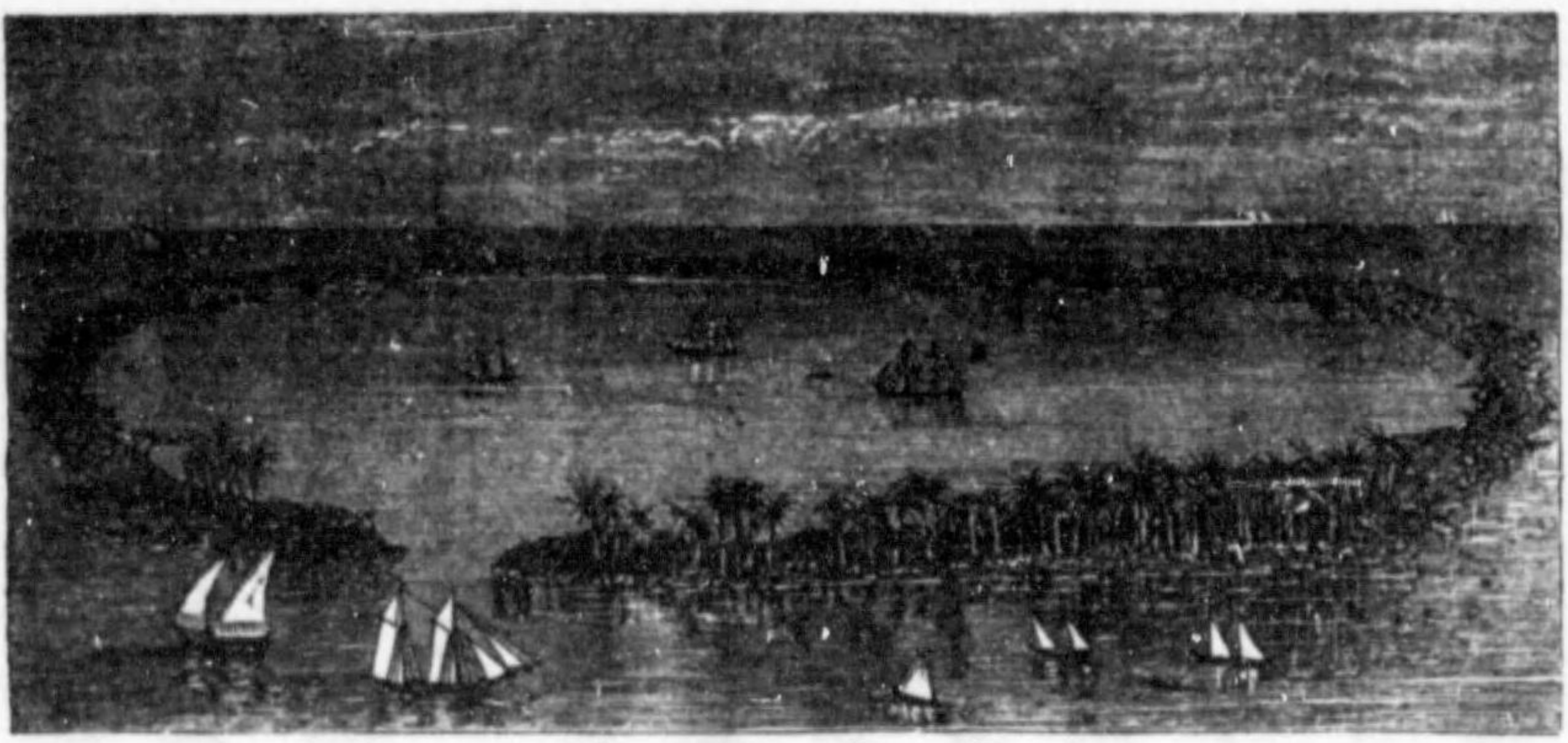
**位置等** ポリネシアとは、衆島の謂にして、太平洋中に散布する諸島の中、上に掲げざる群島の總稱なり。其位置は、赤道の南北各三十緯度の内にあり。其面積、合計凡六万方哩にして、人口凡百五十万あり、重なる島嶼は、左の如し。

- 重要の諸島**
- 一 マリーアナ諸島、一名ラードロンス諸島(西)
  - 一 カールリン諸島、
  - 一 ビスマルク諸島(獨) (ビスマルク諸島とは、舊ニューイブリン、ニューアイランド、アドミラルティ、等の新名なり)
  - 一 ソロモン諸島(獨)
  - 一 ニューカレドニア(佛)
  - 一 ロヤルティ諸島(佛)
  - 一 ニューヘブライド諸島、
  - 一 フィジー諸島(英)
  - 一 フレンドリー、一名トング諸島、
  - 一 サモア諸島、
  - 一 ソサイティ諸島(佛)
  - 一 マルケサス諸島(佛)
  - 一 サンドウィッチ諸島、
- 島嶼の種類**
- 或國の屬領たる島嶼の下には、其國名の頭字を記して、獨立島と區別す。
- (地貌等)** ポリネシア群島は、二種に區別すべし、一を火山島とし、一を珊瑚島とす。マリーアナ、ソロモン、ヘブライド、フィジー、サンドウィッチ、等の諸島は、概火山島にして、噴火の爲めに、海上に現出せし島々なり。其他の島嶼は、珊瑚島にして、珊瑚蟲の作用にて成りたるものなり。勿論珊瑚島にして、舊時の火山岩の遺存するものあり、又火山島にして、其周圍に、多少珊瑚礁の附着するものあり。

火山島の地貌

火山脈

珊瑚島の地貌



珊瑚環島

るものなり。勿論珊瑚島にして、舊時の火山岩の遺存するものあり、又火山島にして、其周圍に、多少珊瑚礁の附着するものあり。火山島は、大抵廣袤較、大にして、其大きさに比すれば、地軀高く、圓錐狀の山岳突起し、景色畫くが如く、大に航海者の眼を慰むるものあり。ニューカレドニア島の山は、八千呎に達し、フィジー島の山は、六千呎、サンドウィッチ諸島中、布哇島の山は、一万三千九百餘呎に達せり。又マリーアナ、等の諸島には、火山の噴烟するものあり、然れども、概して近年は火山の爆裂なし。我國の所謂富士帶火山脈は、此等の火山島と連絡するものなり。又地震の起ると數、なり。火山諸島は、概して地味甚豊饒にして、氣候炎熱濕氣多し。去れば植物能く繁茂し、海濱より山嶺に至るまで、綠葉蒼鬱として全地を蔽へり。珊瑚島は、更に分ちて、二種となす、一は地軀隆起して、高臺を成すもの、一は環島と稱し、其形、全圓、若くは半圓にして、中に水を湛へ、地軀甚低きもの、是れなり、今之を高珊瑚島、及低珊瑚島と名けて、之を區別すべし。低珊瑚島の環地帯は、強風の時、岩礁の上に爛碎物の積み重なりて、成りたる沙堤に過ぎざれば、其幅通例狭くして、一、二間、乃至五六町とし、而して其環地帯の小なる者は、全く閉鎖して、周圍の海と隔離し、池水の鹹味を帯びざ



火山島と  
珊瑚島の  
比較

るものあり、大なる者は環地帯の長、數哩に亘るものあり。珊瑚島の沿海は、航海危険なり。珊瑚島は、火山島に比すれば、地味低くして峯巒乏しく、地味較劣等にして、水濕少く、隨て樹木多からず、往々旱魃の患あり。

氣候

(氣候產物) 諸島嶼の散布する區域、甚廣大なるを以て、其氣候の相異なるを勿論なれども、之を概言すれば、寒暑共に甚しからず、日本の春秋の如く、氣候中和を得たり、其平均溫度は、凡二十七度にして、二十度以下に降ると稀なり、是れ海水の影響に由るものなり。然れども、フィジー島以東は、其以西よりも、氣候遙に秀美なり。西部諸島には、熱病及瘧疾流行すること多し。南部諸島は、殊に暴風の害を受くると少からず。

產物

諸島は、概して、植物產乏しからず、其重なるは、麵包菓、大薯、甘薯、タロールト、アルロウルト、鳳梨、芭蕉、ココアナットなり、殊に麵包菓は、土人の常食にして、終歲實を結べり、此他、珈琲、砂糖、綿、米、及菓實類少からず。

人民

(人民) ボリチシア諸島の大半に住居する土人は、面色褐色にして、馬來人種に屬する者多く、濠洲、及ニューギニー、並に其近接諸島に住する、黑色人種と異なれり。其操舟に熟練し、且冒險を好むと甚たしく、又性慧敏にして、高等の開明に達するを得べしと雖、白人と交際してより、人口頓に減少せり。土人は、大半基督教を奉し、西洋の衣服を喜び、又其風俗に倣ひ、近頃は文身の如き陋習、漸く跡を收めんとす。

重要の諸島

(重要の諸島)

マリーアナ群島は、一にラードロン群島と稱す、我小笠原群島の南方、凡五

カ  
ロ  
リ  
ン  
諸  
島

百哩に在り。島數凡二十個にして、其五島には、住民あり。北部の無人島は、山岳多く、高さ二千七百呎に達するものあり。地味肥沃にして、樹木繁茂す。面積、凡四百二十方哩にして、人口は八千に過ぎず、西班牙の領地なり。

ニ  
ュー  
カ  
レ  
ド  
ニ  
ア  
島

カローリン諸島は、マリーアナ群島の南、六百哩にあり、東西に延亘すると凡六百哩間、氣候溫和にして、人民は、大抵漁獵を事とす。何國にも屬せずして獨立す。

フ  
ィ  
ヂ  
ー  
諸  
島

ニューカレドニア島は、濠洲の東に在り、長二百四十哩、幅二十五哩にして、太平洋諸島の中、ニュージラランド島に次ぐの大島(面積六千方哩)なり。島中山嶺起伏し、高峯は五千三百八十呎に達す。ニッケル鑛坑を以て、著名なり。近年、我國民の、本島に出稼するもの少からず。住民凡六万三千あり、佛蘭西國の所領なり。

フ  
レ  
ン  
ド  
諸  
島

フィジー諸島は、島數三百以上にして、其凡半は住民あり。面積凡七千七百餘方哩にして、人口凡二十万あり、英吉利國に屬せり。

フ  
ィ  
ヂ  
ー  
諸  
島

フレンドリ諸島、土人凡二万、乃至三万住居す。本島は、特にココアナットの產出夥多なるを以て、時々商船の來島するとあり。

サ  
ン  
ド  
ウ  
諸  
島

ソサイテ、諸島は、火山島にして、地味高く、地味最豐饒なり。住民は、凡二万人あり、眞珠、砂糖等の交易をなす、佛蘭西國の所屬なり。

サ  
ン  
ド  
ウ  
諸  
島

サンドウ、諸島(第十一號地圖は、我國の東、凡三千四百餘哩に位し、島數凡二十餘、其中布哇と稱する島最大にして著名の活火山あり、高さ一万四千呎なり。其他の島嶼も、概して山